

科目名 Subject	マナー&ホスピタリティ Manner & Hospitality		教員名	河崎 峰子	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	◎	○	◎	◎
科目の概要	<p>マナー・ホスピタリティの基礎を学び、グローバル社会を見据え、日本人・外国人共に対応できる人材になるため、知識だけではなく、学んだことを行動に移せる実践力を培っていきます。日常生活の中からホスピタリティ溢れる事例を探し、気づきができるように習慣づけ、またマナーを通じたコミュニケーション力の大切さを認識します。そして美歳学において、マナーとホスピタリティを通して美しく歳を重ねることも意識します。</p>				
授業の目標	<p>授業を通して、己を知り、他者を理解することで、真のマナーとホスピタリティを追求し、大人になる礎を習得します。その為に、ビジネスマナーの基礎を学び、コミュニケーション力向上のため、信頼関係構築の5つのポイント（挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣い・態度）を掘り下げ理解し、社会人基礎力向上を目標とします。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>知識を習得しているかの確認の為に小テストを数回授業内で実施しますので、各授業のポイントを毎回自宅にて復習して下さい。予習は次回使用予定のプリントを配布しますので、事前にプリントを読み込んでください。また課題レポート提出を求める際は、自宅にて作成し、メール等で送付してもらいます。その際メールの送付の仕方や手紙の書き方を復習し、実践してもらいます。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	プリントを適宜配布。			
	使用設備・備品	CD, DVD、ビデオ再生機			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	<p>授業参加意欲 20%、レポート 15%、筆記試験 65%の比率で評価します。 授業内容の性質上、特に授業態度は重視します。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション マナーとホスピタリティとは何かを学ぶ。	15回で何を学んでいくかを理解する。	次回の授業で使用するプリント（挨拶と表情）を事前に読み、大まかな流れを掴む。（60分）
第2回	信頼関係の基本5原則（挨拶と表情を学ぶ）	第一印象の大切さを理解し、良い挨拶を理解する。	「身だしなみ・言葉遣い」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第3回	信頼関係の基本5原則（身だしなみ・言葉遣いを学ぶ）	身だしなみとおしゃれの違いがわかる。言葉の大切さを理解できる。	「言葉遣い」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第4回	信頼関係の基本5原則（言葉遣いを学ぶ）	敬語を理解する。	「クッション言葉」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第5回	信頼関係の基本5原則（クッション言葉を学ぶ）	クッション言葉を学び、コミュニケーション力を向上する。	「態度や立ち居振る舞い」のプリントを事前に読み、授業のポイントを復習する。
第6回	信頼関係の基本5原則（態度や立ち居振る舞いを学ぶ）	立ち姿、座り方、物の授受、指し示し、案内ができるようになる。	再度「立ち居振る舞い」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第7回	信頼関係の基本5原則（立ち居振る舞いを深く学ぶ）	よりスムーズに立ち姿、座り方、物の授受、指し示し、案内ができるようにする。	「名刺の扱い方・紹介のマナー」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第8回	信頼感の伝わるビジネス動作でコミュニケーション力を培う。	名刺の扱い方、紹介のマナーを理解し、実践してみる。	「訪問来客の対応」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第9回	信頼感の伝わるビジネス動作で会社内での対応を学ぶ。	お茶の出し方、訪問来客の対応のマナーを理解し、実践する。	「席次・国旗」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第10回	信頼感の伝わるビジネス動作としてグローバルな知識を得、ビジネスの常識に触れる。	席次、国旗等について理解する。	「社内文書・社外文書・メール」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第11回	文書について学ぶ	社内文書・社外文書・メールについて理解する。	文書を作成し、添付してメールする。（60分以上）
第12回	基本的マナーとして食事の仕方を学ぶ	洋食・和食のいただき方を知る。	文書の復習を再度行い、実践できるようにする。はし遣いを実際の食事の際に確認する。
第13回	基本的マナーとして日本文化を学ぶ	通過儀礼と日本のしきたりについて理解する。	日本のしきたりを自分でも調べ、授業の内容をより深く理解する。（60分以上）
第14回	基本的マナーとして冠婚葬祭の知識を得る	結婚・葬儀・贈答等について理解する。	冠婚葬祭の経験を自分なりに纏めてみる。祝儀袋・不祝儀袋を実際自宅でも包んでみる。（60分以上）
第15回	まとめ	15回の振り返り。大人としてマナーを習得する必要性を理解する。	15回の授業の復習を行う。（60分以上）

科目名 Subject	接客・接遇法 Service and Reception		教員名	河崎 峰子	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	◎	○	◎	◎
科目の概要	<p>お客様の気持ちを察し、深掘りすること、お客様の期待に応えること、そして「おもてなし」とはどのようなことかを理解します。また人に「おもてなし」をして喜んでいただけることが、自分の喜びとなることに気づき、仕事とは・プロフェッショナルとは、を考えていきます。加えて世代の違いも意識することで、美歳学との連動でも説いていきます。また異文化の方々にも対応できるグローバルを意識した「おもてなし」が実践できることも目指します。</p>				
授業の目標	<p>グローバル社会の中のサービス産業に携わる者として、即戦力の「おもてなし」ができ、気持ちの良いコミュニケーションを実践できることで、サービス産業の活性化と生産性向上に役立つ人材になるための知識習得と意識向上を目標とします。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>接客で重要な要素の中に「コミュニケーション力」があります。毎授業それぞれのテーマでコミュニケーション力を考えます。自宅で復習する際は、授業のポイントとなる項目をノートに纏め理解を深めて下さい。予習は、次回の授業の内容がスムーズに理解する為に、配布されたプリントを事前に読み込んでください。(各回の予習復習は概ね 60 分から 90 分を見込みますが、時間に捉われ過ぎず、理解を深めることを重視してください。)</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	必要に応じてプリントを配布します。			
	使用設備・備品	CD、DVD、ビデオ再生機。			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	<p>授業参加意欲 20%、レポート 15%、筆記試験 65%の比率で評価します。 授業内容の性質上、特に授業態度は重視します。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 接客・接客とは何かを学ぶ。	授業の進め方を周知し、この授業の全体像を把握する。	次回の「人間の欲求」プリントを読み、予習して予備知識を得る。(60分以上)
第2回	人間の欲求について学ぶ	マズロー欲求階層説について理解する。	自分の欲求は何か強いのか纏めてみる。「顧客満足」のプリントを事前に読み予習する。
第3回	接客を理解し、顧客満足について学ぶ。	CS・ES・CDを理解する。	「言葉遣い」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第4回	接客・接客の演習（言葉遣い）を学ぶ	接客に相応しい言葉遣いを事例を交えて再確認する。	「言葉遣い・敬語」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第5回	接客・接客の演習（敬語）を学ぶ	敬語を意識したロールプレイをする。	「電話対応」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第6回	電話対応を学ぶ	接客のスキルとして求められる電話対応を事例で学ぶ。	授業で習ったポイントを復習し、再度「電話対応」のプリントを読み、事例を考える。
第7回	電話対応を習得する	電話対応をロールプレイして習得する。	授業で習ったポイントを復習し、再度「電話対応」のプリントを読み、自宅でもロールプレイの練習をする。
第8回	お客様心理を考える。	事例を考え、CDとクレームになぜつながるかを討議する。(グループワーク)	授業で習ったポイントを復習し、グループワークで気付いたことを纏める。
第9回	5つのお客様心理をととは何かを学ぶ	お客様の気持ちを深掘りして考える。	授業で習ったポイントを復習し、より理解を深め、クレームの経験を纏める。
第10回	クレーム対応	クレームに対しての基本的な考え方を理解する。	授業で習ったポイントを復習し、クレームのメカニズムを理解する。「プロの5意識」のプリントを読み予習する。
第11回	プロ意識とはどのようなものがあるか学習する	プロの5意識を理解する。	授業で習ったポイントを復習し、周りでプロだと感じた人を書きまとめる。
第12回	プロとはどのような人か、事例で学ぶ	DVDを鑑賞しレポートにまとめる。	授業で習ったポイントを復習し、レポートを仕上げる。「異文化の接客」のプリントを読み予習する。
第13回	異文化接客を学ぶ	異文化の接客を演習して習得する。	授業で習ったポイントを復習し、予習としては、日本人と外国人の違いを考えておく。
第14回	異文化接客ケース研究	文化的な背景を考慮し、外国人の接客について話し合い理解する。(グループワーク)	授業で習ったポイントを復習し、グループワークで気づいたことを纏める。
第15回	まとめ	15回の授業を振り返り、理解度を確かめる。	プリントを再度見直し、15回の授業を復習する。

科目名 Subject	色彩学 Studies of Color		教員名	栗本 佳典	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	△
科目の概要	<p>美容をはじめ、デザインの現場から普段の生活の場まで、さまざまな状況で必要とされる色彩の役割や考え方について学びます。 色の分類から配色、カラーイメージなどについて学習内容の解説を行った後、実際にカラーチップやポスターカラーを使って演習を行い課題を提出します。</p>				
授業の目標	<p>演習などを通して色彩の基礎をしっかりと身につけるとともに、色に対する認識力や発想力、イメージ力を養う。さらに、幅広い色彩感覚を身につけ、美容をはじめ、さまざまな場面で必要となる色彩に対する判断力や表現力を高める。 また、課題提出時に学生と教員で相互評価を行うことにより、自己を振り返る機会を得る。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>月に一回程度、展覧会などを見に行き、作品における色彩の使用法や表現法を探ってください。また、ファッション雑誌を見たりウィンドウショッピングするときなどでも常に色を意識して色彩に対する感覚を磨いてください。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	なし			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	提出課題の理解度および完成度80%、授業態度20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	色彩検定 (A.F.T)			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	色を感じる仕組みや色と人間とのかかわりを知る。	
第2回	光と三原色	色料の三原色や光の三原色など、色を再現する方法を知る。	
第3回	補色と配色	美容のさまざまな場面で登場する補色について理解する。	色鉛筆使用
第4回	色名	色名の成立について理解を深めるとともに、オリジナルの色名を考え発想力を高める。	ポスターカラー使用
第5回	三属性とカラーシステム	正確に色を分類するための基準を知り、微妙な色の違いを見分ける力を身につける。	PCGS チャート使用
第6回	色彩のトーン	明度、彩度から生まれるトーン分類の表示方法を理解する。	トーンチャート使用
第7回	トーンイメージ	トーンによるイメージの表現力を身につける。	ポスターカラー使用
第8回	配色法①	配色の基本的な考え方を身につける。	カラーカード使用
第9回	配色法②	配色の効果や調和を利用できる力を身につける。	カラーカード使用
第10回	カラーウォッチングおよび色彩再現	さまざまな物の色を観察し作ること、色作成の力を高める。	ポスターカラー使用
第11回	対比、同化と色彩心理	色と視覚との関係を知る。また、色が人の心理に与える影響を理解する。	色鉛筆使用
第12回	イメージワードと色彩	イメージ作りに必要となる、色の表現力を身につける。	色鉛筆使用
第13回	パーソナルカラー	ベースカラーおよびパーソナルカラーの基本的な考え方を理解する。	カラーカード使用
第14回	年齢による色認識と日本の色彩文化	年齢と色認識との関係、および日本文化における色の特徴を知る。	カラーカード使用
第15回	まとめ	色彩構成を作成し表現力を高めるとともに自己の作品を解説する力を養う。	色鉛筆使用

科目名 Subject	日本文化（茶道） Traditional Art (Tea Ceremony)		教員名	河原 宗孝	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	○	○	◎
科目の概要	<p>社会で活躍するためには、専門的な知識や技術の習得のみならず、洗練された接客マナーが求められます。各回とも講義と実技（点前の稽古）呈茶を組み入れ、裏千家茶道の盆略点前を学習し、最後には自分で点てられるようにします。尚、呈茶には、毎回季節を感じるお菓子とお茶を頂きます。</p>				
授業の目標	<p>「道・学・実」を三位一体で学ぶことを通し、美の裏方としての人間形成が図れる。中でも「和敬静寂」を学ぶことを通して、精神面の成長が図れる。 東京オリンピック開催を控え、おもてなしの心を学ぶとともに、お茶の正しい点て方と頂き方を習得できる。</p>				
時間外学習 （予習・復習）	<p>裏千家の盆略点前を学習するうえで、各回の復習は非常に重要なものとなります。お茶の正しい頂き方、帛紗捌きの予習復習等、毎回1時間程度の学習が必要です。授業以上を望んでいる学生には部活動として無料で本校茶室愛治庵において指導しています。</p>				
教科書・教材	教科書	『茶の湯で学ぶ美』 河原宗孝 著 （株）淡交社			
	教材	帛紗セット			
	使用設備・備品	盆略点前に必要なお道具、和室、愛治庵			
	参考文献	月刊誌『淡交』『なごみ』ビデオ『利休の茶』『15代鵬雲斎大宗匠とジエーン先生の対談』『茶の湯自在』			
評価方法	筆記試験（50%）実技試験（15%）受講態度（35%）の総合評価				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	名札、腰紐、白いソックス、髪を束ねるゴムの用意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	茶道裏千家許状『初級』。 時間外学習を受講した学生で希望者には『中級』の許状取得可。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	講義 入門の心得、教材の配布、許状説明 実技 お菓子お茶の頂き方、お茶の点て方、自服	お菓子とお茶の頂き方を覚えることができる。	日本のマナーを覚える。 お茶の正しい頂き方の復習
第2回	講義 禅語「喫茶去」の読み方と意味 実技 床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方	茶道と関係のある禅語を理解する。① 「喫茶去」の読み方と意味を覚える。	禅語「喫茶去」の読み方と意味。 床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方の復習
第3回	お茶室の勉強と感想文を書く、呈茶	茶室の由来、名前、特徴を覚える。	本物の茶室を見て、触れ、日本人であることを再確認する。和室での正しいお茶の頂き方を復習
第4回	講義 季節を感じるとは 実技 割稽古(1) 帛紗の扱い、帛紗さばき	季節の移り変わりを知り、日本の四季を実感できる。①	帛紗の扱い、帛紗捌きの復習正しいお茶の頂き方の復習
第5回	講義 ビデオ『利休の茶』『15代鵬雲斎大宗匠とジェーン先生の対談』 実技 自服	千利休の精神を理解できる。 愛治庵の由来を知る。	正しいお茶の頂き方、帛紗の扱い、帛紗捌きの復習
第6回	講義 炉、風炉、立礼について 実技 割稽古(2) 茶巾のたたみ方、茶碗の拭き方、茶筌通し、自服	季節の移り変わりを知り、日本の四季を実感できる。②	正しいお茶の頂き方、帛紗の扱い、帛紗捌きの復習
第7回	講義 お客様に好かれる方法、接客マナー 実技 割稽古(3) 棗、茶杓について	理想とするエステティシャン観を養える。 プロの自覚を持てるようになる。①	帛紗さばき、棗と茶杓の清め方の復習
第8回	講義 お客様が求める美容師とは、和敬静寂、歴代家元 (1) 実技 盆略点前(1)、友達に点てる	理想とするエステティシャン観を養える。プロの自覚を持てるようになる② 千利休の精神を理解できる。	盆略点前の復習
第9回	講義 茶室における髪型、着付け、メイク 実技 盆略点前(2)、友達に点てる	理想とするエステティシャン観を養える。 プロの自覚を持てるようになる。③	盆略点前の配置図を覚える
第10回	講義 「利休遺偈」の読み方と意味 実技 盆略点前(3)、友達に点てる	「利休遺偈」の読み方と意味を覚える。	盆略点前の復習
第11回	講義 禅語「歲月不待人」の読み方と意味、歴代家元(2) 実技 盆略点前(4)、友達に点てる	「歲月不待人」の読み方と意味を覚える。 茶道と関係のある禅語を理解できるようになる。②	盆略点前の復習
第12回	講義 ビデオ『茶の湯自在』 実技 自服	ビデオを使いお茶を学べる。ビデオを使いお茶事のお客ぶりを体感できる。	お茶事の流れの復習
第13回	お茶会に招かれたお客様の勉強、呈茶	お茶会に招かれた時のマナーを覚え、礼法におけるお客としての心構えを学ぶことで接客力向上が図れる	和室でのマナー、正しいお茶の頂き方の復習
第14回	講義 利休七則、歴代家元(3)、茶の湯英会話、茶の用語抄 実技 盆略点前(5)、友達に点てる	海外で活躍する場合を考え、英語による茶会を実践し習得できる。	利休七則を覚える 盆略点前の復習
第15回	講義 禅語「一期一会」、総復習 実技 帛紗捌き、棗、茶杓の清め方、友達に点てる	茶道と関係のある禅語を理解できるようになる。③	「一期一会」の読み方と意味を覚える。 正しいお茶の頂き方、帛紗捌き、棗・茶杓の清め方の予習



科目名 Subject	日本文化（華道） Traditional Art (Flower Arrangement)		教員名	松崎 光暉	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	人間と自然に於ける共存の正しい在り方を華道という造形芸術で学び、それを再構築することにより日本の伝統文化を継承する。				
授業の目標	一般教養としての日本の華道史、及び生活芸術としての華道を学び、その華道の精神と技術の習得を通して美意識を高めることができる。それと共に、自然との共生を大切にする華道精神を理解することで、人間同士の共生を改めて考え、コミュニケーション能力やホスピタリティ精神の必要性を実感できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業で学ぶ構成図や構成表の復習、花芸作品の再構成を行う				
教科書・教材	教科書	花芸 安達流 演習ノート 「水」、補足のプリント配布			
	教材	演習ノート、筆記道具、色鉛筆、タオル、ノリ			
	使用設備・備品	花器、花鉢、剣山、花盆、花巾、色鉛筆			
	参考文献	花芸安達流安達瞳子著書全書			
評価方法	平常点20%、毎回の課題点30%、試験50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と関連する資格	資格名	花芸 安達流 入会「水」の終了証			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 花寄せ	華道の授業に臨む心構えを学び、同時に初めて花芸作品の制作ができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第2回	花芸作品を制作するにあたってのプロセスの大切さを学ぶ	結果を出すことの大切さと同時にそのプロセスの大切さを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第3回	その季節の行事に合わせ、歴史や文化を学び、花芸作品を制作する	日本古来の文化や風習を学ぶことで、伝承美を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第4回	花芸作品を制作するために必要な構成図を理解する	正面図と平面図の必要性と見方を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第5回	花材の自然な姿を尊重し作品を生けることを学ぶ	人と自然との共生を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第6回	花芸作品の美的バランスを学ぶ	造形空間について、日本と西洋の美的感覚の違いや、具体的なバランスを学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第7回	安達流の構成三原則の一つ、〈五態〉を学ぶ	生態学、形態学から、その形状に合った態を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第8回	安達流の構成三原則の一つ、〈文法〉を学ぶ	花芸作品を作成するにあたり、花材に役を定めることを理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第9回	花道史と花ばさみの扱いを学ぶ	華道の歴史を歴史的背景と共に理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第10回	植物の生態について学ぶ	植物の生理現象である水揚げの仕組みなどを学び、植物の管理法を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第11回	文法の授業で学んだ〈主要三格〉の力関係の比率を学ぶ	主要三格の力関係〈コンポジション〉における美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第12回	花材と花器のバランスを学ぶ	前回までの授業で学んだ花材間のバランスに加え、花器との全体のバランスを学び会得できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第13回	安達流の構成三原則の一つ、〈原型〉を学ぶ	〈原型〉を理解することで、論理的に花芸作品の美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第14回	複数人で花芸作品を制作する〈連花の演習〉	〈連歌〉の心を受け〈連花〉を生けることで、共同作業の美的効果を学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第15回	授業の総復習と花束制作	華道の授業で会得した美的感覚、論理的演習法、自然や人、社会との共生のありかたを再考し、理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習

科目名 Subject	ゼミナール I Seminar I		教員名	ゼミ担当	
開講年次	1	開講時期	通年	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>髪・顔・装い・精神美・健康美という建学の精神の理解の下に、キャリア支援教育を実施します。具体的には、一人の人間として、大人として、あるいは社会人としてのマナーや振る舞いを学びながら、自己理解と自己分析を進め、自分自身の将来像を思い描き、それを実現させるためには、いま何をすべきか、どうしたらよいかということを考えます。</p>				
授業の目標	<p>短大生として必要な考え方、能力を養う。 将来の社会人として必要な能力を知り、養う。 美容業界を始め、さまざまな業界を知り、その業界で活躍するために準備をする。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>ポートフォリオの作成や業界研究 就職活動に向けての動きは授業内では収まりません。 時間外でも業界研究、自己分析などは常に行うこと。 単位取得の目的以外に1週間では、120分程度の分析は必要です。</p>				
教科書・教材	教科書	本学ゼミテキスト			
	教材	本学ゼミテキスト			
	使用設備・備品	業界研究用PC他			
	参考文献				
評価方法	授業や課題への取組み姿勢等				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	15回分の内容を把握し、その意味を理解する	オリエンテーション ゼミの位置づけと授業の全体像を把握する。	自己紹介
第2回	アイスブレイク	仲間を理解し、伝えたいことを表現する力をつける	ゼミの仲間との関係構築
第3回	就職活動の全体像を把握する	短大生活における就職活動の流れについて知る	就活についての現実を知る
第4回	履歴書とは何か	履歴書の必要性を学ぶ	履歴書の一部を
第5回	ポートフォリオとは何か	普段の授業や学外の体験をポートフォリオにしてみる。	自分の強みをみつけ、記録に残すことの重要性を知る
第6回	業界研究①	業界の種類や違いを知る	
第7回	業界研究②	自分が「好き」な企業、ブランドについて考え「志望」に変える	将来行きたい企業・店舗・ブランドについて考える
第8回	業界研究③	現場調査の方法について学ぶ	調査対象の選択や準備の方法について知る
第9回	業界研究④	現場調査発表 他の人の体験からも学ぶ	
第10回	履歴書の書き方①	文章の書き方を学ぶ	趣味特技を書いてみる
第11回	履歴書の書き方②	自分史年表を作り、見えていない自分を知る。	自分史年表を作成してみる
第12回	履歴書の書き方③	自分の強みをみつけ、知る。	今までの人生経験を整理し、自分の長所や特徴をつかむ
第13回	履歴書の書き方④	自己PRを考え書くことが出来るようになる。	自己PRを書いてみる
第14回	面接の基本	口頭発表の方法を学ぶ	人前で発表する
第15回	夏休みの過ごし方	夏休みの目標と計画を自ら立てることの重要性を知る。	外部講師によるセミナー

科目名 Subject	ゼミナールⅡ Seminar II		教員名	ゼミ担当	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>将来像をより具体的に展望し、その将来像を具現化するために必要な課題を明らかにして、その課題に取り組みます。就職を目指す学生にとっては、それぞれの学生の履歴書やエントリーシート作成の支援、面接技法の支援等を行います。</p>				
授業の目標	<p>自己を知り、将来の社会人としての準備をする。 自己分析を通して自己を知り、希望の仕事に就くために必要なことを身に付ける。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>業界研究、自己分析</p>				
教科書・教材	教科書	本学ゼミテキスト			
	教材	本学ゼミテキスト			
	使用設備・備品	業界研究用PC他			
	参考文献				
評価方法	<p>授業や課題への取組み姿勢等</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>なし</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	15回分の内容を把握し、その意味を理解する	オリエンテーション ゼミの位置づけと授業の全体像を把握する。	自己紹介
第2回	マナー	人の話の聞き方のマナーを学ぶ	
第3回	インターンシップ報告会	仲間のインターンシップの体験を共有する	就職への意識を高める
第4回	業界研究①	OB・OGの話を聴き業界を知る	進路を考える機会を作る
第5回	業界研究②	学内の先輩達の話聴き業界を知る	進路を考える機会を作る
第6回	ES・履歴書の書き方「志望動機」	進路を意識して文章を書くことが出来るようになる。	志望動機を書く
第7回	履歴書のブラッシュアップ	先生から受けたアドバイスを元に自己表現力を高める。	志望動機を完成させる履歴書の完成
第8回	進路別講座（マイナビ登録他）	就職活動の準備としてマイナビに登録する	就職への意識を高める
第9回	就職活動での身だしなみ	就職活動の身だしなみを学ぶ	就職活動のマナーを知る
第10回	面接対策①	発声トレーニングと色々な言葉の表現の方法を学ぶ	人前で話す
第11回	面接対策②	面接の基本を学ぶ	面接の種類と方法を知る
第12回	面接対策③	模擬面接を行うことで自分の良いところ悪いところを知る。	面接練習を行う (個人・集団)
第13回	面接対策④	グループディスカッションのポイントを知る。	面接練習を行う (グループディスカッション)
第14回	春休みの過ごし方	春休みの目標と計画を立てる	外部講師によるセミナー
第15回	春休みの過ごし方	企業のピックアップをし、研究する	「足を動かす」ことを主題に、考える

科目名 Subject	情報リテラシー Information Literacy		教員名	大久保 賢一	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	○	△
科目の概要	<p>情報通信技術は、今日では、社会の重要なインフラとなっている。当科目では、社会に出てから情報技術を活用し、活躍できるように基礎と応用法を学んでいく。社会人として必要となる、文書作成、表計算、プレゼンテーション・ソフトなどを実践的に学んでいく。情報技術の知識を深め、スキルを磨いていく。情報技術を活用することで、課題の発見と解決力が身につき、コミュニケーション能力も高まっていく。</p>				
授業の目標	<p>社会人として必須となる情報技術を学び、その応用力を高めていく。単に、アプリケーション・ソフトを使いこなすだけでなく、楽しみながら、創造性を発揮できるようになる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>インターネット検索等により、毎回の授業のテーマを把握し、予習しておくこと。また、授業で学んだ技法や知識をすぐに復習し、自分のものとしていくこと。 トータル 900 分</p>				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	なし			
	使用設備・備品	パソコン教室			
	参考文献	なし			
評価方法	平常点 30%、レポート 30%、課題 40%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に課題にチャレンジして、失敗を恐れずにパソコン操作に取り組むこと。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション。wordの基礎を学ぶ。	wordを、楽しみながら使いこなせるようになる。	
第2回	wordを活用して、顧客向けの「案内状」を作成する。作図の方法も学ぶ。	デザイン性を考慮した文書作成ができるようになる。	
第3回	インターネットで「著作権」について調べ、wordでその報告書を作成する。	情報検索の方法を学び、報告書の作成ができる。	
第4回	wordで、ファッションショーのチラシを作成する。	コミュニケーションの対象者を考慮した文書の作成ができる。	
第5回	wordで、タテ組みの文書を作成する。表の作成方法も学ぶ。	wordを実践的に活用することができる。	
第6回	excelの基礎知識を学ぶ。表を作成する。	excelの仕組みを理解することができる。	
第7回	excelを使って、四則計算をする。	excelの基礎的な使い方をマスターすることができる。	
第8回	excelでグラフを作成する。	思い通りにグラフを作ることができるようになる。	
第9回	excelで、複雑な表とグラフを作成する。	excelの実践的な活用ができる。	
第10回	excelで複合グラフを作成する。人口ピラミッドを作成する。	excelを活用したコミュニケーション能力が身につく。	
第11回	powerpointの基礎的な操作方法を学ぶ。	powerpointの特徴を理解することができる。	
第12回	powerpointで、資料を作成する。	powerpointの実践的な活用方法が分る。	
第13回	powerpointの動画的な使い方を学ぶ。	powerpointのアニメーション効果を使いこなすことができる。	
第14回	powerpointで、wedding movieを作成する。	目的に合わせて、エンターテイメント性を含んだ、powerpointの演出ができる。	
第15回	powerpointで、表の挿入やグラフの作成方法を学ぶ。	説得力のあるプレゼンテーション資料が作成できる。	



科目名 Subject	アロマテラピー Aromatherapy		教員名	青木和美	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	△	○	△	○
科目の概要	<p>人は心地良い香りを嗅ぐとき、気持ちが落ち着き、リラックスしたり、意欲的になったりします。このような効果を私たちを取り巻く環境に応用しているのがアロマテラピーです。現在、このアロマテラピーは美容やサービス業、医療、福祉そして個人のホームケアなど様々な分野で取り入れられています。</p> <p>ここでは、アロマスプレーやミツロウクリーム作りなどの実習を楽しみながら、実践できるアロマテラピーの知識を身につけます。そして自らの美容や健康維持のために、また美容・エステティック業界で活用できるようにアプローチします。</p>				
授業の目標	<p>アロマテラピーは、ホリスティックな観点から行う自然療法です。</p> <p>①個人のリラクゼーションやリフレッシュに役立てる。 ②美と健康を増進し、身体や精神の恒常性の維持と促進を図る。 ③身体や精神の不調を改善し正常な健康を取り戻す。 これら3点を目的に、実習を交えながら、基本的知識を身につけ、個人の日常生活、そして美容サービスとして活用できる技術を身に付けることができる。社団法人アロマ環境協会のアロマテラピー検定1・2級試験に合格できる程度の能力を習得できる。また、アロマテラピーを生かせる課題を発見し、調査・研究・発表することを通し、研究心を養い、あらゆる課題に自信を持って対応できる、プレゼンテーション能力を開発する。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>(1)宿題：1～10章 ワークブックの問題を解き、自分の理解度を知り、復習することにより検定試験に備えます。毎回30分くらいの復習が必要です。(2)各実習で作った作品を使用・実践し、実習記録を作成する。(3)グループによる調査研究発表の課題について、調査・研究・発表資料作成・及び発表の報告書の作成。トータルで8時間以上の時間を要します。</p>				
教科書・教材	教科書	アロマテラピー検定公式テキスト1級・監修亀岡弘他・AEA J・2015年改訂、教員作成プリントを適宜配布			
	教材	実習教材を適宜配布			
	使用設備・備品	授業内容により、講義室と実習室を使用。パワーポイント・DVD使用			
	参考文献	アロマテラピー検定公式テキスト2級 各種アロマテラピー専門書			
評価方法	1. 授業態度 10%                      2. 課題発表 40%                      3. 期末試験 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>調査・研究費用が100～500円程度必要です。</p> <p>検定試験は11月に行われますが、必須ではありません(別途受験料6,480円、香りキット代等が掛ります)。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	公益社団法人アロマ環境協会 アロマテラピー検定2級1級試験に合格できる程度の学力を履修します。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション アロマテラピー概論 実習：五感に注目してみる	アロマテラピーの意味や定義を理解し、説明できる。	宿題：ワークブック1 (30分程度)
第2回	アロマテラピー利用法の基礎 実習：香りのイメージレッスン	アロマテラピーを利用する際の注意事項を理解し、実践できる。	宿題：ワークブック5 (30分程度)
第3回	精油の基礎知識とその作用 実習：バスソルトを作る	精油の定義と精油の作用、精油の抽出方法を知る。	宿題：ワークブック3 実習記録作成 (30分程度)
第4回	アロマテラピーの基材と用具の使用法 実習：アロマ重曹。	アロマテラピーを実践するために必要な基材と用具の知識を理解、的確に使用できる。	宿題：ワークブック6 実習記録 (30分程度)
第5回	アロマテラピーの歴史 実習：ハンガリアンウォーターを作る。	アロマテラピーがどのように発展してきたかを知る。	宿題：ワークブック8 実習記録 (30分程度)
第6回	アロマテラピーのメカニズム 実習：ミツロウクリームを作れる。	精油の吸収経路を理解し、より適切な使用方法を選択できるようになる。	宿題：ワークブック2 実習記録 (30分程度)
第7回	精油の作用。 グループ調査研究のテーマを検討	精油の薬理作用を理解できる。「美齢学に生かすアロマテラピー」の具体的なテーマを決定し役割分担する。	★発表の為の調査・研究・試作・実験・資料作成等 (発表終了までに8時間程度を要する)
第8回	アロマテラピーと地球環境 グループミーティング	植物と地球環境の関係を理解し、実行できる環境保護を提案し実践する。話し合いを協力的に進める。	宿題：ワークブック9 (30分程度) ★
第9回	アロマテラピーと健康Ⅰ 栄養・運動・休養とアロマテラピー	健康的な生活習慣の基礎知識を踏まえ、いかにアロマテラピーを活用するかを考え実践できる。	宿題：ワークブック7-1 (30分程度) ★
第10回	アロマテラピーと健康Ⅱ アンチエイジングと整肌 実習：トリートメントオイル調合。	アンチエイジングにアロマテラピーが役立つことを理解し実践できる。	実習及び実習記録 (45分程度) ★
第11回	アロマテラピーと健康Ⅲ ライフステージとホームケア 実習：トリートメントジェル	様々な不調を予防し、健康管理に役立つアロマテラピーをアドバイスできる。	実習及び実習記録 (45分程度) ★
第12回	アロマテラピーと健康Ⅳ ストレスケア 調査研究発表の資料作成	ストレスケアに役立つルームフレグランスが作れる。発表テーマに沿った的確な資料を作れる。	宿題：ワークブック7-2 (30分程度) ★
第13回	調査研究発表	調査研究発表により、アロマの知識だけでなく、表現・プレゼンテーション能力を身につけられる。	なし
第14回	アロマテラピーの関連法規 研究報告とこれからの課題	関連法規を守り、安全なアロマテラピーを提供できる。学んだ事を振り返り、さらなる探究心を持つ。	宿題：ワークブック4・10 (90分程度)
第15回	総括	アロマテラピーのポイントを復習し検定試験1級受験に臨める学力を持てる。	なし

科目名 Subject	心理学 Psychology		教員名	五十嵐 靖博	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	△
科目の概要	<p>自分や他者を理解しエステティックや美容に適用するには、人間に共通する心のメカニズムと個々の人の個性を作り上げている心的特性を理解する必要がある。本科目ではエステティックと美容にかかわる様々な現象と日常生活の中で経験される思考や感情や行動を、心理学の諸理論をとおして説明する。美容と心の関係を心理学的研究にもとづいて考察する。</p>				
授業の目標	<p>心理学の視点から美容やコミュニケーション、ホスピタリティに関する理解を深め、現場で使えるようになる。人間に共通する心のメカニズムを理解し、その性質を踏まえたうえで実生活で活用できる。心理学の知見を美齢学に適用できる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>事前に次回の授業内容を確認し、テキストを読むこと。授業後に要点となる事項を自分の言葉で振り返ること。</p>				
教科書・教材	教科書	齊藤勇著『イラストレート心理学入門(第2版)』 誠信書房 2010			
	教材	適宜、資料を配布する			
	使用設備・備品	適宜、ビデオなど映像資料を使用する			
	参考文献	『ヒルガードの心理学(第16版)』 ブレーン出版 2015			
評価方法	次の3点を総合的に評価する。平常点 20%、ワーク 20%、試験 60%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	講義内容は難しくはないが、積極的に受講し理解しようとする姿勢が重要である。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	心の諸概念, 行動の意味, 心理学の研究法について学ぶ	心理学とは何かを説明できる	予め心とは何かを考えておくこと。授業後に自他の心観を心理学用語を用いて説明する
第2回	五感, 視覚の重要性, 目とカメラ	知覚の基本的なメカニズムを説明できる	予習として眼の構造図を理解する。復習として視覚が成立する過程を自分で説明する。
第3回	錯視などの知覚現象と外見・美容	知覚と美容の関係を説明できる	予習として知覚のメカニズムを確認する。復習として美容におけ錯視の例を自分で考える
第4回	パーソナリティの成り立ち	パーソナリティを理解する	予め自分がパーソナリティをどう考えているか, 確認する。復習として自分のパーソナリティの成り立ちを考える
第5回	自他のパーソナリティをどのようにして測定するか	パーソナリティ検査について説明できる	予習として今までに受けた心理検査について考える。復習としてパーソナリティ検査の仕組みをふり返る。
第6回	小集団とそのメカニズム	社会的行動の基礎について説明できる	予習として日常生活の中で人間関係が自分に与える影響を考える。復習として集団力学の用語を用いて事例を説明する
第7回	服従と社会的役割	職場集団のメンバーの行動を社会心理学の視点から説明できる	予め社会的役割とは何か自分で考える。復習として自分で事例をあげ説明する
第8回	ストレス, ストレッサー, 汎適応症候群	ストレスとは何か, 説明できる	予習としてストレスの例を考える。復習としてストレスの影響を身近な事例で説明する
第9回	不安障害, 心身症	ストレスと心の障害の関係を説明できる。	予め不安が何をもたらすか, 自分の経験を振り返る。復習として自分がなりやすい心身の障害について考える
第10回	うつ病, 統合失調症	うつ病や統合失調症について説明できる。	うつ病と統合失調症に関する自分の考えを, 予め振り返る。授業後, 身近な人が治療を受ける場合, どうすればいいか考える
第11回	エステの心理学	エステが心に及ぼす効果を説明できる。	予めエステと心理学の関係を考える。復習として個々の施術と心への効果の関係を説明する
第12回	魅力の心理学	自他の外見が認知や魅力にどう影響するか, 説明できる。	予習として魅力とは何か, 考える。授業後, 魅力的な人の具体例をあげ心理学的に説明する
第13回	美の社会的構成	美の基準がどのように作られ, 心にどう影響するかを説明できる。	予習として自分が美しいと思うものを明確にする。復習としてなぜそう思うのか, 具体的に説明する
第14回	心理学を活かす: 美齢学へ向けて	心理学と美容の関係を理解し, コミュニケーションに活用する。	予習として美齢学とは何か, 調べる。授業後, 自分の生活と心理学の関係を具体例をあげて考える
第15回	まとめ	定期試験に向けて, 講義内容をふりかえり, 確認する	予め講義内容を整理する。授業後, 分からない点を自分で確認できる

科目名 Subject	現代社会の理解 Understanding Modern Society		教員名	山口 博嗣	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	○
科目の概要	<p>「現代社会を理解する」のは何のためか？ それは、現代社会をよりよく、より豊かに、よりしたたかに生き抜くためである。現代社会の特徴は何か？ 第一に、物事が速いスピードで動き、根本的な変化が起こる。第二に、A I（人口知能）の急速な進歩で、不可能が可能になり、人間の仕事のある部分がA Iに取って代わられる。第三に、日本では同質社会から多文化共生社会への転換が不可避になる。今、私たちには何が必要だろうか？ まず、「いま～である」ことの知識に加え、「これから～になる」ことの予測能力が必要だ。世界に目を向け歴史に学ぶことも肝要だ。次に、A Iを理解し、A Iを活用し、A Iにはできないことを行う能力が必要だ。さらには、基本的コミュニケーション能力と異文化コミュニケーション能力が必要である。この科目では、現代社会を理解するための知識、および、生き抜くための基本的能力やスキルの獲得を図る。</p>				
授業の目標	<p>(1) 「知って楽しい」「考えるって面白い」と感じられるようになる  (2) 「もっと知りたい」「自分の頭で考えたい」と思えるようになる  (3) 「音楽鑑賞」「美術鑑賞」を通して「美」の鑑賞力が深まっている  (4) 現代社会を理解し社会で生き抜く力の必要性を理解できるようになる  (5) 自分の意見を述べ、他人の意見も理解し共感できるようになる  (6) 自文化と他文化との違いに気付き、違いを楽しめようになる  (7) 現代社会に必要なコミュニケーション能力を発揮できる  多文化共生社会に必要な異文化コミュニケーション能力を発揮できる</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>前回の授業で学んだこと、自分が興味を持ったことについて簡潔にまとめ、今回の授業で学びたいことや質問等を書いた小レポートを毎回、授業開始前に提出する（前回の授業で学んだことに関連して自分で調べたことを書いてもよい）。自分の頭で考え、自分の言葉で書く能力を伸ばす重要な機会。（毎回60分以上の時間をかけて実施すること）</p>				
教科書・教材	教科書	特になし			
	教材	特になし			
	使用設備・備品	パソコン・プロジェクター等			
	参考文献	その都度紹介します			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への貢献度（グループ討議への参加、意見発表、質問等）⇒ 30%</li> <li>・ 時間外学習による小レポート提出 ⇒ 20%</li> <li>・ 最終レポート（「現代社会をどう理解したか。それを踏まえて自分は何をするつもりか」のレポートを第15回の授業時間に作成）⇒ 20%</li> <li>・ 定期試験 ⇒ 30%</li> </ul>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>詳しいレジュメは用意しません。講義を聞きながらメモ・ノートを取って下さい。社会に出ると、取引先、お客様等でレジュメを用意してくれる人などまずいません。相手の話を聞いて、メモを取り、その情報を上司や同僚と共有するためにレポートを書くスキルは必ず必要になります。</p>				
本科目履修と関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 授業の概要・進め方・ルール・評価法の説明	科目の概要を理解し興味を持ち、授業のルール等を理解する	左記に加え、多文化共生社会で生きるための知識、スキル等も毎回取り上げる
第2回	リベラルアーツとコミュニケーション能力 多文化共生社会で必要なこと	リベラルアーツ（教養）とコミュニケーション能力がなぜ必要か理解する	「美」を深く味わう感覚や感性を磨くために「音楽鑑賞」「絵画鑑賞」も毎回行う
第3回	マネー（1） マネーの本質とその形態の変遷	世の中にお金がなかったらどうなるかを考え、その本質を理解する	予習・復習は「時間外学習」の欄で述べた通り、毎回小レポートを書き提出すること
第4回	マネー（2） お金の増やし方（経済的豊かさの追求）	いろいろなお金の増やし方を調べ、そのリスクとリターンを理解する	上記の通り
第5回	グローバル化（1） 経済のグローバル化	経済のグローバル化の背景とその影響について理解する	上記の通り
第6回	グローバル化（2） 文化のグローバル化	文化のグローバル化の背景とその影響について理解する	上記の通り
第7回	人間の頭脳とAI（1） 人間の頭脳とAIはどちらが優れているか？	人間の頭脳とAIを比較して、それぞれの特徴を理解する	上記の通り
第8回	人間の頭脳とAI（2） コンピュータが得意な事人間の脳が得意な事	AIの発達が人間社会にどんな影響を与えるか、どう対処すべきか考える	上記の通り
第9回	女性の社会進出（Woman Empowerment）なぜ今、女性が注目されるのか？	女性の社会進出の背景を理解し、お手本にしたい女性を見つけ調べる	上記の通り
第10回	科学技術の発展とその影響（1） 科学とは？ 技術とは？	科学と技術を理解し、それが現代社会に何をもたらしたか理解する	上記の通り
第11回	科学技術の発展とその影響（2）科学技術発展の長所と短所	科学技術の発展の功罪を理解し、人間がどう対応したらよいか考える	上記の通り
第12回	現代社会の仕組み（1） 国境は必要か？ 法律は必要か？民主主義は？	既にある秩序が本当に必要なのか、民主主義はベストなのか考える	上記の通り
第13回	現代社会の仕組み（2） 企業は誰のためのものか？よい経営とは？	企業の役割と社会に与える影響につき理解する	上記の通り
第14回	精神的なものの居場所 哲学・思想・宗教・芸術は現代社会に必要なか？	精神的・感覚的な活動の現状を把握し、それらが現代に必要なか考える	上記の通り
第15回	まとめ：何が分ったか？ 何が分らなくなったか？ 現代社会をどう生きるか	現代社会について理解し、自分の頭で考え、自分の生き方に活かす	上記の通り

科目名 Subject	海外研修（ヨーロッパ） Overseas Study (EUR)		教員名	吉田 真希	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	◎	◎
科目の概要	<p>海外のファッションや美容を学び、国際的な美容感覚を養うとともに、現地で外国語を体験する機会を得る。具体的には、ファッション、美容、それらの関連施設、美術館、博物館、等の見学研修や一流アーティストによるヘアデザイン、メイク等を中心としたショーを見学研修する。自由行動の時間では、パリ、ロンドンのさまざまな文化に触れる。</p>				
授業の目標	<p>海外の文化や習慣等に触れることによって、国際的な意識を高める。 また、コミュニケーション力の大切さを知るとともに、ファッションや美容に対する学習意欲を高める。 世界を知ること目指すべき目標を見つける。 また、世界を知らなければ国内でも1番に成れないことを知る。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>特段の時間外学習は必要ないが、説明会の内容を保護者に報告する。 帰国後は体験を報告するなどし、人に伝えることで体験を経験にする。</p>				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	<p>説明会への出席状況と、研修後のレポートも合わせて総合的に評価する。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>有意義な研修とするためには、事前の説明会への参加のみならず、自らが意欲をもって事前に調査研究しておくことが望まれる。原則として集団行動をとるため、参加に当たっては特に自覚的参加とマナーを守ることが求められる。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	説明会① 海外研修の概要	海外研修に行く意義を理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第2回	説明会② 海外研修に必要な手続きについて	海外研修に行く為に必要な手続きを理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第3回	説明会③ 主な注意事項	イギリス、フランスでやってはいけないこと、注意すべきことを理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第4回	説明会④ 詳細なスケジュールについて	スケジュールを把握し、詳細な行動計画をたてられるようになる。	資料を確認し、保護者に説明する。
第5回	ロンドンでの研修 市内見学 ビューティセミナー	ロンドンにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を知る。	ただの旅行にしないように自分なりにロンドンでの体験をまとめる。
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回	パリでの研修 市内見学 ビューティショー ディナーショー	パリにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を知る。	ただの旅行にしないように自分なりにパリでの体験をまとめる。
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			



科目名 Subject	英語コミュニケーション English Communication		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	○	◎	◎	○
科目の概要	<p>Summary - In this class, we will focus on daily conversations in various situations, learning how to manage small talks we would need to lead daily conversations. We will also develop vocabulary related to design and fashion, using a textbook specialized in such fields.</p>				
授業の目標	<p>Aim - The goal of this class is to develop general conversation skills of the students in daily situations as well as developing a variety of vocabulary, including specialized ones in design and fashion.</p>				
時間外学習 (予習・復習)	As required				
教科書・教材	教科書	Fashionable English			
	教材	Note book, pen or pencil, dictionary (optional)			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	<p>ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習、出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Class Introduction / Meeting People	Overall explanation, motivation, importance of positive communication, self-introduction.	Prepare for a short presentation of your self-introduction.
第2回	Clothes and Apparel	(1) Short self-introduction. (2) Able to describe outfits. Vocabulary of clothing.	Write a short essay about yourself.
第3回	Colors and Patterns	Able to talk about your favorite outfit.	Draw and describe your favorite outfit.
第4回	Materials	Learn how to describe materials.	Practice how to describe your favorite outfit.
第5回	Coordination	Able to describe coordination. Learn how to use prepositions. Ask for opinions.	Think about your favorite styles and how to explain them.
第6回	Styles and Trends	Able to ask others for opinions. Learn how to describe styles and trends.	Prepare for a review quiz
第7回	Review Test	Review Quiz	Review of the past classes.
第8回	Describing People	Learn vocabulary about body-parts. Able to describe how others look like.	Prepare to talk about your room.
第9回	Home Decorating	Able to talk about your room. Learn vocabulary describing locations.	Prepare to talk about your favorite places.
第10回	Shops and Cafes	Able to talk about your favorite shops, cafes and reasons you like them.	Write about your favorite things and places.
第11回	Sewing and cooking	Able to explain the way to make something, or recipes.	Write a recipe of your favorite food.
第12回	Daily Routines 1	Learn how to describe daily routines. Learn vocabulary to describe time and activities.	Start planning your final presentation.
第13回	Daily Routines 2	Able to describe daily routines. Learn adverbs of frequency. Learn how to manage an effective presentation.	Practice presentation
第14回	Review Test & Presentation Rehearsal	Review Test & Presentation Rehearsal	Prepare for the final presentation.
第15回	Final Presentation "My Daily Life"	Do a presentation about your daily life with pictures or your favorite items.	Watch others doing presentation and learn how they can manage effective presentation.

科目名 Subject	グローバルコミュニケーション Global Communication		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	○	◎	◎	○
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out various role-play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.				
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in an esthetic salon - communication between a esthetician and a client.				
時間外学習 (予習・復習)	After class work: Study the vocabulary, pronunciation				
教科書・教材	教科書	Salon English for Hairstylists / Original material			
	教材	Note book, pen or pencil, dictionary (optional)			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習、出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Class Introduction	Overall explanation, motivation, importance of positive communication	Course requirements, career and personal life, importance of positive communication
第2回	Compliments & Small Talk	Vocabulary and phrases, Pair and group, small talk complimenting	Able to give and receive compliments, comfortable using small talk phrases
第3回	Appointments	telephone greetings, explaining business hours, availability, taking an appointment, confirming the appointment, ending telephone call	how to take an appointment 1) Telephone greetings 2) Explain business hours 3) take client's name, telephone 4) confirm appointment 5) end the call
第4回	Business Hours		
第5回	Salon Greetings Escorting Hand Massage	Salon greetings, appointment, first time customer, clients name, take clients bag or coat, client wait, escort client to the hand massage area, seat the client comfortably	"Basic understanding as to how to take an appointment over the telephone salon greetings checking for appointment checking for first time client take client's name take client's bag and/or coat"
第6回			
第7回			
第8回	Beauty Business Documentary	Watch foreign documentary on the beauty business	Understanding the beauty business in America and Europe, communication
第9回	Performing a body massage / facial / hand massage	In pairs, write an original conversation- asking at least five (5) body related questions, five (5) small talk phrases, and five (5) compliments -Pair practice in real salon setting	Students ask a client what they would like to do and ask pertinent questions to confirm that they understand what the client wants. Students will learn how to carry on casual conversations in English. Students will learn how to give compliments
第10回			
第11回			
第12回	London and Paris	General discussion on traveling in Europe	Learn about traveling in Europe to prepare them for their school trip
第13回	Final Presentation "The Total Salon Experience"	Introduce contents and requirements of the final presentation	Students will present a complete presentation of the entire esthetic salon experience.
第14回		Pair practice In real salon setting with both students acting out the role of the esthetician and client	
第15回		Final presentation in the salon	

科目名 Subject	日本事情 I Current Japanese Topics I		教員名	日本語チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	(1)
必修/選択	外国人留学生必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	<p>本クラスでは、美容を学ぶ留学生が、大学の授業を受けるために必要な日本語（アカデミック・ジャパニーズ）を学習する。具体的には、以下の項目を中心に学んでいく。①講義の聞き方を学ぶ。②ノートの取り方を学ぶ。③文章の書き方を学ぶ。④発表の仕方を学ぶ。特に文章作成では、書き方の学習と並行して実際に短いレポートを書き、学習者相互にピアレスポンスをしながら仕上げていく。書き上げたレポートはクラス内で発表し、相互評価を行うことで、学生一人ひとりの自律性を高める。活動を通して、自分の考えを日本語で表現できることを目指す。</p>				
授業の目標	<p>「講義を聞き、重要な項目をメモすることができる」「文章の書き方を理解し、美容に関するレポートが書ける」「自分の言いたいことを、他者に簡潔に伝えることができる」</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>次回の授業内容について確認し理解しておくこと。また学習した日本語はできるかぎり忘れないように、練習しておくこと。各回予習 60 分。復習 60 分。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント使用			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘著、スリーイーネットワーク、2007年			
評価方法	平常点 30%、課題 20%、レポート 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	学生の主体的な参加を期待する。				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。	
第2回	講義の聞き方(1) スキルを学ぶ。	一般的な講義の特徴について理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第3回	講義の聞き方(2) ノートテイキングを学ぶ。	ノートテイキングについて理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第4回	講義の聞き方(3) 演習①	講義の聞き方の理解を深められる。	復習 60 分、予習 60 分
第5回	講義を聞く(4) 演習② 文章の書き方(1) 文体	講義の聞き方のスキルを上げることができる。文体について理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第6回	講義を聞く(5) 演習③ 文章の書き方(2) 句読点	講義の聞き方のスキルを上げることができる。句読点の打ち方を理解する。	復習 60 分、予習 60 分
第7回	講義を聞く(6) 発表 文章の書き方(3) 段落	講義を聞き、その内容が発表できる。段落の書き方が理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第8回	文章の書き方(4) 段落相互	段落相互の書き方が理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第9回	レポート(1) 動機文を書く。	自分とテーマの関係について考えることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第10回	レポート(2) 動機文を検討する。	自分とテーマの関係について理解を深めることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第11回	レポート(3) 本論を書く。	クラスメイトと深い対話ができる。	復習 60 分、予習 60 分
第12回	レポート(4) 本論を仕上げる。	テーマについて、クリティカルに考えることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第13回	レポート(5) まとめを書く。	一貫した文章が書けるようになる。	復習 60 分、予習 60 分
第14回	レポート(6) 全体を読み合う。推敲する。	自分が書いた文章を客観的に見ることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第15回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテーマが内省できる。	復習 60 分、予習 60 分

科目名 Subject	日本事情Ⅱ Current Japanese Topics II		教員名	日本語チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	(1)
必修／選択	外国人留学生必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	<p>本クラスでは、相手に合わせた待遇コミュニケーションについて学ぶ。具体的には様々な場面における敬語表現を学び、学内やアルバイト先、就職活動における話し方、聞き方を学ぶ。その上で、敬語だけではなく、様々な場面の待遇表現も学び、相手に合わせた話し方聞き方を自分で選択できるようになることを目指す。</p>				
授業の目標	<p>(1) 敬語の基本が習得できる。(2) 様々な場面の待遇表現が習得できる。(3) 社会相手に合わせた話し方が習得できる。(4) ビジネス場面における話し方が理解できる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>次回の授業内容について確認し理解しておくこと。また学習した日本語はできるかぎり忘れないように、練習しておくこと。各回予習 60 分。復習 60 分。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『日本語敬語トレーニング』金子広幸著アスク出版			
評価方法	平常点 20%、期末テスト 50%、提出物 30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	一人一人の主体的な態度を求める。				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。尊敬語が使える。	復習 90 分。
第2回	訪問する	敬語全般について理解できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第3回	簡単に挨拶する	尊敬語が使える。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第4回	誘う	敬語を使って誘うことができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第5回	お願いする	敬語を使ってお願いすることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第6回	断る	敬語を使って断ることができる	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第7回	申し出る	敬語を使って申し出ることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第8回	おわびする	敬語を使ってお詫びができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第9回	意見を言う	敬語を使って自分の意見を言うことができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第10回	予約を受ける	仕事先で、敬語を使って電話や店頭で予約を受けることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第11回	サービスの敬語	仕事先で、敬語を使ってお客から注文を受けることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第12回	相談を受ける	仕事先で、敬語を使ってお客から相談を受け対応できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第13回	面接を受ける	面接で、敬語が使える。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第14回	電話の敬語	社内の者として敬語を使い、電話対応ができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第15回	まとめ	全体の振り返りができる	全体の復習 90 分。



科目名 Subject	日本事情Ⅲ Current Japanese TopicsⅢ		教員名	日本語チーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	(1)
必修／選択	外国人留学生必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	<p>本クラスでは、就職に必要なビジネス日本語を学習する。主に就職活動に必要な日本語を学んでいく。また、就職後、日本で仕事ができるようになるための日本語も学習していく。授業では、課題達成、問題発見開発能力、異文化理解能力を養うためのタスクをこなしながら、日本語力の向上を目指す。</p>				
授業の目標	<p>1) エントリーシート等の就職のための提出書類を書くことができる。2) 面接で自己アピールができる。3) プレゼンテーションやディスカッションをすることができる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>課題に取り組む時間が必要になる。予習 50 分。復習 50 分。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント使用			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション』近藤彩他著、アブリコット出版、2012年			
評価方法	<p>平常点 30%、課題 20%、レポート 50%</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>学生の主体的な参加を期待する。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。	予習として作文課題（90分）
第2回	企業の求める人材を知る(1)企業ガイダンスについて読み、話す。	企業ガイダンスの語彙と表現が理解できる。	復習 50分、予習 50分
第3回	企業の求める人材を知る(2)企業ガイダンス（説明会）の内容を聞く。	企業ガイダンスを聞き、メモが取れる。	復習 50分、予習 50分
第4回	企業の求める人材を知る(3)企業概要を読み、メモをする。	企業について、自分で調べることができる。	復習 50分、予習 50分
第5回	エントリーシートを書く(1)メモする。	エントリーシートの内容を日本語でメモできる。	復習 50分、予習 50分
第6回	エントリーシートを書く(2)全体を書く	エントリーシートの内容を日本語で記述できる。	復習 50分、予習 50分
第7回	エントリーシートを書く(3)話し合う	エントリーシートの内容を協働で深められる。	復習 50分、予習 50分
第8回	エントリーシートを書く(4)発表する	エントリーシートに書いたことを他者に向けて分かりやすく話すことができる。	復習 50分、予習 50分
第9回	E-mailの書き方、敬語表現を学ぶ。	敬語を使って E-mail が書ける。	復習 50分、予習 50分
第10回	自己アピールをする(1)自己アピールを聞いて考える。	他者の自己アピールを聞き取ることができる。	復習 50分、予習 50分
第11回	自己アピールをする(2)自己アピール文を書く。	自己アピール文を日本語で書くことができる。	復習 50分、予習 50分
第12回	自己アピールをする(3)	自己アピールが話せる。自己評価ができる。	復習 50分、予習 50分
第13回	自分の作品をプレゼンテーションする(1)	PPTでプレゼンテーションする方法を学ぶ。	復習 50分、予習 50分
第14回	自分の作品をプレゼンテーションする(2)	自分のプレゼンテーションができるようになる。	復習 50分、予習 50分
第15回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテーマが内省できる。	復習 50分、予習 50分

科目名 Subject	栄養学 I Dietetics I		教員名	木村 康一	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	美容の基本は心身の健康にある。その健康の維持・増進はもとより、疾病の予防や治療においても栄養の果たす役割はきわめて大きい。本科目では、健康の概念、各栄養素の食品中の分布・構造やその働きを学ぶほか、各栄養素の消化、吸収、代謝等を理解することで、美容における栄養の重要性を教授する。				
授業の目標	本科目で習得した栄養に関する知識をもって、自分自身の食生活を見直す材料とすることができるようになるとともに、今後の社会生活の中で、他者に対しても活用し応用できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	毎時ごとの復習及び次回の内容に関する予習を合わせ、1時間程度行う。				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	定期試験の結果、60点以上の者に単位を認定する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	講義の妨げとなる行為をおこなった場合は、退出を命じる。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、概要を知る。	次回の予習
第2回	健康の捉え方	健康の定義やヘルスプロモーションについて理解する。	今回の復習と次回の予習
第3回	生活習慣病	我が国における疾病構造を知る。	今回の復習と次回の予習
第4回	栄養学の基礎知識	食品成分の分類と5大栄養素を知る。	今回の復習と次回の予習
第5回	炭水化物	炭水化物の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第6回	脂質	脂質の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第7回	たんぱく質	たんぱく質の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第8回	無機質	無機質の種類とそれぞれの役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第9回	ビタミン	ビタミンの種類とそれぞれの役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第10回	水	水の体内で果たす役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第11回	食事摂取量と基準	日本人の食事摂取量や食事摂取基準を知る。	今回の復習と次回の予習
第12回	消化吸収	それぞれの栄養素の消化吸収のされ方を知る。	今回の復習と次回の予習
第13回	栄養学からみた食品	食品6群分類、各食品の栄養学的特徴を知る。	今回の復習と次回の予習
第14回	美齢と栄養	エイジングと栄養の関係を知る。	今回の復習と次回の予習
第15回	肥満	肥満の分類や判定方法を知る。	今回の復習と全体のまとめ

科目名 Subject	生体学 Study of Human Body		教員名	大西 典子	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	○
科目の概要	<p>「美しく生きる」ために、重要な生活上の課題の一つに運動があります。生体学は人間の運動に関わるからだのしくみや効果的な動きを学習し、エステティシャンとして、健康的なライフスタイルを維持するための安全で効果的な運動プログラムを立案し専門的な助言ができる能力を育成することをめざします。</p>				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動生理学とは何かが説明できる。</li> <li>2 運動に関わるからだのしくみが説明できる。</li> <li>3 加齢による運動のかかわりが説明できる。</li> <li>4 対象にあった効果的な運動プログラムが計画できる</li> </ol>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>毎回の授業内容に関わる教科書や関連する情報などを調べ、授業がより深く理解できるようにする。(60分) また、各回ごとの自己の知見をノートにまとめておく。(60分)</p>				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	平常点 (20%)、小テスト (20)、試験 (60%)				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 運動生理学とは何かを学ぶ	運動生理学の概要が述べられる	終了後に自らの知見のノート整理 (60分)
第2回	運動と酸素供給のための呼吸器・循環器のしくみを学ぶ	呼吸器系と循環器系のしくみが説明できる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第3回	運動とエネルギー代謝について学ぶ	運動時のエネルギー代謝について説明できる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第4回	骨格筋の収縮のしくみを学ぶ	骨格筋の収縮の形を説明できる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第5回	運動を支配する中枢神経系と筋線維のタイプの特性を学ぶ	筋線維のタイプの特性が説明できる	事前の教科書の精読 (60分)
第6回	姿勢維持のしくみを学ぶ	重力と姿勢の関係が説明できる	事前の教科書の精読 (60分)
第7回	トレーニングの原理と原則を学ぶ	トレーニングの原理・原則が述べられる	事前の教科書の精読 (60分)
第8回	トレーニングの種類と方法を学ぶ	トレーニングの種類と方法が述べられる	事前の教科書の精読 (60分)
第9回	運動プログラムの流れを学ぶ	運動プログラムの流れにそって自分の運動プログラムに応用できる	自分の生活状況を見直し運動プログラムをつくる (60分)
第10回	生活習慣病などの運動の健康に及ぼす影響を学ぶ	生活習慣病について説明できる。	終了後の知見のノート整理 (60分)
第11回	発達期にある人の世代別運動プログラムを学ぶ	発達期の運動の特徴が述べられる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第12回	加齢による生理機能の変化と運動について学ぶ	加齢による生理機能の変化と運動の関連が述べられる。	終了後の知見のノート整理 (60分)
第13回	救急法の中の止血法と応急処置の基本を学ぶ	応急処置が実施できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第14回	救急法の中の心肺蘇生法について学ぶ	心肺蘇生法が実施できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第15回	まとめ	個別の運動プログラムが立案できる	事前の学習内容の復習 (60分)

科目名 Subject	生命活動概論 Introduction to Biological Activity		教員名	大西 典子	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	○	○	○
科目の概要	人間が外部環境に適応して生きていくために、38億年という時を隔てて創られたところとからだのしくみをホメオスタシスと言います。ところが、現代社会の外部刺激であるストレスサーは、時として適応が困難となり、ストレス反応を起こしてしまいます。このストレス対処を行うことは、「美しく生きる」ためには重要になります。生命活動概論では、このホメオスタシスのしくみとストレスの関係について学び、エステシャンとして適切にストレス対処に関わる助言が行える能力を養います。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間が外部環境に適応して生きていくためのホメオスタシスの意味が述べられる。</li> <li>2 ホメオスタシスの具体例が説明できる。</li> <li>3 ホメオスタシスを制御する脳の3つの配線が説明できる。</li> <li>4 脳のストレスについて説明できる。</li> <li>5 ストレス対処とエステティックの関係が述べられる。</li> </ol>				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業内容に関わる教科書や関連する情報などを調べ、授業がより深く理解できるようにする。(60分) また、各回ごとの自己の知見をノートにまとめておく。(60分)				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	平常点 (20%)、小テスト (20)、試験 (60%)				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 生命とは何か、約38億年前に現れた生命の起源を学ぶ	生命の特質と期限が述べられる	終了後に自らの知見のノート整理 (60分)
第2回	環境適応の進化とホメオスタシスについて学ぶ	ホメオスタシスとは何かが述べられる。	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第3回	ホメオスタシスの具体例 (1) 体温調節や血糖調節のしくみを学ぶ	体温調節と血糖調節のしくみが説明できる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第4回	ホメオスタシスの具体例 (2) 塩化ナトリウム・血中カルシウム濃度の調節を学ぶ	塩化ナトリウム濃度と血中カルシウム濃度調節が説明できる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第5回	からだの末梢のしくみと脳の3つの配線について学ぶ	末梢のしくみと脳の3つの配線が説明できる	事前の教科書の精読 (60分)
第6回	自律神経のしくみと働きを学ぶ	自律神経のしくみと働きが説明できる	事前の教科書の精読 (60分)
第7回	内分泌のしくみとホルモンの働きを学ぶ	ホルモンの働きを説明できる	事前の教科書の精読 (60分)
第8回	免疫の種類と働きを学ぶ	免疫の種類と働きが説明できる	事前の教科書の精読 (60分)
第9回	免疫系のしくみとアレルギーの起り方について学ぶ	アレルギーの起り方が説明できる	事前の教科書の精読 (60分)
第10回	ホメオスタシスとストレスの関係を学ぶ	ストレスとは何かが述べられる	事前の教科書の精読 (60分)
第11回	ストレスの種類と脳のストレス反応のしくみを学ぶ	ストレス反応のしくみが説明できる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第12回	現代社会のストレスとストレス過剰反応としての病気について学ぶ	現代社会のストレス要因が述べられる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第13回	ストレス反応と美容への影響を学ぶ	ストレス反応と美容への影響が説明できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第14回	ストレスコーピングとしてのエステティックによる対処を学ぶ	ストレスコーピングとしてのエステティックの意義が説明できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第15回	まとめ	ホメオスタシスとストレスとエステティックの関連が説明できる	事前の学習内容の復習 (60分)



科目名 Subject	生理解剖学 I Physiological Anatomy I		教員名	柏戸 奈苗	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	○
科目の概要	<p>身体各部の構造（つくり）と機能（働き・役割り）を理解することは、身体のケアを行うエステティックの施術の基礎を確立する。生理解剖学は生体学・生命活動学・皮膚科学の基礎となる科目です。</p>				
授業の目標	<p>①系ごとの、構造と機能を理解できる。 ②それぞれの器官の構造と機能を理解できる ③総合的に身体をつくりと働きをとらえ、エステティックの施術、お客様への「ホームケアアドバイス」に活かすことができる</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>予習：予習プリントを配布しますので、教科書を見て、基本構造図を仕上げてください。復習：復習プリントを配布しますので、授業ノートを参考に仕上げ、翌週提出してください。</p>				
教科書・教材	教科書	新エステティック学—理論編 I			
	教材	毎回、プリントを配布いたします。			
	使用設備・備品				
	参考文献	ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）			
評価方法	<p>①予習プリントと復習プリントの提出状況 ②授業への取り組み、 ③定期試験の結果から総合的に評価致します。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>指定された席に着席しない場合は、欠席と見なします。授業妨害と見なされる行為が確認された場合には退出して抱くことがあります。授業中の携帯操作は禁止させていただきます。携帯のスイッチは切っていただきます。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	センター試験・AEA 資格試験受験科目			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション Lesson 1 身体の基本-1	身体各部の名称を覚える 細胞の基本構造と機能を理解し、説明できる	『復習』課題プリント-1 『予習』予習プリント-1
第2回	オリエンテーション Lesson 1 身体の基本-2	細胞→組織→器官→系→個体 それぞれの特徴と種類を理解し、説明できる	『復習』課題プリント-2 『予習』予習プリント-2
第3回	オリエンテーション Lesson 1 身体の基本-3	身体を構成する成分とその役割を 理解し、説明できる	『復習』課題プリント-3 『予習』予習プリント-3
第4回	オリエンテーション Lesson 1 身体の基本-4	血液の構成成分と役割を理解し、 説明できる	『復習』課題プリント-4 『予習』予習プリント-4
第5回	Lesson1 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson1, 2 の範囲の「センター問題」 が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-5 『予習』予習プリント-5
第6回	Lesson 2 骨格系・筋系-1	骨格各部の名称を覚える。骨の構造と 関節の種類・働きを理解する。	『復習』課題プリント-6 『予習』予習プリント-6
第7回	Lesson 2 骨格系・筋系-2	筋線維の構造と特徴を理解できる。 骨格筋の名称を覚える	『復習』課題プリント-7 『予習』予習プリント-7
第8回	Lesson 2 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson1, 2 の範囲の「センター問題」 が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-8 『予習』予習プリント-8
第9回	Lesson 3 神経系-1	神経系の分類を理解し説明できる。 中枢神経各部の名称と役割を理解し、 説明できる	『復習』課題プリント-9 『予習』予習プリント-9
第10回	Lesson 3 神経系-2	末梢神経の2つの分類を理解し、 身体への役割を説明できる	『復習』課題プリント-10 『予習』予習プリント-10
第11回	Lesson 3 神経系-3	睡眠の役割と種類を理解し美しさとの 関連を説明できる	『復習』課題プリント-11 『予習』予習プリント-11
第12回	Lesson 3 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson1, 2 の範囲の「センター問題」 が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-12 『予習』予習プリント-12
第13回	Lesson 4 感覚器系-1	身体のセンサーとしての感覚の種類と 役割を理解できる。また、特殊感覚器の 構造と役割を理解できる	『復習』課題プリント-13 『予習』予習プリント-13
第14回	Lesson 4 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson1, 2 の範囲の「センター問題」 が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-14 『予習』予習プリント-14
第15回	Lesson1～3の応用 AEA問題にチャレンジ	Lesson1～3の範囲の「AEA問題」 が5割以上正解できる	『復習』課題プリント-15 (試験対策用)

科目名 Subject	栄養学Ⅱ DieteticsⅡ		教員名	望月 理恵子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	<p>サロンまたは生活の中で使用できる実践的な栄養学を学んでいきます。                  誤った情報に惑わされることなく、科学的根拠に基づいた正しい知識を身につけていきます。また、その習得した知識の発信を「押し付ける」のではなく、興味を持って共感して貰えるような発信をする方法を学びます。こうした行動を起こすことのできる力を「健康力」と位置付けていますが、この「健康力」のアップこそが健康のレベルを上げ、栄養啓発をすることにつながっていくことです。                  正しい知識が「気がついたら身についてしまう」という工夫を手にするために、皆さんが関心のあるトピックから栄養学を学んでいきます。トピックを中心に正しい知識に触れることの楽しさを感じて栄養学と触れ合い、実践で活用できるようにする手技を身につけていきます。</p>				
授業の目標	<p>正しい健康・栄養情報の収集の仕方、また自身からの情報発信の仕方を学び、より身近な、健康・栄養学知識を身につけ、トリートメントの一環として、プロとしての栄養アドバイスができるようになる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>予習復習で60分～90分程度を想定しています。                  健康情報のテレビや雑誌など、メディアで話題になっている情報を収集していただきます。</p>				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	<p>評価カード40%、課題レポート30%、授業参加意欲30%</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>筆記用具は必需品です。                  携帯電話での授業内容の写真やメモは禁止です。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	<p>単位取得後希望者は、健康検定協会試験準1級受験可能</p>			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	私たちの取り巻く健康に関して知る	気になる健康情報、栄養情報を次回まで調べる
第2回	日本人が信じる食と健康の常識	メディアで取り上げられている健康情報について知る	メディアに取り上げられている健康情報について自分なりに調べてくる
第3回	栄養学の基礎	「健康」の概要を知る	健康とは何か予習する
第4回	身体の仕組みと健康リズム	栄養学で重要な言葉を理解する	自分の食べているものと体調を次回までに意識する
第5回	食材、料理	正しい身体のリズムと機能を知る	自分の食べている料理のバランスを考える
第6回	食の安全	食材、料理法の違いについて知る	覚えた料理の方法、工夫を次回までに実践する
第7回	食の迷信	食の危険と、日常出来る食の安全策を知る	身の回りの食の迷信について調べる
第8回	症状・悩み別栄養学① 身近な悩みを学ぶ	食に関わる迷信を根拠から正しく理解する	エステで使う悩みと食事についてどんなものがあるか考えてくる
第9回	症状・悩み別栄養学2 食生活で改善する策を知る	身近な悩みを食生活で改善する策を知る	エステで考えられる食事アドバイスのケーススタディーを考えてくる
第10回	症状・悩み別栄養学2 食生活で改善する策を知る	身近な悩みを食生活で改善する策を知る	授業で学んだのち、エステで考えられる食事アドバイスのケーススタディーを考えてくる
第11回	サプリメントの活用	正しくサプリメントを利用出来るように理解する	美容とサプリメントの関連について考えてくる
第12回	日本と諸外国の食生活習慣	日本の特徴を知る	日本とそれ以外の国の食事の特徴を調べる
第13回	サプリメントの活用	様々なダイエットのメリット、デメリットを知る	健康とサプリメントの関連について考えてくる
第14回	美容と栄養	年代別に必要な栄養と、エイジングケアに必要な栄養を知る	老化と美容と健康について考えてくる
第15回	食の雑学からの情報発信 根拠探しの方法	身近な情報を活用して情報発信する方法を学ぶ	情報発信のための収集法を活用する

科目名 Subject	栄養学Ⅱ DieteticsⅡ		教員名	望月 理恵子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	<p>日本の伝承美、着装の技術および着物の基本知識を学び、“日本の心を着る”という豊かな感性と人を思いやる心を育て、日本人としての文化教養を身につけます。</p> <p>また「自分で着る、人に着せる」実習を通して美齢学に通ずる子供から高齢者へ向けた着つけの基本技術を習得し、接客の心得を学びながら美容総合実践として着つけ技術基礎を固めます。さらにこの科目は社会で活躍する自分の姿を常にイメージし、職業実践専門課程に基づくカリキュラムの実践を通し就職、社会事業に沿った学びができます。社会人としての素養を日本人としての資質を一回一回の授業で身につけることで、自分自身の成長を感じることができる科目となります。</p>				
授業の目標	<p>本科目の履修を通して、</p> <p>① 生活の中に関わる着物文化と装いを理解し、四季に応じたコーディネイトや装いの表現力を養う事が出来る。</p> <p>② 山野流美道五大原則に基づいたトータルビューティの習得と美齢学の基礎実践が出来るようになる。</p> <p>③ 「自分で着る、人に着せる」の着つけの基本技術を習得する事が出来る。</p> <p>④ 社会人となる自分を常にイメージし、就職1年目から社会に貢献できる技術、マナー、日本文化の知識を習得する。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>予習・復習共に技術者として接客を意識した生活学習を行う。予習：次回授業対象の範囲につきTVや雑誌ほかSNSなどでTPOやコーディネイトを確認する。復習：学びの経過をSNSに掲載したり各自タブレットに保存するなど技術向上を目で見て確認する。又TVや雑誌、SNSなどからテクニックの相違を確認すること。他、コンテストやイベントの教員指導による時間外予習復習も場合により有り得る。総合で30-40時間以上の予習を見込む</p>				
教科書・教材	教科書	着つけ教本は初回に配布 ほか必要に応じてプリント配布			
	教材	授業に必要な教材を初回に配布			
	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル（保管は短大教室内）			
	参考文献	（一財）国際美容協会貯蔵			
評価方法	実技試験、筆記試験、評価シート、授業態度、小テスト				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>①個人持参物 /半紙、筆記用具、白ソックス、白タオル5本、ハサミ、名前ペン 女子は前後の襟が大きく開いたシャツ（キャミソール）、7分丈迄のレギンス 男子はVかU字型シャツ、短パン②マナー/ 実習時は髪を一つに束ねる事、素足入室は厳禁</p>				
本科目履修と関連する資格	資格名	美容着付師			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション トータルビューティと美齢学	山野が目指すトータルビューティ及び美齢学の概念を理解する	山野美容芸術短期大学の理念を覚えてくること
第2回	浴衣の知識 着付けと帯結び	着付けに必要な小物と着物の名称を覚え、一人で着物を着る事を理解する	着付けに必要な小物と各部名称について予習復習が必要
第3回	礼装 留袖の知識	礼装の着物を知る	着付けに必要な小物と各部名称について予習復習が必要
第4回	着付け前の準備	着付けの備品を覚え、着付け前の準備が出来るようになる	準備の方法につき各自 30 分程度復習すること
第5回	外出着の装い	着物の種類を学び、街着の着物について知る。	準備方法の小テストのため 30 分程度の予習が必要
第6回	小紋① 着物と名古屋帯	一人で着物が着れるようになる	小紋のについて社会情報を得てくること
第7回	小紋②	自分で小紋の着物を着ることが出来る	テキストを見て復習
第8回	一人で着る着物と帯結び	一人で名古屋帯を結ぶ事を理解する	テキストを見て復習
第9回	小紋③	一人で着物と名古屋帯を結ぶことが出来る	テキストを見て復習
第10回	一人で着る着付け仕上げ 小テスト	一定の時間内に綺麗に着付けと帯結びが出来るようになる	小テストのため事前予習が必要 (テキストでプロセスを確認)
第11回	留袖①	礼装にふさわしい、ヘアスタイル着付けのバランス感覚を学ぶ	留袖の TP0 について予習
第12回	留袖のヘアメイクと着付けの デモンストレーション	留袖着付けのトータルバランスとイメージを理解する	社会情報から礼装のヘアメイクを予習してくる
第13回	留袖②	長襦袢、留袖の着付けのプロセスを理解する	テキストを見て復習
第14回	長襦袢と留袖の着付け	長襦袢、着物を上手にたたむ事が出来るようになる	テキストを見て復習
第15回	留袖③	留袖の着付けができる(復習) 袋帯の知識を学ぶ	各自学習成果を保存し確認。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	留袖の着付け帯結び	二重太鼓を結び仕上りの型が理解する	保存した画像からテキストを比較して復習
第17回	留袖④	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	美しい着付けのイメージ学習をしてくる
第18回	留袖の着付けと帯結び	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を美しく仕上げる事を理解する	テキストを見て復習
第19回	留袖⑤	留袖の知識を確認し、着物の格と家紋を学び装いの違いを理解する	テキストを見て復習
第20回	格式ある席の装い ミセスの礼装	礼装にふさわしい、留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ	
第21回	留袖⑥	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	技術自主学習(所要時間は90分程度)
第22回	留袖の表情と身のこなし	着る人にふさわしい、ヤングミセスから高齢者の装いの表現が出来るようになる	
第23回	留袖⑦	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	技術自主学習(所要時間は90分程度)
第24回	手早く着心地の良い着付け	更に技術を磨き、手早く美しい着つけが出来るようになる	
第25回	留袖⑧	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	技術自主学習(所要時間は90分程度)
第26回	総仕上げ	ミセスの礼装を意識し、品格のある着つけが出来るようになる	
第27回	留袖⑨	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	技術自主学習(所要時間は90分程度)
第28回	技術試験	限られた時間に留袖と帯結びの仕上げが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場合は再試験の予習が必要
第29回	知識確認	着物に関する基礎知識を確認	テキストを熟読し前期の学びに関する知識を覚えてくる
第30回	まとめ	着物に関する知識を総合的かつ理論的に理解できる	十分に知識の習得が出来なかった場合は再試験への予習が必要

科目名 Subject	インナービューティ学 Inner Beauty		教員名	吉田 真希 他	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	食と美容がおなじ意識で注目されるようになってきている今、エステティックの知識・技術の習得に加え、健康面からの美を考え、「食」「栄養」「運動(ヨガ)」「オーガニックコスメ」など、体の内側から美しくなることに特化して学んでいきます。				
授業の目標	本科目を履修することにより、プロの美容家としての正しい知識力を養成する。体の内側から美しくなるために必要な食や栄養、健康、運動、化粧品に関する知識を身につけ、お客様へ様々な角度からアドバイスできるようになります。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習するよう心掛けること。				
教科書・教材	教科書	配布資料			
	教材	配布資料			
	使用設備・備品	美道ルーム/調理実習室/座学用教室 他			
	参考文献				
評価方法	平常点 20% (小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む) 試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	この授業は複数の講師の先生がそれぞれの専門授業を行うオムニバス形式で行います。授業態度などが著しく悪い場合、退室させることがあります。この授業は2コマ続きです				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	概要・農園見学	八王子の無農薬農家を訪ね、生産から流通まで理解する。	無農薬について自分なりに調べてレポートを作成する。
第2回	農園見学	八王子の無農薬農家を訪ね、生産から流通まで理解する。	無農薬について分かったことをレポートに作成する。
第3回	身体の中を美しくするための食習慣	身体は自分が食べた物でできていることの理解。	終了後の知見のノート整理
第4回	身体の中を美しくするための食習慣	自分がいつも食べているものを把握し、食習慣の見直し。	自分が食べた物を1週間分記録する。
第5回	栄養の基本・健康と美容に効果的な栄養素	栄養学の基礎知識と理想的な摂取バランスを知る。	終了後の知見のノート整理
第6回	オーガニックの食品について	食の安全性や食品について関心を持つ。	終了後の知見のノート整理
第7回	正しい調味料の選び方	原材料名を確認する癖をつける。	今までの食習慣で改善したことや身体の変化についてまとめる。
第8回	世界の食トレンド（薬膳）	季節と臓器のつながりを理解し、自分自身でケアできるようになる。	終了後の知見のノート整理
第9回	世界の食トレンド（薬膳）	食材の効果・効能を理解し、使えるようになる。	終了後の知見のノート整理
第10回	世界の食トレンド（スーパーフード）	スーパーフードを理解し、日々の生活に取り入れられるようになる。	この季節に積極的に食べるべき食材とその理由をまとめる。
第11回	美容に効果的なレシピ（調理と試食）	季節と臓器のつながりを考え、美容と健康に良い食事法を理解。	終了後の知見のノート整理
第12回	美容に効果的なレシピ（調理と試食）	季節と臓器のつながりを考え、美容と健康に良い食事法の理解。	10回の授業を通して改善できたことや、気づきなど。
第13回	シェフによる魅力的な食事とは（見学と試食）	5感に訴える食事とはなにかを理解する	リゾートホテルや有名ホテルが経営するレストランを調べてくる
第14回	シェフによる魅力的な食事とは（見学と試食）	5感に訴える食事とはなにかを理解する	授業を受けて理解したことをレポートに作成する
第15回	ヨガ基本入門・リラックスヨガの体験	ヨガレッスンにより瞑想、ヨガとはなにかを知る。自分の内側と向きあうやり方、重要性を理解する。	初めてヨガを体験したあとの自分の変化、気づきをまとめておく

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ヨガ初級実践・ヨガが体にどのような結果効果に繋がるかを知る	ヨガを行う事でどのような効果に繋がるかを知り、美容とヨガがどう関連しているかを知る事が出来る。	学生が生活や美容にどうヨガを取り入れ、どのような効果に繋がるかを自分の言葉で説明できるかを考えてくる
第17回	リラックスヨガ・ハタヨガの体験。ヨガの呼吸法の体験	ゆっくりとしたヨガの鼻呼吸を意識し体の柔軟性、心の安らぎを体験し習得する事ができる	鼻呼吸を習得し日常生活に取り入れながら気づいた時に意識をもつようにする
第18回	ヴィンヤサヨガの実践、体のシェイプアップ	前回の呼吸法を活かしながら動きを加え、筋肉とヨガの効果の関連を知る事が出来る。	ハタヨガとヴィンヤサヨガの違いを理解しどのような時にどのヨガをしたらいいかを考えてくる
第19回	パワーヨガの実践。NY式ヨガの実践	全身の筋肉を使いながら呼吸と掛け合わせ、ヨガと体の引き締め効果を知る事ができる	今まで習得したヨガの違いを理解し、自分なりにまとめる
第20回	体のお悩み別ヨガのポーズ	沢山のポーズのあるヨガの中からどの時にこのポーズをした方がいいのかを習得することができる	一人一人の体に合わせどのポーズがどこ効いていて、生活にどのように取り入れるかを考えてくる
第21回	難易度の高いヨガのポーズの挑戦・軽減方での挑戦	体に無理を加えず軽減から難しいポーズへの導き、どこまで自分できるかを知る事ができる	自分にはどのポーズが合っていて、悩み別で箇所ごとのポーズをひとつ覚えてくる
第22回	ヨガが体の変化心の変化にどう繋がるかを感じ、瞑想の体験	呼吸と瞑想を通し自分を受け止められる考えを身につける事ができる	一人一人体や心がちがうか違うからこそ自分の感じた体や心の変化を理解し認めていく、日常にどう繋げるかを考える
第23回	コスメと美容 その1 ～コスメを構成する成分の概略について学ぶ～	化粧品を構成する成分についての概略的な知識を習得する。	終了後の知見のノート整理
第24回	コスメと美容 その2 ～スキンケアアイテムの種類、特徴について学ぶ～	各スキンケア化粧品の種類や特徴について基礎的な内容に関する知識を習得する。	終了後の知見のノート整理
第25回	オーガニックコスメとは？そのルールや認証制度について学ぶ	オーガニックコスメとは何か、そのルールや認証制度について学ぶ	全2回分に関する復習（授業冒頭に簡単な小テスト実施予定）
第26回	オーガニックコスメに使用される原料について学ぶ	通常のコスメとオーガニックコスメに使用される成分は何が違うのかなどを学ぶ	終了後の知見のノート整理
第27回	オーガニックコスメ市場（流通や企業）について学ぶ	オーガニックコスメ市場の現状を流通やメーカーなどを切り口に学ぶ	全2回分に関する復習（授業冒頭に簡単な小テスト実施予定）
第28回	コスメと美容	オーガニックコスメの現在のトレンドについて、具体的な例を挙げながら学ぶ	終了後の知見のノート整理
第29回	オーガニックコスメの今後について学ぶ	オーガニックコスメが今後どのような展開を見せるのかなどについて考察する	オーガニックコスメブランドについて、定められたフォーマットに順じて簡単なレポートを作成
第30回	オーガニックコスメ総括	これまでを総括し、より知識を定着させる	終了後の知見のノート整理

科目名 Subject	エステティック基礎理論 I Basic Esthetics Theory I		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	エステティックに関わる基礎的な知識を学ぶ。				
授業の目標	エステティックについての概論、法規、消毒法を理解する。 特に救急法ではサロンやスパで実際に起きる事例などについて知り、高齢者や疾患を持っている方にどう対処するかを学び適切に対処実践できるようにする。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、授業を開始致します。 授				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材				
	使用設備・備品	全身美容実習室・フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験 授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、提出物等含む）、試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから授業時間数の90%を下回る出席率の場合はエステティック資格取得の為に受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション エステティック概論	エステティックの歴史、本質を知ること で真の美は何かを知る	予習：新エステティック学テキストの エステティックの歴史、本質の確認
第2回	エステティック概論	エステティックの歴史、本質を知ること で真の美は何かを知る	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのエステティックの本質と真の美 はなにかの確認
第3回	エステティック概論	エステティックの歴史、本質を知ること で真の美は何かを知る	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのエステティックの本質と真の美は なにかの確認
第4回	エステティック概論	エステティックの歴史、本質を知ること で真の美は何かを知る	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのエステティックの本質と真の美は なにかの確認
第5回	エステティック概論	エステティックの歴史、本質を知ること で真の美は何かを知る	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのエステティック概論の全容を 確認
第6回	オリエンテーション 関連法規	エステティックに関する関係法規について 学ぶ。	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストの関連法規を確認
第7回	関連法規	エステティックに関する関係法規について 学ぶ。	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのエステティックに関する関連法 規の確認
第8回	関連法規	エステティックに関する関係法規について 学ぶ。	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのエステティックに関連のある資 格の種類の確認
第9回	衛生管理	一般的な衛生消毒についての知識、 方法を身に付ける。	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストの衛生管理、衛生消毒方法につ いて確認
第10回	衛生管理	サロンで実践される消毒方法を身に付 ける。	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのサロンで実践される消毒方法 についての確認
第11回	衛生管理	サロンで実践される消毒方法を身に付 ける。	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのサロンで実践される消毒方法 についての確認
第12回	衛生管理	サロンで実践される消毒方法を身に付 ける。	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストのサロンで実践される消毒方法 についての確認
第13回	救急法	サロンやスパなどで起こりうるアクシ デントを学ぶ。また高齢者や疾患を持っ ている方への対応を学ぶ	前回の復習と予習：新エステティック学 テキストの救急法、アクシデント時の 対応方法の確認
第14回	救急法	エステティシャンが行う応急手当の 方法を学ぶ。	前回の復習と予習：エステティック学 テキストのエステティシャンが行う 応急手当についての確認
第15回	救急法	エステティシャンが行う一時救命の 処置を学ぶ。	前回の復習と予習：エステティシャン が行う一時救命処置についての確認

科目名 Subject	エステティック基礎理論Ⅱ Basic Esthetics Theory II		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	エステティックに関わる基礎的な知識を学ぶ。				
授業の目標	エステティックで必要とされるカウンセリングの基礎知識を身につけ、カウンセリングでも必須である基本的な栄養学について理解し、様々な職業、年齢（若者から高齢者）、食事習慣の方へエステティシャンとしてアドバイスできるようにする。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、授業を開始致します。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材				
	使用設備・備品	全身美容実習室・フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験 授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、提出物等含む）、試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから授業時間数の90%を下回る出席率の場合はエステティック資格取得の為に受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	エステティック カウンセリング	エステティックで必要とされる カウンセリングの基礎知識 を身につける。	テキストの読み込みを行う（エステ ティックカウンセリングについて）
第2回	エステティック カウンセリング	エステティックで必要とされる カウンセリングの基礎知識 を身につける。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストのカウンセリングの 基礎知識についての確認
第3回	エステティック カウンセリング	エステティックで必要とされる カウンセリングの基礎知識 を身につける。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストのカウンセリングの 基礎知識についての確認
第4回	エステティック カウンセリング	エステティックで必要とされる カウンセリングの基礎知識 を身につける。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストのカウンセリングカ ルテについての確認
第5回	エステティック カウンセリング	エステティックで必要とされる カウンセリングの基礎知識 を身につける。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストのカウンセリングの 方法と手順についての確認
第6回	エステティック カウンセリング	エステティックで必要とされる カウンセリングの基礎知識 を身につける。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストのカウンセリングの 方法と手順についての確認
第7回	エステティック カウンセリング	エステティックで必要とされる カウンセリングの基礎知識 を身につける。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストのカウンセリングの 方法と手順についての確認
第8回	エステティック カウンセリング	様々な職業、年齢（若者から高 齢者）、食事習慣の方へエステ ティシャンとしてアドバイス する	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストの様々な職業や年齢 の方へのアドバイスについての確 認
第9回	栄養学	栄養学の基礎知識を身につけ る。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストの栄養学の基礎知識 の確認
第10回	栄養学	栄養学の基礎知識を身につけ る。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストの栄養学の基礎知識 の確認
第11回	栄養学	栄養学の基礎知識を身につけ る。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストの栄養の種類につい ての確認
第12回	栄養学	栄養学の基礎知識を身につけ る。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストの栄養の種類につい ての確認
第13回	栄養学	栄養学の基礎知識を身につけ る。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストの摂取エネルギーや 消費エネルギーについての確認
第14回	栄養学	栄養学の基礎知識を身につけ る。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストの食品やビタミンの 種類についての確認
第15回	栄養学	栄養学の基礎知識を身につけ る。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学テキストの食品やビタミンの 種類についての確認

科目名 Subject	エステティック技術理論 Theory of Esthetic Techniques		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	エステティックに関わる基礎的な技術と知識を学ぶ。				
授業の目標	様々な年齢（若者から高齢者）や肌に合わせたクレンジングの効果と手順を理解する。 機器を利用した場合の効果とその使用方法を理解する。				
時間外学習 （予習・復習）	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、実技の説明や授業を行います。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材	フェイシャル実技教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室・フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験 授業を通しての学習意欲平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む）試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから、授業時間数の90%を下回る出席率の場合はエステティック資格取得の為に受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	フェイシャルエステ技術理論	エステティックに関係する関係法規について知る。	予習：エステティックに関係する関連法規や禁忌事項について確認する
第2回	フェイシャルエステ技術理論	エステティックに関係する関係法規について知る。	前回の復習と予習：エステティックに関係する関連法規や禁忌事項について確認する
第3回	フェイシャルエステ技術理論	エステティックで必要とされるカウンセリングの基礎知識を知る。	前回の復習との予習：新エステティック学テキストのカウンセリングの基礎知識についての確認
第4回	フェイシャルエステ技術理論	エステティックで必要とされる年齢別、肌別の技術選択の違いを知る。	前回の復習と予習：年齢別、肌別の技術選択の違いを確認を行う
第5回	ディープクレンジング (ゴマージュ・酵素)	ディープクレンジングの効果と手順を理解できる	前回の復習と予習：ディープクレンジングの効果と手順の確認を行う
第6回	ディープクレンジング (ゴマージュ・酵素)	ディープクレンジングの効果と手順を理解できる	前回の復習と予習：ディープクレンジングの効果と手順の確認を行う
第7回	フェイシャル電気機器 エレクトロクレンジング	エレクトロクレンジングの効果と手順を理解し、正確に行うことができる。	前回の復習と予習：ディープクレンジングの効果と手順の確認を行う
第8回	フェイシャル電気機器 エレクトロクレンジング	エレクトロクレンジングの効果と手順を理解し、正確に行うことができる。	前回の復習と予習：ディープクレンジングの効果と手順の確認を行う
第9回	フェイシャル電気機器 ディープクレンジング (ブラシクレンジング)	ブラシクレンジングの効果と手順を理解できる。	前回の復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順の確認を行う
第10回	フェイシャル電気機器 ディープクレンジング (ブラシクレンジング)	ブラシクレンジングの効果と手順を理解できる。	前回の復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順の確認を行う
第11回	フェイシャル電気機器 導入（イオンフォレーゼ）	機器を使った導入の効果と手順を理解できる。	前回の復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順の確認を行う
第12回	フェイシャル電気機器 導入（イオンフォレーゼ）	機器を使った導入の効果と手順を理解できる。	前回の復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順の確認を行う
第13回	フェイシャル電気機器 機器マッサージ（パター）	機器を使ったパターの効果と手順を理解できる。	前回の復習と予習：パターの効果と手順の確認を行う
第14回	フェイシャル電気機器 機器マッサージ（パター）	機器を使ったパターの効果と手順を理解できる。	前回の復習と予習：パターの効果と手順の確認を行う
第15回	フェイシャル電気機器 実技理論と実践（高周波）	高周波（直接法・間接法）のフェイシャルエステティックの効果と手順を理解できる。	前回の復習と予習：高周波の効果と手順の確認を行う



科目名 Subject	サロン経営学 Beauty Salon Management		教員名	榎戸 淳一	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	○
科目の概要	この講座では、「エステティシャンとして働く」とはどういうことを学びます。その中で、様々なサロン形態、キャリアプラン、給与をいただくこと、売上を上げることなどの意味を学んでいきます。後半には、実際にはどのようにサロンは売上を上げ、サロンマネジメントをしているのかを学び、将来のサロンオーナー、店長の仕事の基礎を学びます。				
授業の目標	職業としての「エステティシャン」を学習することで、社会人の基本知識を習得し、就職後にも役立つだけでなく、サロン運営のマネジメント能力の基礎を育成していきます。また、エステティック業界全体をイメージにとらわれず、正確な知識を得ることで、就職活動の際にも、役立つようにしていきます。この授業は、単に講義を聴くだけでなく、考えること、発表すること、他の人の意見を聞くことなどに主眼を置き、自ら考え、課題解決できるようにする。				
時間外学習 (予習・復習)	【予習】授業では、考えること、話し合いをすること、発表することに重きを置きます。そのため、次回の授業内容について、アルバイト先やインターネット等で情報を収集しておくこと。調べるべき具体的な内容は、授業内で指示します。 【復習】授業で学習したことについて、再度自分で思ったこと、考えたことについて、周りの人に話してみる。そのリアクションをもらうことによって、思考の幅が広がります。予習復習には合計で60分程度を見込みます。				
教科書・教材	教科書	「サロンはスタッフ育成で99%決まる！」(代官山ブックス)「愛されるエステティシャンの秘密！」(BABジャパン)「サロンとスタッフが輝く28+8の成功法則！」(フレグランスジャーナル) ※個別に購入しておくこと。			
	教材	必要に応じて資料を配布します。			
	使用設備・備品	特になし			
	参考文献	特になし			
評価方法	「平常点20%」「宿題20%」「毎回の授業後レポート30%」「試験30%」				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	個人ワーク、グループワークに積極的に参加すること。				
本科目履修と関連する資格	資格名	特になし。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	「働く」とは何か？	将来就職して、働く意味、働く目的を理解する。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第2回	エステティック業界の現状	エステティック業界をとりまく環境について、基本的な知識を理解、習得する。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第3回	多種多様なサロン形態	学生がエステティックサロンの多種多様なサロン形態のそれぞれの特徴を理解、習得する。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第4回	キャリアデザイン	学生がキャリアデザインについての基本を知り、自分のキャリアについてイメージを持てるようになる。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第5回	働く上での権利と義務	学生が自分の労働に対し、なぜ給料や社会保険が支払われるのかなど、給与計算の基礎を理解する。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第6回	顧客満足	学生がサロン体験をもとに、良かったこと、良くなかったことを自分たちで導き出す。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第7回	エステサロンの売上	学生がエステサロンの売上げがどのように構成されているのかを理解する。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第8回	サロンマーケティング	学生が新規集客について、様々なサロンが行っている取り組みを学ぶ。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第9回	サロンマーケティング	学生がお客様のリピート率向上のために、様々なサロンが行っている取り組みを理解する。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第10回	従業員満足	学生がインターンやアルバイトの経験をもとに、働きやすい環境について自分たちで導き出す。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第11回	サロンマネジメント	学生がスタッフ教育、給与体系、自主性向上について、様々なサロンが行っている取り組みを学ぶ。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第12回	エステサロンにおけるコンプライアンス	学生がエステティックサロンに関わる法律について、理解、習得する。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第13回	サロン経営者から学ぶ	学生が実際にサロンを経営している方をゲストで呼び出し、経営者の生の声を聴く。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第14回	業界全体の取り組み	学生が「エステティックグランプリ」の取り組みについて理解を深める。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。
第15回	まとめ	学生が全14回の講座のエッセンスを再度復習し、理解を深める。	予習は、次回テーマについて、インターネット等で情報を収集しておくこと。授業の復習と宿題を行い、思考を深めること。

科目名 Subject	フェイシャルエステ I Facial Esthetics I		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	◎	○
科目の概要	フェイシャルトリートメントの中のクレンジングとフェイシャルマッサージで基本となる 6 種類の手技（軽擦法・強擦法・揉擦法・打法・振動法・圧迫法）の目的と効果を学ぶ。				
授業の目標	本科目を履修することにより、日本エステティック協会とエステティック業協会の認定エステティシャン資格実技試験の1つであるフェイシャルマッサージ手技の目的と効果を理解し、口頭試問に答えられる。肌の状態や年齢（若者から高齢者）によってどの手技が適しているか理解する。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、実技の説明や授業を行います。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材	フェイシャル実技教材			
	使用設備・備品	フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験、授業を通しての学習意欲平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む）試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから授業時間数の90%を下回る出席率の場合はエステティック資格取得の為に受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ポイントメイククレンジング	目元、口もとのメイクを落とす手順と目的を理解する。	ポイントメイククレンジングをスムーズに出来るように手順を確認しておく
第2回	ポイントメイククレンジング	目元、口もとのメイクを落とす手順と目的を理解する。	前回の復習と予習：ポイントメイククレンジングをスムーズに出来るように手順を確認しておく
第3回	ポイントメイククレンジング スキンアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	前回の復習と予習：クレンジングとスキンアップの目的と手順を確認を行う
第4回	ポイントメイククレンジング スキンアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	前回の復習と予習：クレンジングとスキンアップの目的と手順を確認を行う
第5回	ポイントメイククレンジング スキンアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	前回の復習と予習：クレンジングとスキンアップの目的と手順を理解し、実技練習を行う
第6回	ポイントメイククレンジング スキンアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	前回の復習と予習：クレンジングとスキンアップの目的と手順を理解し、実技練習を行う
第7回	フェイシャルマッサージ (軽擦法)	軽擦法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ軽擦法の効果と手順を確認を行う
第8回	フェイシャルマッサージ (軽擦法)	軽擦法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ軽擦法の効果と手順を理解し、実技練習を行う
第9回	フェイシャルマッサージ (強擦法)	強擦法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ強擦法の効果と手順を確認を行う
第10回	フェイシャルマッサージ (強擦法)	強擦法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ強擦法の効果と手順を理解し、実技練習を行う
第11回	フェイシャルマッサージ (揉擦法)	揉擦法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ揉擦法の効果と手順を確認を行う
第12回	フェイシャルマッサージ (揉擦法)	揉擦法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ揉擦法の効果と手順を理解し、実技練習を行う
第13回	フェイシャルマッサージ (打法)	打法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ打法の効果と手順を確認を行う
第14回	フェイシャルマッサージ (打法)	打法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ打法の効果と手順を理解し、実技練習を行う
第15回	フェイシャルマッサージ (振動法)	振動法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ振動法の効果と手順を確認を行う

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	フェイシャルマッサージ (振動法)	振動法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ振動法の効果と手順を確認、実技練習を行う
第17回	フェイシャルマッサージ (圧迫法)	圧迫法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ圧迫法の効果と手順を確認を行う
第18回	フェイシャルマッサージ (圧迫法)	圧迫法の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：フェイシャルマッサージ圧迫法の効果と手順を理解し、実技練習を行う
第19回	フェイシャルパック (肌別対応)	パック塗布の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：パック塗布の目的・効果・手順の確認を行う
第20回	フェイシャルパック (肌別対応)	パック塗布の目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：パック塗布の目的・効果・手順を理解し、実技練習を行う
第21回	拭き取り (スポンジ)	パック拭き取りの目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：パックふき取りの目的・効果・手順の確認を行う
第22回	拭き取り (スポンジ)	パック拭き取りの目的・効果・手順を理解する。	前回の復習と予習：パックふき取りの目的・効果・手順を理解し、実技練習を行う
第23回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメントの目的・効果・手順の確認を行う
第24回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメントの目的・効果・手順の確認を行う
第25回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメントの目的・効果・手順の確認と実技練習を行う
第26回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメントの目的・効果・手順の確認と実技練習を行う
第27回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメントの目的・効果・手順の確認と実技練習を行う
第28回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメントの目的・効果・手順の確認と実技練習を行う
第29回	フェイシャルマッサージ チェック	マッサージ(目的・効果・手順)年齢別、肌別による手技の選択を正しく理解できているかを確認する。	前回までの復習と予習：カウンセリング・フェイシャルトリートメントの目的・効果・手順の確認と実技練習を行う
第30回	フェイシャルマッサージ チェック	マッサージ(目的・効果・手順)年齢別、肌別による手技の選択を正しく理解できているかを確認する。	前回までの復習と予習：カウンセリング・フェイシャルトリートメントの目的・効果・手順の確認と実技練習を行う

科目名 Subject	フェイシャルエステⅡ Facial EstheticsⅡ		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	◎	○
科目の概要	皮膚の基礎知識とフェイシャルエステティックにおける電気機器の効果、禁忌事項、使用方法を学ぶ。さらに上記を習得したうえでモデルにあったメニュー組み立てのためのカウンセリング方法を行う。				
授業の目標	エステティシャンセンター試験において必須である皮膚の知識を実際にモデルの肌を触って学ぶことによって統一筆記試験のための基盤を作る。またを年齢（若者から高齢者）や肌質の違うモデルに適したメニューを選択、決定、実行できるようになる。 本科目を履修することにより、エステティシャンセンターにおける皮膚科学、実技試験における電気機器の使用や選択を習得する。				
時間外学習 （予習・復習）	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、実技の説明や授業を行います。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材	フェイシャル実技教材			
	使用設備・備品	フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験、授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む）試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから授業時間数の90%を下回る出席率の場合は資格取得の為の受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	フェイシャルマッサージ クレンジング～仕上げ 通し	前期に習得した手順、6手技を 肌別、年齢別に合わせて正確に 行うことができるようになる。	予習：フェイシャルエステIで学ん だ実技の手順の確認をしておく。
第2回	フェイシャルマッサージ クレンジング～仕上げ 通し	前期に習得した手順、6手技を 肌別、年齢別に合わせて正確に 行うことができるようになる。	前回の復習と予習：新エステティ ック学テキスト実技編のフェイシャ ルマッサージの確認
第3回	フェイシャルマッサージ クレンジング～仕上げ 通し	前期に習得した手順、6手技を 肌別、年齢別に合わせて正確に 行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：フェイシャ ルトリートメントの目的・効果・手 順を理解し、実技練習を行う
第4回	フェイシャルマッサージ クレンジング～仕上げ 通し	前期に習得した手順、6手技を 肌別、年齢別に合わせて正確に 行うことができるようになる。	前回までの復習と予習フェイシャ ルトリートメントの目的・効果・手 順を理解し、実技練習を行う
第5回	フェイシャルマッサージ クレンジング～仕上げ 通し	前期に習得した手順、6手技を 肌別、年齢別に合わせて正確に 行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：フェイシャ ルトリートメントとカウンセリン グの効果・手順を理解し、実技練習 を行う
第6回	フェイシャルマッサージ クレンジング～仕上げ 通し	前期に習得した手順、6手技を 肌別、年齢別に合わせて正確に 行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：フェイシャ ルトリートメントとカウンセリン グの効果・手順を理解し、実技練習 を行う
第7回	フェイシャルマッサージ クレンジング～仕上げ 通し	前期に習得した手順、6手技を 肌別、年齢別に合わせて正確に 行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：フェイシャ ルトリートメントとカウンセリン グの効果・手順を理解し、実技練習 を行う
第8回	フェイシャルマッサージ クレンジング～仕上げ 通し	前期に習得した手順、6手技を 肌別、年齢別に合わせて正確に 行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：フェイシャ ルトリートメントとカウンセリン グの効果・手順を理解し、実技練習 を行う
第9回	ディープクレンジング復習 エレクトロクレンジング	エレクトロクレンジングの効 果と手順を理解し、正確に行う ことができるようになる。	前回までの復習と予習：新エステ ティック学テキスト実技編のエレク トロクレンジングの効果と手順の 確認を行う
第10回	ディープクレンジング復習 エレクトロクレンジング	エレクトロクレンジングの効 果と手順を理解し、正確に行う ことができるようになる。	前回までの復習と予習：新エステ ティック学テキスト実技編のエレク トロクレンジングの効果と手順の 確認を行う
第11回	ディープクレンジング復習 エレクトロクレンジング	エレクトロクレンジングの効 果と手順を理解し、正確に行う ことができるようになる。	前回までの復習と予習：新エステ ティック学テキストのエレクトロク レンジングの効果と手順の理解と 禁忌事項の確認を行う
第12回	ディープクレンジング復習 エレクトロクレンジング	エレクトロクレンジングの効 果と手順を理解し、正確に行う ことができるようになる。	前回までの復習と予習：新エステ ティック学テキストのエレクトロク レンジングの効果と手順の理解と 禁忌事項の確認を行う
第13回	ディープクレンジング復習 (ゴマージュ・酵素)	ディープクレンジングの効果 と手順を理解し、正確に行うこ とができるようになる。	前回までの復習と予習：新エステ ティック学テキストのディープク レンジングの効果と手順の確認を行 う
第14回	ディープクレンジング復習 (ゴマージュ・酵素)	ディープクレンジングの効果 と手順を理解し、正確に行うこ とができるようになる。	前回までの復習と予習：新エステ ティック学テキストのディープク レンジングの効果と手順の確認を行 う
第15回	ディープクレンジング復習 (ゴマージュ・酵素)	ディープクレンジングの効果 と手順を理解し、正確に行うこ とができるようになる。	前回までの復習と予習ディープク レンジングの効果と手順の理解と 禁忌事項の確認を行う

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ディープクレンジング復習 (ゴマージュ・酵素)	ディープクレンジングの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順の確認を行う
第17回	ディープクレンジング復習 (ブラシクレンジング)	ディープクレンジングの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順の確認を行う
第18回	ディープクレンジング復習 (ブラシクレンジング)	ディープクレンジングの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順と禁忌事項の確認を行う
第19回	ディープクレンジング復習 (ブラシクレンジング)	ディープクレンジングの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順と禁忌事項の確認を行う
第20回	ディープクレンジング復習 (ブラシクレンジング)	ディープクレンジングの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：ブラシクレンジングの効果と手順と禁忌事項の確認を行う
第21回	フェイシャル電気機器復習 導入 (イオントフォレーゼ)	機器を使った導入の効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：イオントフォレーゼの効果と手順の確認を行う
第22回	フェイシャル電気機器復習 導入 (イオントフォレーゼ)	機器を使った導入の効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：イオントフォレーゼの効果と手順の確認を行う
第23回	フェイシャル電気機器復習 導入 (イオントフォレーゼ)	機器を使った導入の効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：イオントフォレーゼの効果と手順と禁忌事項の確認を行う
第24回	フェイシャル電気機器復習 導入 (イオントフォレーゼ)	機器を使った導入の効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：イオントフォレーゼの効果と手順と禁忌事項の確認を行う
第25回	フェイシャル電気機器復習 機器マッサージ (パター)	機器を使ったパターの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：パターの効果と手順の確認を行う
第26回	フェイシャル電気機器復習 機器マッサージ (パター)	機器を使ったパターの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：パターの効果と手順の確認を行う
第27回	フェイシャル電気機器復習 機器マッサージ (パター)	機器を使ったパターの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：パターの効果と手順と禁忌事項の確認を行う
第28回	フェイシャル電気機器復習 機器マッサージ (パター)	機器を使ったパターの効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：パターの効果と手順と禁忌事項の確認を行う
第29回	フェイシャル電気機器復習 (高周波)	高周波(直説法・間接法)の効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：高周波・直接法、間接法の効果と手順の確認を行う
第30回	フェイシャル電気機器復習 (高周波)	高周波(直説法・間接法)の効果と手順を理解し、正確に行うことができるようになる。	前回までの復習と予習：高周波・直接法、間接法の効果と手順と禁忌事項の確認を行う



科目名 Subject	ボディエステ I Body Esthetics I		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	◎	◎	○
科目の概要	ボディエステティックに関わる様々な分野の基礎的な理論を学び、資格試験に合格できる知識を身に付け、ボディトリートメントの基本となる6種類の手技（軽擦法・強擦法・揉擦法・打法・振動法・圧迫法）の目的と効果を学ぶ				
授業の目標	本科目を履修することにより、日本エステティック協会とエステティック業協会の認定エステティシャン資格実技試験の1つであるボディマッサージ手技の目的と効果を理解し、口頭試問に答えられる。肌の状態や年齢（若者から高齢者）によってどの手技が適しているかわかる。				
時間外学習 （予習・復習）	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、実技の説明や授業を行います。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材	ボディ実技教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験、授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む）試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから授業時間数の90%を下回る出席率の場合はエステティック資格取得の為の受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ボディ実技理論	ボディエステティックの種類 や効果を理解して覚える。	テキスト（新エステティック学・実 技編）のボディエステティックの種類 や効果を確認
第2回	オリエンテーション ボディ実技理論	ボディエステティックの種類 や効果を理解して覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディエステティッ クの種類や効果を確認する
第3回	ボディエステ実技理論	ボディエステティックの種類 や効果を理解して覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディエステティッ クの種類や効果を確認する
第4回	ボディエステ実技理論	ボディエステティックの種類 や効果を理解して覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディエステティッ クの種類や効果を確認する
第5回	ボディエステ実技理論	ボディエステティックの種類 や効果を理解して覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディエステティッ クの種類や効果を確認する
第6回	ボディエステ実技理論	ボディエステティックの種類 や効果を理解して覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディエステティッ クの種類や効果を確認する
第7回	オリエンテーション ボディ実技概要説明 ベットセッティング	ボディ実技を行うために必要 な事前準備と消毒の方法を覚 える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディエステティッ クの準備の手順を確認する
第8回	ボディマッサージ （下肢後面）	全身ボディマッサージの部位 の1つである下肢後面のマッ サージ手技を覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ （下肢後面）を確認する
第9回	ボディマッサージ （下肢後面通し）	全身ボディマッサージの部位 の1つである下肢後面のマッ サージ手技を覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ （下肢後面）を確認する
第10回	ボディマッサージ （臀部・腰背部） 拭き取り	全身ボディマッサージの部位 の1つである臀部・腰背部のマ ッサージ手技と拭き取り方法 を覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ （臀部・腰背部）を確認する
第11回	ボディマッサージ （後面通し）	全身ボディマッサージの後面 のマッサージ手技（下肢後面・ 臀部・腰背部）を覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ （下肢後面～臀部・腰背部）を確認 する
第12回	ボディマッサージ （後面通し）	全身ボディマッサージの後面 のマッサージ手技（下肢後面・ 臀部・腰背部）を覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ （下肢後面～臀部・腰背部）を確認 する
第13回	ボディマッサージ （後面通し）	全身ボディマッサージの後面 のマッサージ手技（下肢後面・ 臀部・腰背部）を覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ （下肢後面～臀部・腰背部）を確認 する
第14回	ボディマッサージ （後面通し）	全身ボディマッサージの後面 のマッサージ手技（下肢後面・ 臀部・腰背部）を覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ （下肢後面～臀部・腰背部）を確認。 実技練習。
第15回	ボディマッサージ （後面通し）	全身ボディマッサージの後面 のマッサージ手技（下肢後面・ 臀部・腰背部）を覚える。	前回の復習と予習：新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ （下肢後面～臀部・腰背部）を確認。 実技練習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ボディマッサージ (後面通し)	全身ボディマッサージの後面のマッサージ手技(下肢後面・臀部・腰背部)を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢後面～臀部・腰背部)を確認。実技練習。
第17回	ボディマッサージ (下肢前面・上肢)	全身ボディマッサージの部位の1つである下肢前面と上肢のマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢)を確認する
第18回	ボディマッサージ (下肢前面・上肢)	全身ボディマッサージの部位の1つである下肢前面と上肢のマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢)を確認する
第19回	ボディマッサージ (下肢前面・上肢)	全身ボディマッサージの部位の1つである下肢前面と上肢のマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢)を確認する
第20回	ボディマッサージ (下肢前面・上肢)	全身ボディマッサージの部位の1つである下肢前面と上肢のマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢)を確認し実技練習する。
第21回	ボディマッサージ (下肢前面・上肢通し)	全身ボディマッサージの部位の1つである下肢前面と上肢のマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢)を確認し実技練習する。
第22回	ボディマッサージ (下肢前面・上肢通し)	全身ボディマッサージの部位の1つである下肢前面と上肢のマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢)を確認し実技練習する。
第23回	ボディマッサージ (下肢前面・上肢通し)	全身ボディマッサージの部位の1つである下肢前面と上肢のマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢)を確認し実技練習する。
第24回	ボディマッサージ (下肢前面・上肢通し)	全身ボディマッサージの部位の1つである下肢前面と上肢のマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢)を確認し実技練習する。
第25回	ボディマッサージ (腹部・デコルテ) 拭き取り	全身ボディマッサージの部位の1つである腹部とデコルテのマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(腹部・デコルテ)を確認する。
第26回	ボディマッサージ (腹部・デコルテ) 拭き取り	全身ボディマッサージの部位の1つである腹部とデコルテのマッサージ手技を覚える。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(腹部・デコルテ)を確認する。
第27回	ボディマッサージ (前面通し) チェック	年齢別、肌別による手技の選択を正しく理解できているかを確認し知識を向上させる。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢・腹部・デコルテ)を確認する。
第28回	ボディマッサージ (前面通し) チェック	年齢別、肌別による手技の選択を正しく理解できているかを確認し知識を向上させる。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢・腹部・デコルテ)を確認する。
第29回	ボディマッサージ (前面通し) チェック	年齢別、肌別による手技の選択を正しく理解できているかを確認し知識を向上させる。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢・腹部・デコルテ)を確認する。
第30回	ボディマッサージ (前面通し) チェック	年齢別、肌別による手技の選択を正しく理解できているかを確認し知識を向上させる。	前回の復習と予習:新エステティック学・実技編のボディマッサージ(下肢前面・上肢・腹部・デコルテ)を確認する。

科目名 Subject	ボディエステⅡ Body Esthetics II		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	◎	○
科目の概要	資格取得のために必要なボディ知識を学ぶ。皮膚の基礎知識とボディエステティックにおける電気機器の効果、禁忌事項、使用方法を学ぶ。さらに上記を習得したうえでモデルにあったメニュー組み立てのためのカウンセリング方法を行う。				
授業の目標	エステティシャンセンター試験において必須である皮膚の知識を実際にモデルの肌を触って学ぶことによってエステティシャンセンター筆記試験のための基盤を作る。またを年齢（若者から高齢者）や肌質の違うモデルに適したメニューを選択、決定、実行できるようになる。 本科目を履修することにより、統一試験における皮膚科学、実技試験における正しい電気機器の使用や選択を習得する。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、実技の説明や授業を行います。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材	ボディ実技教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験、授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む）試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得するために必要な科目であることから授業時間数の90%を下回る出席率の場合はエステティック資格取得のための受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ボディ実技理論 (禁忌事項・口頭試問)	ボディ機器準備方法や使用方法や肌別、年齢別の禁忌事項を理解する。	ボディエステⅠの復習と予習：新エステティック学・実技編のボディ機器と禁忌事項の確認を行う
第2回	オリエンテーション ボディ実技理論 (禁忌事項・口頭試問)	ボディ機器準備方法や使用方法や肌別、年齢別の禁忌事項を理解する。	前回の復習と予習：新エステティック学・実技編のボディ機器と禁忌事項の確認を行う
第3回	ボディ実技理論 (禁忌事項・口頭試問)	ボディ機器準備方法や使用方法や禁忌事項を理解する。	前回の復習と予習：ボディ機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第4回	ボディ実技理論 (禁忌事項・口頭試問)	ボディ機器準備方法や使用方法や禁忌事項を理解する。	前回の復習と予習：ボディ機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第5回	バイブレーター機器 (全身)	バイブレーター機器の正しい使用方法を理解する。	前回の復習と予習：バイブレーター機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第6回	バイブレーター機器 (全身)	バイブレーター機器の正しい使用方法を理解する。	前回の復習と予習：バイブレーター機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第7回	バイブレーター機器(全身) 通し 口頭試問	バイブレーター機器の正しい使用方法を覚え理解する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：バイブレーター機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第8回	バイブレーター機器(全身) 通し 口頭試問	バイブレーター機器の正しい使用方法を覚え理解する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：バイブレーター機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第9回	低周波機器 (パーツ別レイアウト)	低周波機器の正しい使用方法を理解する。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第10回	低周波機器 (パーツ別レイアウト)	低周波機器の正しい使用方法を理解する。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第11回	低周波機器 (パーツ別レイアウト)	低周波機器の正しい使用方法を理解する。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第12回	低周波機器 (パーツ別レイアウト)	低周波機器の正しい使用方法を理解する。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第13回	低周波機器(パーツ別レイアウト)通し 口頭試問	低周波機器の正しい使用方法を理解する。機器の口頭試問に適切に答えられる。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第14回	低周波機器(パーツ別レイアウト)通し 口頭試問	低周波機器の正しい使用方法を理解する。機器の口頭試問に適切に答えられる。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第15回	低周波機器の正しい使用方法を覚える。 口頭試問。	低周波機器の正しい使用方法を理解する。機器の口頭試問に適切に答えられる。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	低周波機器の正しい使用方法を覚える。 口頭試問。	低周波機器の正しい使用方法を理解する。機器の口頭試問に適切に答えられる。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第17回	低周波機器の正しい使用方法を覚える。 口頭試問。	低周波機器の正しい使用方法を理解する。機器の口頭試問に適切に答えられる。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第18回	低周波機器の正しい使用方法を覚える。 口頭試問。	低周波機器の正しい使用方法を理解する。機器の口頭試問に適切に答えられる。	前回の復習と予習：低周波機器の効果と使用上の注意と禁忌事項の確認を行う
第19回	バイブレーター機器と低周波機器を正しく使用できるか確認する。口頭試問の確認。	バイブレーター機器、低周波機器を正しい知識を理解する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：2つの機器の使用方法和効果と使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第20回	バイブレーター機器と低周波機器を正しく使用できるか確認する。口頭試問の確認。	バイブレーター機器、低周波機器を正しい知識を理解する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第21回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第22回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第23回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第24回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第25回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第26回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第27回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第28回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第29回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う
第30回	ボディ実技通し(機器を含む)	規定時間内に正確に機器を選択し、適切に使用する。機器の口頭試問に適切に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ボディマッサージと2つの機器の使用方法和使用上の注意と禁忌事項の確認。実技練習を行う

科目名 Subject	脱毛 Depilation		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	エステティックにおける脱毛技術、知識を学ぶ。				
授業の目標	ワックス脱毛の基本的な知識、テクニックを学ぶ。また、脱毛を行う際に知っておくべき皮膚疾患や毛髪科学、衛生管理、禁忌事項を学ぶ。肌別、年齢別（若者から高齢者）においての注意点も学ぶ。 日本エステティック協会の認定エステティシャン資格実技試験の1つである「ワックス脱毛」を習得し、正しくできる。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、実技の説明や授業を行います。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材	ボディ実技教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験、授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む）試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから、授業時間数の90%を下回る出席率の場合はエステティック資格取得の為に受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 脱毛理論①	毛の構造、役割、メカニズムを理解する。年齢別（高齢者）の注意点を学ぶ	新エステティック学（実技編）の脱毛理論の確認をする。予習：ワックス脱毛の禁忌事項の確認を行う。
第2回	脱毛理論②	ワックス脱毛における禁忌事項、皮膚疾患、衛生消毒を理解する。	前回の復習と予習：ワックス脱毛の禁忌事項の確認を行う。
第3回	ワックス脱毛実技	手順を正確に覚え、手早く取り残しなく脱毛出来るようになる。	前回の復習と予習：ワックス脱毛の手順の確認を行う。
第4回	ワックス脱毛実技	手順を正確に覚え、手早く取り残しなく脱毛出来るようになる。	前回の復習と予習：ワックス脱毛の手順の確認を行う。
第5回	ワックス脱毛実技	手順を正確に覚え、手早く取り残しなく脱毛出来るようになる。	前回の復習と予習：ワックス脱毛の手順の確認を行う。
第6回	ワックス脱毛実技	手順を正確に覚え、手早く取り残しなく脱毛出来るようになる。	前回の復習と予習ワックス脱毛の手順と禁忌事項・ホームケアアドバイスの確認を行う。
第7回	ワックス脱毛実技	手順を正確に覚え、手早く取り残しなく脱毛出来るようになる。	前回の復習と予習ワックス脱毛の手順と禁忌事項・ホームケアアドバイスの確認を行う。
第8回	ワックス脱毛実技	手順を正確に覚え、手早く取り残しなく脱毛出来るようになる。	前回の復習と予習ワックス脱毛の手順と禁忌事項・ホームケアアドバイスの確認を行う。
第9回	ワックス脱毛実技	手順を正確に覚え、手早く取り残しなく脱毛出来るようになる。	前回の復習と予習ワックス脱毛の手順と禁忌事項・ホームケアアドバイスの確認を行う。
第10回	実技試験模擬	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ワックス脱毛の手順や口頭試問と実技試験の流れの確認を行う。
第11回	実技試験模擬	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ワックス脱毛の手順や口頭試問と実技試験の流れの確認を行う。
第12回	実技試験模擬	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ワックス脱毛の手順や口頭試問と実技試験の流れの確認を行う。
第13回	実技試験模擬	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来る。	前回の復習と予習：ワックス脱毛の手順や口頭試問と実技試験の流れの確認を行う。
第14回	実技まとめ 技術力チェック	現場で使える技術を身につける。	前回の復習と予習ワックス脱毛実技試験の流れと口頭試問の確認。実技試験の準備を行う。
第15回	実技まとめ 技術力チェック	現場で使える技術を身につける。	前回の復習と予習ワックス脱毛実技試験の流れと口頭試問の確認。実技試験の準備を行う。



科目名 Subject	サロン実習 Beauty Salon Practice		教員名	エステチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>オープンキャンパスや学苑祭などの各種イベントを通じ、学生同士ではなく高校生や外部のお客様に対して施術を行う際に必要となるホスピタリティや言葉遣いなどの社会人基礎力を学ぶ。 また自分たちでサロンを運営することにより、より実戦に近い環境で学ぶ。</p>				
授業の目標	<p>エステティシャンとして、また一人の社会人として必要とされる社会人基礎力とともに、接客業に必要なホスピタリティやお客様に喜んでいただける技術や知識を身につけることができる。また、実際に生活習慣や年齢（若者から高齢者）が違う方の肌に触ることによってその人それぞれにあった会話や施術を習得できる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習する。</p>				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト、配布資料			
	教材	ボディ用教材・フェイシャル用教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室・フェイシャル室			
	参考文献	なし			
評価方法	平常点 50% (受講態度、授業意欲) レポート提出 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オープンキャンパス	初めて会うお客様への誘導、お声掛け、施術を行うと同時に、ホスピタリティの大切さを学ぶ。	お通し、誘導を学生同士で練習を行い、実践できるようにしておく(60分)
第2回	オープンキャンパス	初めて会うお客様への誘導、お声掛け、施術を行うと同時に、ホスピタリティの大切さを学ぶ。	お通し、誘導を学生同士で練習を行い、実践できるようにしておく(60分)
第3回	オープンキャンパス	初めて会うお客様への誘導、お声掛け、施術を行うと同時に、ホスピタリティの大切さを学ぶ。	お通し、誘導を学生同士で練習を行い、実践できるようにしておく(60分)
第4回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へボディエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術を復習し、スムーズに実践できるようにしておく(60分)
第5回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へボディエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術を復習し、スムーズに実践できるようにしておく(60分)
第6回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へボディエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第7回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へボディエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第8回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へボディエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第9回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へボディエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第10回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第11回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第12回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第13回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第14回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)
第15回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。(60分)

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	学苑祭準備	サロン開店を想定し実際に現場に必要な考え方や物品などを知る。コースの組み立てができる。	エステティック実技を復習し、経営学の教科書の該当箇所を復習する。
第17回	学苑祭準備	サロン開店を想定し実際に現場に必要な考え方や物品などを知る。コースの組み立てができる。	エステティック実技を復習し、経営学の教科書の該当箇所を復習する。
第18回	学苑祭準備	サロン開店を想定し実際に現場に必要な考え方や物品などを知る。コースの組み立てができる。	エステティック実技を復習し、経営学の教科書の該当箇所を復習する。
第19回	学苑祭 (サロン運営)	高齢者、男性、妊婦などお客様への対応を学び、フェイシャルまたはボディコースを適切に実行できる	フェイシャル、ボディの施術の流れを予習・確認する
第20回	学苑祭 (サロン運営)	高齢者、男性、妊婦などお客様への対応を学び、フェイシャルまたはボディコースを適切に実行できる	前回出来なかったところを修正し、フェイシャル、ボディの施術の流れを確認する
第21回	学苑祭 (サロン運営)	高齢者、男性、妊婦などお客様への対応を学び、フェイシャルまたはボディコースを適切に実行できる	前回出来なかったところを修正し、フェイシャル、ボディの施術の流れを確認する
第22回	学苑祭 (サロン運営)	高齢者、男性、妊婦などお客様への対応を学び、フェイシャルまたはボディコースを適切に実行できる	前回出来なかったところを修正し、フェイシャル、ボディの施術の流れを確認する
第23回	学苑祭 (サロン運営)	高齢者、男性、妊婦などお客様への対応を学び、フェイシャルまたはボディコースを適切に実行できる	前回出来なかったところを修正し、フェイシャル、ボディの施術の流れを確認する
第24回	学苑祭 (サロン運営)	高齢者、男性、妊婦などお客様への対応を学び、フェイシャルまたはボディコースを適切に実行できる	前回出来なかったところを修正し、フェイシャル、ボディの施術の流れを確認する
第25回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。
第26回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。
第27回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。
第28回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。
第29回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。
第30回	オープンキャンパス	初めてあう高齢者をふくむ異年齢の方へフェイシャルエステティックを組み立て実施できる	事前資料により当日行う施術、アフターケアについて予習する。

科目名 Subject	着装技術 I Techniques of Kimono Dressing I		教員名	着装チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	◎
科目の概要	<p>日本の伝承美、着装の技術および着物の基本知識を学び、“日本の心を着る”という豊かな感性と人を思いやる心を育て、日本人としての文化教養を身につけます。</p> <p>また「自分で着る、人に着せる」実習を通して美齢学に通ずる子供から高齢者へ向けた着つけの基本技術を習得し、接客の心得を学びながら美容総合実践として着つけ技術基礎を固めます。さらにこの科目は社会で活躍する自分の姿を常にイメージし、職業実践専門課程に基づくカリキュラムの実践を通し就職、社会事業に沿った学びができます。社会人としての素養を日本人としての資質を一回一回の授業で身につけることで、自分自身の成長を感じることが出来る科目となります。</p>				
授業の目標	<p>本科目の履修を通して、</p> <p>① 生活の中に関わる着物文化と装いを理解し、四季に応じたコーディネートや装いの表現力を養う事が出来る。</p> <p>② 山野流美道五大原則に基づいたトータルビューティの習得と美齢学の基礎実践が出来るようになる。</p> <p>③ 「自分で着る、人に着せる」の着つけの基本技術を習得する事が出来る。</p> <p>④ 社会人となる自分を常にイメージし、就職1年目から社会に貢献できる技術、マナー、日本文化の知識を習得する。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>予習・復習共に技術者として接客を意識した生活学習を行う。予習：次回授業対象の範囲につきTVや雑誌ほかSNSなどでTPOやコーディネートを確認する。復習：学びの経過をSNSに掲載したり各自タブレットに保存するなど技術向上を目で見確認する。又TVや雑誌、SNSなどからテクニックの相違を確認すること。他、コンテストやイベントの教員指導による時間外予習復習も場合により有り得る。総合で30-40時間以上の予習を見込む</p>				
教科書・教材	教科書	着つけ教本は初回に配布 ほか必要に応じてプリント配布			
	教材	授業に必要な教材を初回に配布			
	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル（保管は短大教室内）			
	参考文献	（一財）国際美容協会貯蔵			
評価方法	実技試験、筆記試験、評価シート、授業態度、小テスト				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>①個人持参物 /半紙、筆記用具、白ソックス、白タオル5本、ハサミ、名前ペン 女子は前後の衿が大きく開いたシャツ（キャミソール）、7分丈迄のレギンス 男子はVかU字型シャツ、短パン②マナー/ 実習時は髪を一つに束ねる事、素足入室は厳禁</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容着付師			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション トータルビューティと美齢学	山野が目指すトータルビューティ及び美齢学の概念を理解する	山野美容芸術短期大学の理念を覚えてくること
第2回	浴衣の知識 着付けと帯結び	着付けに必要な小物と着物の名称を覚え、一人で着物を着る事を理解する	着付けに必要な小物と各部名称について予習復習が必要
第3回	礼装 留袖の知識	礼装の着物を知る	着付けに必要な小物と各部名称について予習復習が必要
第4回	着付け前の準備	着付けの備品を覚え、着付け前の準備が出来るようになる	準備の方法につき各自 30 分程度復習すること
第5回	外出着の装い	着物の種類を学び、街着の着物について知る。	準備方法の小テストのため 30 分程度の予習が必要
第6回	小紋① 着物と名古屋帯	一人で着物が着れるようになる	小紋のについて社会情報を得てくること
第7回	小紋②	自分で小紋の着物を着ることが出来る	テキストを見て復習
第8回	一人で着る着物と帯結び	一人で名古屋帯を結ぶ事を理解する	テキストを見て復習
第9回	小紋③	一人で着物と名古屋帯を結ぶことが出来る	テキストを見て復習
第10回	一人で着る着付け仕上げ 小テスト	一定の時間内に綺麗に着付けと帯結びが出来るようになる	小テストのため事前予習が必要 (テキストでプロセスを確認)
第11回	留袖①	礼装にふさわしい、ヘアスタイル着付けのバランス感覚を学ぶ	留袖の TPO について予習
第12回	留袖のヘアメイクと着付けの デモンストレーション	留袖着付けのトータルバランスとイメージを理解する	社会情報から礼装のヘアメイクを予習して来る
第13回	留袖②	長襦袢、留袖の着付けのプロセスを理解する	テキストを見て復習
第14回	長襦袢と留袖の着付け	長襦袢、着物を上手にたたむ事が出来るようになる	テキストを見て復習
第15回	留袖③	留袖の着付けができる(復習) 袋帯の知識を学ぶ	各自学習成果を保存し確認。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	留袖の着付け帯結び	二重太鼓を結び仕上りの型が理解する	保存した画像からテキストを比較して復習
第17回	留袖④	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	美しい着付けのイメージ学習をしていく
第18回	留袖の着付けと帯結び	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を美しく仕上げる事を理解する	テキストを見て復習
第19回	留袖⑤	留袖の知識を確認し、着物の格と家紋を学び装いの違いを理解する	テキストを見て復習
第20回	格式ある席の装い ミセスの礼装	礼装にふさわしい、留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ	
第21回	留袖⑥	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第22回	留袖の表情と身のこなし	着る人にふさわしい、ヤングミセスから高齢者の装いの表現が出来るようになる	
第23回	留袖⑦	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第24回	手早く着心地の良い着付け	更に技術を磨き、手早く美しい着つけが出来るようになる	
第25回	留袖⑧	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第26回	総仕上げ	ミセスの礼装を意識し、品格のある着つけが出来るようになる	
第27回	留袖⑨	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第28回	技術試験	限られた時間に留袖と帯結びの仕上げが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場合は再試験の予習が必要
第29回	知識確認	着物に関する基礎知識を確認	テキストを熟読し前期の学びに関する知識を覚える
第30回	まとめ	着物に関する知識を総合的に理解できる	十分に知識の習得が出来なかった場合は再試験への予習が必要

科目名 Subject	メイクアップ基礎 Basic Make-up		教員名	ティミー 西村 他	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	<p>スキンケアからベーシックメイクアップまでの日常的なメイクアップを中心に実習を行う。道具の使用法、化粧品の種類や使用方法などメイクアップを学ぶための基本からはじめ、メイクアップの基本技術を毎回1項目ずつ学び、フルメイクアップができるまで育成する。フルメイクアップをマスターした後は、高齢者へのメイクアップ、フォーマルメイクアップの基礎、着物に合わせたメイクアップ等を学び、美容の現場で必要とされるメイクアップ技術と知識を持った技術者を育成する。</p>				
授業の目標	<p>メイクアップの基礎知識（道具名称、日常メイク、アンチエイジングメイク、フォーマルメイクの手順）を理解し、練習の繰り返しにより技術を身につけ実践できるようになる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>入学時に配布されるタブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、及び課題制作に必要な時間数は合計で約30時間である。</p>				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	タオル、ティッシュ、コットン、綿棒			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	実技試験25%、筆記試験25%、小課題25%、授業参加意欲25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	メイクアップする意味を学ぶ。	なぜ化粧をするのかを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第2回	メイクアップの歴史を学ぶ。	日本の化粧の歴史を理解する。	講義内容を自宅で復習。タブレット内でのクラスルーム参加作業
第3回	スキンケアの意味を学ぶ。	スキンケアの重要性と肌の美しさを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第4回	スキンケア化粧品の使い方を学ぶ。	何種類ものスキンケア化粧品を使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第5回	ベースメイクアップ化粧品の種類を学ぶ。	ベースメイクアップの重要性と化粧品の種類を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第6回	コントロールカラー、コンシーラーを学ぶ。	コントロールカラーとコンシーラーを使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第7回	ファンデーションを学ぶ。	ファンデーションの種類を理解する。リキッドファンデーションを使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第8回	フェイスパウダーを学ぶ。	フェイスパウダーとそれを使用するための道具を使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第9回	ハイライト、ローライトを学ぶ。	人種による顔の立体感の違いを理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第10回	フェイスプロポーションを学ぶ。	顔の形やパーツの配置を理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。顔写真で自身の特徴を分析し課題として提出。
第11回	アイシャドウを学ぶ。	アイメイクアップの意味を理解し、アイシャドウが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第12回	アイライン、マスカラを学ぶ。	アイライン、ビューラー、マスカラが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第13回	アイブローを描く意味を学ぶ。	アイブローによって顔の印象が変化することが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第14回	アイブローの描き方を学ぶ。	アイブローを描く道具の種類を理解し、描くことができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第15回	リップメイクを学ぶ。	リップメイクの道具種類を理解し、描くことができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	チークメイクアップを学ぶ。	チークカラーによる印象の変化を理解し、使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第17回	メイクアップのバランスを学ぶ。	各パーツのバランスがとれたメイクアップを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第18回	カラーハーモニーを学ぶ。	色の調和がとれたメイクアップを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第19回	パーティションのベースメイクアップを学ぶ。	クリームファンデーションが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第20回	パーティションのポイントメイクアップを学ぶ。	パール、ラメ、つけまつげ、リップグロスが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第21回	着物全般に合わせたメイクアップを学ぶ。	洋装と和装のメイクアップの違いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第22回	留袖のメイクアップを学ぶ。	留袖に合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第23回	老化による顔の変化を学ぶ。	老化による顔の変化が理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第24回	アンチエイジングメイクを学ぶ。	若々しく見えるメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第25回	コンセプトメイクアップの意味を学ぶ。	コンセプトに合わせてメイクアップする意味を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第26回	コンセプトメイクアップの表現を学ぶ。	コンセプトに合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第27回	アーティスティックなメイクアップを学ぶ。	アーティスティックなメイクアップを表現するための方法を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第28回	模写メイクアップを学ぶ。	アーティスティックなメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第29回	トータルメイクアップを学ぶ。	テーマに合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第30回	基礎メイクアップ全般の意味を学ぶ。	メイクアップIで学んだこと全般を統合して理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。

科目名 Subject	基礎ネイル技術 Basic Nail Techniques		教員名	加藤 宏美 他	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	<p>トータルエステティックアドバイザー（TEA）に対応したテクニックを身につける。マニキュア技術を習得するために必要な技術理論と基礎テクニックを習得する。関連科目としてネイルアートやカラーリングにおいては色彩学、メイクアップⅠの学習、ハンドマッサージ製品の成分において香粧品学の学習が必要である。</p>				
授業の目標	<p>エステティシャンとしてハンド&amp;ネイルケアの実践をとおして爪に関する美学を研究し、老若男女問わず健康で美しい爪を維持するための正しい知識と技術を身につける。ネイルケアとカラーリングの基礎的な技術を適正な手順で、他者に施術できるようになる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>ネイルの資格取得にあたり、授業以外においても各自で反復練習を行うこと。予習としてテキストの内容を確認する。ネイルケア技術においては1回につき60分～90分程度の復習を行なうことが望ましい。</p>				
教科書・教材	教科書	JNA テクニカルシステム BASIC			
	教材	配布教材は別紙参照 * 授業初回で配布します			
	使用設備・備品	美容実習室 水道			
	参考文献	新エステティック学 技術編Ⅱ 第2版			
評価方法	<p>授業内の参加意欲、ネイルに関するコンテストへの参加や受賞は評価に反映します。筆記試験内容は、主に授業で配付するテキストより出題し、実技試験は授業内での作品制作を含めて評価します。授業態度 20%、筆記 40%・実技試験 40%</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>授業の実習について開講期間中はナチュラルネイルとし、カラーリング、人工爪などは全て除去してきてください。授業内で迷惑行為にあたる言動は慎むこと。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	ネイリスト技能検定試験3級			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 道具、器具の説明 テーブルセッティング ネイルの歴史	道具、器具の役割を理解する	復習として、扱う器具の役割と特徴を覚える（60分程度）
第2回	手指消毒 ネイル技術体系 検定受験について	衛生的に道具器具を取り扱えるようになる。	
第3回	カウンセリング ポリッシュリムーブ 爪の構造と働き	テーブルセッティング～消毒～ポリッシュリムーブまでを習得する。	復習として爪の構造と働きを覚える（60分程度）
第4回	ファイリング ネイルのための皮膚科学	ファイルの持ち方、動かし方 爪の形状の種類を理解する。	
第5回	ファイリング復習 ネイルのための生理解剖学	カウンセリングをし、爪の形状を10本揃えられるようになる。	復習として爪の形状を覚え、モデルでファイリングを実践する（60分程度）
第6回	クリーンナップ ネイルのための生理解剖学	道具の正しい動作を理解する	
第7回	クリーンナップ復習 爪の病気とトラブル	キューティクル周りの処理がスムーズに行えるようになる。	復習として消毒からファイリングまでの技術をモデルで実践する。（60分～）
第8回	ニッパーの使い方 消毒法	ニッパーの持ち方、動かし方を習得する。	
第9回	ネイルケアの手順の確認	これまでの実習内容を理解し手順に従って行えるようになる。	復習としてニッパーの扱い方を覚え、モデルで実践する（120分～）
第10回	ネイルケアの手順の復習	器具を衛生的に扱うことができる	
第11回	テーブルセッティング（10分） ネイルケア（30分）	時間内に作業を終えることを目標とする	復習としてネイルケアの一連の流れを習得し時間を意識して反復練習を行う。（60分～）
第12回	テーブルセッティング（10分） ネイルケア（30分）	時間内に作業を確実に終わることができるようになる	
第13回	実技チェック テーブルセッティング～ネイルケアまで	道具、器具を正確に扱える 時間内に作業を終えることができるようになる。	復習として時間に確実に収まるように反復練習を行う（60分～）
第14回	実技チェック テーブルセッティング～ネイルケアまで	正確な手順で施術することができるようになる。	
第15回	ハンドマッサージ ハンドマッサージ理論	手の構造を把握し、ハンドマッサージの役割を理解する。	復習としてハンドマッサージの手順を習得する（30分～）

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ハンドマッサージ	マッサージの手順の習得	ボランティアなどで活用できるように反復練習を行なう(60分程度)
第17回	カラーリング 化粧品学	ポリッシュの持ち方、塗り方を理解する	
第18回	カラーリング 色彩理論	カラーリングから修正まで行うことができる	カラーリングをモデルに実践する(60分程度)
第19回	ネイルアート	アクリル絵の具を使用してネイルチップにアートを描けるようになる	課題：次回の授業までにネイルアートの図案を考える
第20回	ネイルアート	アクリル絵の具を使用して人の爪にアートを描けるようになる	
第21回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで60分。アートのテーマは「フラワー」とする。	JNEC3級野内容を把握することができる	消毒～カラーリングまでの技術を時間を意識しながら、反復練習を行う。(60～90分程度)
第22回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで60分。アートはネイルチップを使用する。	JNEC3級に相当する技術を行なうことができる	
第23回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで55分。アートは相モデルで実践する。	時間内に作業を終えることができるようになる。	消毒～カラーリングまでの技術を時間内に収めるように、反復練習を行う。(60～90分程度)
第24回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで55分。アートは相モデルで実践し、15分で仕上げる。	確実に作業を時間内に収めることができるようになる	
第25回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで50分。アートは相モデルで実践し、15分以内で仕上げる。	テーブルセッティング、衛生面、技術面においての全てを習得している	
第26回	消毒～ネイルケア～カラーリング～アートまで(70分)	テーブルセッティング、衛生面、技術面においての全てを習得している	
第27回	チップラップ① 自分の爪に装着する	手順を習得し、道具を正しく扱える	復習として材料の役割、扱い方を覚える。(30分～)
第28回	チップラップ② 相モデルで装着する	爪表面、先端を滑らかに整える	
第29回	まとめ 消毒～カラーリングまで	衛生面において不備が無く、正しく扱える	ネイルの基礎知識を含め技術がスムーズに行えるように反復練習を行なう(70分～)
第30回	まとめ 消毒～カラーリングまで	爪の長さ、形が揃えられ、全ての作業がスムーズに行える	

科目名 Subject	美齢学基礎演習 0		教員名	大西 典子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	◎	◎	○
科目の概要	<p>人間の発展や加齢の研究と応用がなされている学際的な学問がジェロントロジーである。このジェロントロジーをさらに、人々が年齢や障害に関係なくおしゃれを通してより豊かな生活を送るための（支援の）概念や手段の一つである美容に特化した形が美容福祉である。この美容福祉をより、人間のライフサイクルの様々な局面（加齢、老化、障害・病気・死）に人が美しく生きることを提唱する言葉を美齢ケアとし、これらを含んだ概念を美齢学とした。この美齢学の基礎的な概念を構成する対象となる人を学ぶことで、美齢ケアを実践できる基礎的な能力を養う。</p>				
授業の目標	<p>1 現代社会における美齢学を学ぶことの意義と目的を説明できる。                  2 美齢ケアの対象となる人間のライフサイクルにおける様々な課題（高齢者・障害者・がんサバイバー・認知症・終末期）とエステティックを関係づけることができる。                  3 様々なライフサイクルでの課題（高齢者・障害者・がんサバイバー・認知症・終末期）に応じた美齢ケアが実践できる。</p>				
時間外学習 （予習・復習）	<p>毎回の授業内容に関わる教科書や関連する情報などを調べ、授業がより深く理解できるようにする。（60分）また、各回ごとの自己の知見をノートにまとめておく。（60分）</p>				
教科書・教材	教科書	四訂美容福祉概論 学校法人山野学苑編集 2016			
	教材				
	使用設備・備品	介護実習室他			
	参考文献	20、エンゼルケア・死化粧とグリーフケア			
評価方法	平常点（20%）、小テスト（20）、試験（60%）				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>介護実習室は、お客様の居宅と考えて行動してください。内容によって教室が変更したり、持参するものがある場合、事前の授業の終了時にお知らせしますので確認してください。授業で認知症サポーター講習を受けます。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 美齢学とは	美齢学の概念が述べられる。	終了後に自らの知見のノート整理 (60分)
第2回	対象の理解(1) 高齢者のからだの変化とエステティックにおける配慮を学ぶ	エステティックに関わる高齢者のからだの変化を説明できる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のノート整理(60分)
第3回	対象の理解(2) 高齢者のこころの変化と美容の効果と効果につなげる配慮を学ぶ	高齢者のこころの変化と配慮が説明できる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のノート整理(60分)
第4回	美齢ケア(1) 高齢者の疑似体験とサロンでの配慮を学ぶ	高齢者への配慮が実施できる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のノート整理(60分)
第5回	対象の理解(3) がんサバイバーとアピランスケアについて学ぶ	がんサバイバーの心理とアピランスケアの必要性が関係づけられる	がんに関連するニュースなどを調べておく(60分)
第6回	対象の理解(4) 認知症サポーター養成講座を受講する	認知症者の理解と認知症サポーターとしての役割が説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第7回	美齢ケア(2) 高齢者の皮膚の留意点を学び、スキンケアとメイクを相モデルでカウンセリングする	高齢者の個々の状況に合わせたスキンケアとメイクのカウンセリングが実施できる	事前の教科書の精読(60分)
第8回	美齢ケア(3) 視覚や聴覚などの感覚機能の障がいとサロンでの配慮を学ぶ	視覚や聴覚障がい者のサロンでの配慮が実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第9回	美齢ケア(4) 肢体不自由について理解し、車いす利用者のサロンでの対応を学ぶ	車いす利用者へのサロンでの配慮が実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第10回	美齢ケア(5) 高齢者の五感の癒しに関わる介護アロマを学ぶ	高齢者に対する五感のリラクゼーション法としての癒しの手が実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第11回	美齢ケア(6) 高齢者・障がい者の装いの意義と展開を学ぶ	高齢者・障害者の装いと生活の活性を関係づけられる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のノート整理(60分)
第12回	美齢ケア(7) 車いす利用者に対する着物の着付けをロールプレイする	車いす利用者の着付けを行う上での配慮が工夫できる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のノート整理(60分)
第13回	美齢ケア(8) 終末期に関わる美容の意義やグリーフケアとの関連を学ぶ	終末期の苦痛とグリーフケアに美容を関係づけられる	終了後の知見のノート整理(60分)
第14回	美齢ケア(9) エステティックを用いたソーシャルイノベーションを企画する	今までの内容を実社会の課題に応用できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第15回	まとめ	美しく生きることの意義が説明できる。	事前の学習内容の復習(60分)

科目名 Subject	特別活動 Special Activities	教員名	吉田 真希		
開講年次	1	開講時期	通年	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>本学が学生にとって意義や必要性があると判断した、特別講師による講演や授業の他、ボランティア活動について随時開講する。学内行事についても特別活動の一環である。行事に参加することによって、大学生としてのマナーや協調性、自主性を身につける。資格取得のための実力を向上させる。</p>				
授業の目標	<p>平常の授業とは異なる講座等によって、見識を広める 教育目標でもある、自ら考え、行動できるようになる。振り返る力を養う。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>授業の性質上、時間内学習と時間外学習との区別が出来ないが、講演レポート作成、ボランティア等時間外学習と感ずる部分も時間内との意識でしっかりと取り組むこと。</p>				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	<p>受講態度で評価する。課題やレポート提出。 内容により、レポートや提出物がある。全ての内容を勘案して評価する。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>授業の実施については、掲示板を確認すること。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名				

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	※学校行事について ①すべて出席をもって評価対象とする。	ホスピタリティ及びコミュニケーション力等の社会人基礎力を養う。	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回	※特別講師による講演、授業について ①すべて出席をもって評価対象とする。 ②課題・レポート等課された場合 提出物も評価対象とする。	普段の授業では得られない知識経験を 得て、社会人基礎力を養う。	
第9回			
第10回			
第11回	※ボランティア活動について ①原則八王子市から提供されている活動に参加すること。 （地方出身学生については地元での活動を認める場合もある） ②必ず年1回以上参加すること。 ③参加に関しては各個人で申請すること。ただし、通常授業を避け、時間割で空いている時間帯にするか、夏季、冬季、春季休業期間中、土日祝祭日を利用すること。 ④活動終了後は、ボランティア活動報告書にサイン等をもってゼミ担当へ提出すること。	ホスピタリティ及びコミュニケーション力等の社会人基礎力を養う。	
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			



科目名 Subject	ジェロントロジー (USC) Gerontology (USC)		教員名	五十嵐 靖博	
開講年次	1	開講時期	通年	単位	4
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	△	○
科目の概要	<p>超高齢化社会を豊かに生きるために、個人レベルの加齢の問題だけでなく、社会構造の変化や諸問題まで幅広く学ぶ。その知見を美容の諸領域と結びつけ、美齢学へと発展させる基礎を築く。南カルフォルニア大学ジェロントロジー学部による e-learning を用いた遠隔授業である。</p>				
授業の目標	<p>高齢者に限らず、あらゆる年齢層の人を加齢と美容の視点から理解する。美容を通して超高齢化社会において個人と公共の発展と福祉の向上に貢献する意識をもつ。美容とジェロントロジーを融合して美齢学の基礎を習得し、職業生活に活かす知識を習得するとともにあらゆる年齢層の人をより深く理解する。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>繰り返しビデオプログラムを視聴し、深く学ぶ。 各回の復習時間は60分程度を想定します。</p>				
教科書・教材	教科書	特に指定しない。			
	教材	USC ジェロントロジー・プログラム			
	使用設備・備品	e-learning によって受講するため、iPad やインターネットにアクセスできる環境が必要である。			
	参考文献	山野正義著『生き方の革命：ますます輝く人生を』IN 通信社 R. C. アッチェリー・A. S. パルシェ著『ジェロントロジー：加齢の価値と社会の力学』きんざい			
評価方法	全てのレッスンを受講し Q&A に正答する必要がある。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	自発的に受講する姿勢が必要である。繰り返しビデオプログラムを視聴し、深く学んでほしい。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ジェロントロジーとは何か	ジェロントロジーとは何か説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること。
第2回	エージングに関する固定概念	エージングにかかわる諸問題を自分の言葉で説明できる。	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第3回	ライフコースの展望	ライフコースの観段階について説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第4回	介護と社会支援	介護と社会支援の必要性と現在、直面している諸問題を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第5回	エージングの社会学的理論	加齢を説明する主な社会学理論を自分の言葉で要約できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第6回	エージングにともなうパーソナリティの変化	加齢とともにパーソナリティがどう変わるか説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第7回	高齢者の人口動態	日本と世界の高齢者の人口動態の特徴を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第8回	加齢の生物学的理論	生物学が加齢をそのように説明するか、概略を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第9回	記憶と認知能力	加齢にともなう記憶と認知能力の変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第10回	視覚と聴覚	加齢にともなう視覚と聴覚の変化と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第11回	加齢による変化と病気の違いを理解する	加齢による変化と病気の違いを説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第12回	加齢による高齢者の心身の機能的変化と効果的な支援	加齢による高齢者の心身の機能的変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第13回	加齢にともなう慢性疾患	加齢にともなう主な慢性疾患を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第14回	高齢者の抑うつ	高齢者の抑うつの特徴と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第15回	死と死にゆく過程	死にゆく過程を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	老化と皮膚	加齢による皮膚の変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第17回	エージングと口腔衛生	高齢者の口腔ケアの効果について説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第18回	高齢者のカウンセリング	高齢者にとってのカウンセリングの効能と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第19回	ゲームの効果と記憶	高齢者の記憶を維持増進する方法について説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第20回	エクササイズによる骨粗鬆症の予防	エクササイズの重要性を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第21回	エージングとアンチエージング	アンチエージングの考え方を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第22回	ストレスと老化	ストレスが加齢に与える影響を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第23回	高齢者の転倒予防	転倒予防の方法を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第24回	加齢と人間工学的デザイン	加齢にかかわる諸問題に人間工学的デザインがどう役立つか、説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第25回	ユニバーサルデザインとバリアフリー	ユニバーサルデザインとバリアフリーとは何かを説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第26回	高齢者に関する法的、倫理的諸問題と家族関係	相続など法的、倫理的問題や家族関係の問題を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第27回	高齢者の虐待	高齢者虐待の問題と対策を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第28回	日常性のストレスと加齢	ストレスがもたらす影響を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第29回	フリーラジカルとホルモンの影響	加齢にフリーラジカルとホルモンが与える影響を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第30回	ジェロントロジーと美齢学	ジェロントロジーと美しい生活の関係を自分で考え説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること

科目名 Subject	インターンシップ Internship		教員名	鈴木 ひろ子	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>インターンシップの意味や目的、社会常識やコミュニケーションスキルについて事前準備を行い、実践に臨みます。 一定期間、企業等で仕事を体験することにより、社会人として働くとはどういうことか、社会人として必要な心構えや、知識、技術はどのようなものか、について学びます。</p>				
授業の目標	<p>一定期間、企業等で就業体験を行い、それを通して業種・職種・企業とは何かを理解できるようになる。また、自分の適性や将来について考えることができる。そして、社会人として必要な知識・能力・コミュニケーション力を知り、養うことができる。 インターンシップ先の幅広い年代層の顧客に対応する力を養える。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	期間中の日々の記録・まとめ				
教科書・教材	教科書	プリント			
	教材	なし			
	使用設備・備品	PC他（報告会対象者）			
	参考文献	長谷川文代編著「インターンシップリテラシー」西文社			
評価方法	授業や研修への取組み姿勢等とインターンシップ先の評価をもとにします。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	インターンシップは企業別に希望者を募り、選抜面接を行います。 合同ゼミで成果発表をしてもらう場合があります。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	事前教育1 〔インターンシップとは〕	インターンシップを理解できるようにする	参考文献を読み授業の目的を把握する（60分）
第2回	事前教育2 〔社会人としての心構え〕	社会人常識を知る	配布資料を読みインターンシップ先で困らないための準備を行う（60分）
第3回	事前教育3 〔ビジネスマナーについて〕	社会人常識を知る	企業研究を行いインターンシップ先で困らないための準備を行う（60分）
第4回	事前訪問	事前に企業研究を行い、インターンシップ先について理解する。	企業研究を行いインターンシップ先で困らないための準備を行う（60分）
第5回	インターンシップ1	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる状況に応じて担当教員に報告（60分）
第6回	インターンシップ2	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる状況に応じて担当教員に報告（60分）
第7回	インターンシップ3	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる状況に応じて担当教員に報告（60分）
第8回	インターンシップ4	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる状況に応じて担当教員に報告（60分）
第9回	インターンシップ5	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる状況に応じて担当教員に報告（60分）
第10回	インターンシップ6	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる状況に応じて担当教員に報告（60分）
第11回	インターンシップ7	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる状況に応じて担当教員に報告（60分）
第12回	インターンシップ8	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる状況に応じて担当教員に報告（60分）
第13回	インターンシップ9	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深めることができる	日誌を書いてふりかえる担当教員に報告（60分）
第14回	御礼状を書き、インターンシップのまとめを行う	経験したことを再度確認・精査し、今後の学習に活かすことが出来る部分を知れる。	学習の成果の確認 担当教員に報告（60分）
第15回	インターンシップの成果について報告する	自分の経験を発表することでプレゼンテーション等の知識、技術を習得できる。	パワーポイント資料を作成し学習の成果の確認（60分）

科目名 Subject	海外インターンシップ Overseas Internship		教員名	大野 淑子	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>インターンシップの意味や目的、社会常識や英語も含めたコミュニケーションスキルについて事前準備を行い、実践に臨みます。一定期間、海外の企業やサロンで仕事を体験することにより、海外で働くとはどういうことか、また社会人として必要な心構えや、知識、技術はどのようなものか、について学びます。行先により時期が異なりますが、7月初旬までに決定し7～8月に説明会及び事前学習を行います。インターンシップは8月末～9月末までの間で1週間程度の実施となります。</p>				
授業の目標	<p>海外の企業やサロン等での現場体験を通して社会を知り、グローバルに働くために必要な知識や技術が何か理解できるようになります。日本で経験できない環境の中でチャレンジ精神を持って取り組み、英語を含めたコミュニケーション能力やホスピタリティなど社会人基礎力を身につけ、進路選択のきっかけとします。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>企業研究、英語コミュニケーション力の強化など各自自覚を持って準備します。インターンシップ期間は業務内容や学んだことを整理し日々日誌をまとめながら理解を深めます。</p>				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	教員作成資料・レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材			
	使用設備・備品	ipad・PC 他			
	参考文献	「インターンシップリテラシー」長谷川文代 西文社 2010			
評価方法	事前教育課題 20%、日誌 40%、レポート 20%、報告会等での発表 20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>取り組み姿勢、健康状態によっては希望に添えない場合もあります。また海外事情により実施の変更や中止の可能性があります。渡航の注意をよく読んで参加すること。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	事前教育1 インターンシップを理解する	インターンシップの意味や目的を理解する	インターンシップ先について事前に調べ、授業で共有したことをまとめる
第2回	事前教育2 海外渡航について学ぶ	安全に海外でのインターンシップに臨むことができる	海外渡航についての資料を読み、事前に必要な情報や物を手配する
第3回	事前教育3 英語コミュニケーションを学ぶ	海外で英語でのコミュニケーションができる	英語教材による課題をこなし、授業で学んだコミュニケーションを繰り返し練習する
第4回	事前教育4 レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材により目標を明確にする	目標に向かってモチベーションをもって臨むことができる	目標をまとめた上で授業に望み、授業後に改めて整理する
第5回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	スケジュールを把握し、事前に確認の上必要な情報をまとめる 日誌をまとめる
第6回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第7回	インターンシップ	多様な客層に対し美しく齢を重ねる美齢の視点で関わる事ができる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第8回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第9回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第10回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第11回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第12回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第13回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第14回	インターンシップのまとめ	経験したことを整理しその後の学習に活かすことができる	経験したことをレポートにまとめる
第15回	成果報告	お互いの学びを共有し今後の学習に活かすことができる	自分の体験をプレゼンテーションできるよう準備する。友達の発表から共感したものを活用する

科目名 Subject	皮膚科学 I Dermatology I		教員名	柏戸 奈苗	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	肌の構造（つくり）と機能（働き・役割り）を理解することは、身体のケアを行うエステティックの施術の基礎を確立する。また、肌の老化のしくみを理解し、年齢に沿った肌ケアを理解する。				
授業の目標	肌の基本的なつくりと働き・加齢と季節による肌変化を理解し、エステティックの施術、お客様への「ホームケアアドバイス」に活かすことができる				
時間外学習 （予習・復習）	予習：予習プリントを配布しますので、教科書を見て、基本構造図を仕上げてください。復習：復習プリントを配布しますので、授業ノートを参考に仕上げ、翌週提出してください。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学—理論編 I			
	教材	毎回、プリントを配布いたします。			
	使用設備・備品				
	参考文献	皮膚がみえる(ティックリア)			
評価方法	①予習プリントと復習プリントの提出状況 ②授業への取り組み、 ③定期試験の結果から総合的に評価致します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	指定された席に着席しない場合は、欠席と見なします。授業妨害と見なされる行為が確認された場合には退出して抱くことがあります。授業中の携帯操作は禁止させていただきます携帯のスイッチは切ってください。				
本科履修と 関連する資格	資格名	センター試験・AEA 資格試験受験科目			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション Lesson 1 皮膚の基本知識	皮膚の役割、構造と機能を述べる ことができる	『復習』 課題プリント-1 『予習』 予習プリント-1
第2回	Lesson 2 美容上大切な皮膚の 6つの働き 1-皮脂膜	皮脂膜の役割・分布・皮脂分泌 過剰に起因する肌トラブルを理解 できる	『復習』 課題プリント-2 『予習』 予習プリント-2
第3回	Lesson 2 美容上大切な皮膚の 6つの働き 2-角質バリア	角質層の構造を理解し、2つの 保湿機能による角質バリアを理 解できる	『復習』 課題プリント-3 『予習』 予習プリント-3
第4回	Lesson 2 美容上大切な皮膚の 6つの働き 3-表皮のターン オーバー	表皮ターンオーバーを理解し、ター ンオーバーの短縮・遅延による肌状態 への影響を理解できる。	『復習』 課題プリント-4 『予習』 予習プリント-4
第5回	Lesson 2 美容上大切な皮膚の 6つの働き 4-メラサイトの働 き(1)	メラサイトの分布と構造・役割を理 解し、メラニン生産のしくみを理解 できる。	『復習』 課題プリント-5 『予習』 予習プリント-5
第6回	Lesson 2 美容上大切な皮膚の 6つの働き 4-メラサイトの働 き(2)	皮膚内部の日焼け反応のプロセス を理解できる。	『復習』 課題プリント-6 『予習』 予習プリント-6
第7回	Lesson 2 美容上大切な皮膚の 6つの働き 5-毛細血管	毛細血管の分布と構造、役割を 理解し、体温調節のしくみを理 解する。	『復習』 課題プリント-7 『予習』 予習プリント-7
第8回	Lesson 2 美容上大切な皮膚の 6つの働き 6-線維芽細胞	線維芽細胞の分布と役割を理 解し、真皮の老化を理解でき る。	『復習』 課題プリント-8 『予習』 予習プリント-8
第9回	Lesson1, 2 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson1, 2 の範囲の「センター問 題」が6割以上正解できる	『復習』 課題プリント-9 『予習』 予習プリント-9
第10回	Lesson 3 肌の美しさを損ね る8つの要因 1-紫外線	紫外線の種類・役割・肌への影 響、季節変化を理解できる	『復習』 課題プリント-10 『予習』 予習プリント-10
第11回	Lesson 3 肌の美しさを損ね る8つの要因 2・3・4-冷 え・乾燥・加齢	冷え・乾燥・加齢が肌に与える 影響を理解できる。	『復習』 課題プリント-11 『予習』 予習プリント-11
第12回	Lesson 3 肌の美しさを損ね る8つの要因 5-女性のリス ム	女性のリズムのしくみを学び、肌 への影響を理解できる	『復習』 課題プリント-12 『予習』 予習プリント-12
第13回	Lesson 3 肌の美しさを損ね る8つの要因 6・7-ストレス・ 胃腸の不調	ストレスのしくみ・胃腸役割を理 解し、ストレスや胃腸の不調が肌 に与えるダメージを理解できる。	『復習』 課題プリント-13 『予習』 予習プリント-13
第14回	Lesson 3 肌の美しさを損ね る8つの要因 8-生活習慣	好ましくない生活習慣が肌に 与える影響を理解できる。	『復習』 課題プリント-14 『予習』 予習プリント-14
第15回	Lesson 3 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson3 の範囲の「センター問 題」が6割以上正解できる	『復習』 課題プリント-15 (試験対策用)

科目名 Subject	皮膚科学Ⅱ DermatologyⅡ		教員名	柏戸 奈苗	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	○
科目の概要	肌の構造（つくり）と機能（働き・役割り）を理解することは、身体のケアを行うエステティックの施術の基礎を確立する。また、肌の老化のしくみを理解し、年齢に沿った肌ケアを理解する。				
授業の目標	肌の基本的なつくりと働き・加齢と季節による肌変化を理解し、エステティックの施術、お客様への「ホームケアアドバイス」に活かすことができる				
時間外学習 （予習・復習）	予習：予習プリントを配布しますので、教科書を見て、基本構造図を仕上げてください。 復習：復習プリントを配布しますので、授業ノートを参考に仕上げ、翌週提出してください。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学—理論編Ⅰ			
	教材	毎回、プリントを配布いたします。			
	使用設備・備品				
	参考文献	皮膚がみえる(ティックリア)			
評価方法	①予習プリントと復習プリントの提出状況 ②授業への取り組み、 ③定期試験の結果から総合的に評価致します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	指定された席に着席しない場合は、欠席と見なします。授業妨害と見なされる行為が確認された場合には退出して抱くことがあります。授業中の携帯操作は禁止させていただきます携帯のスイッチは切ってください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	センター試験・AEA 資格試験受験科目			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Lesson 4 様々な肌状態 1・2・美しい肌と肌意識の変化	4つの肌タイプ <sup>o</sup> を理解し、より美しい肌 <sup>o</sup> に導く美肌 <sup>o</sup> を理論的に説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー1 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー1
第2回	Lesson 4 様々な肌状態 3-衰えた肌	衰えた肌の特徴・肌を衰えさせる要因を理解し、年代別の <sup>o</sup> を理論的に説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー2 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー2
第3回	Lesson 4 様々な肌状態 4-色素沈着をおこした肌	シミ <sup>o</sup> 部位の肌状態・シミ <sup>o</sup> ができる要因を理解し、美白 <sup>o</sup> の必要性を理論的に説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー3 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー3
第4回	Lesson 4 様々な肌状態 * シミの種類と特徴	主なシミ <sup>o</sup> の種類と特徴・予防法を理解し、説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー4 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー4
第5回	Lesson 4 様々な肌状態 5-ニキビ <sup>o</sup>	ニキビ <sup>o</sup> の定義・原因・進行のステップ <sup>o</sup> を理解し、各段階の <sup>o</sup> を理論的に説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー5 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー5
第6回	Lesson 4 様々な肌状態 6-肌荒れと敏感	肌荒れと敏感の違いを理解したうえで、 <sup>o</sup> や予防法を理論的に説明できる。	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー6 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー6
第7回	Lesson 4 の復習 *センター問題にチャレンジ	Lesson4 の範囲の「センター問題」が6割以上正解できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー7 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー7
第8回	Lesson 5 肌と環境 1-肌と地域機構	日本各地の気候を理解したうえで、地域別の肌の特徴を理論的に説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー8 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー8
第9回	Lesson 5 肌と環境 2-肌と気象の季節区分	日本の気象（四季の特徴）を理解したうえで、季節ごとに求められる肌 <sup>o</sup> を理論的に説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー9 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー9
第10回	Lesson 5 肌と環境 * 季節と保湿 <sup>o</sup>	日本の気象（四季の特徴）を理解したうえで、季節ごとに求められる肌 <sup>o</sup> を理論的に説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー10 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー10
第11回	Lesson 6 肌分析 1-目的 2-考慮すべきポイント	肌分析に必要なポイント <sup>o</sup> を理解し、科学的根拠に基づいた『施術』を提案できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー11 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー11
第12回	Lesson 6 肌分析 3-肌質チェック項目	脂質に着眼した4つのチェック（皮脂・乾燥・敏感・UV感受性）により、肌質を見極めることができる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー12 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー12
第13回	Lesson 6 肌分析 4-肌タイプ <sup>o</sup>	Tゾーン・Uゾーンに着眼した肌タイプ <sup>o</sup> /分類を理解し、施術の組み立てに活用できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー13 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー13
第14回	Lesson 6 肌分析 * 混合肌	混合肌の定義と増加の要因を理解し、説明できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー14 『予習』予習 <sup>o</sup> リットー14
第15回	Lesson 5, 6 の復習 *センター問題にチャレンジ	Lesson5, 6 の範囲の「センター問題」が6割以上正解できる	『復習』課題 <sup>o</sup> リットー15 (試験対策用)

科目名 Subject	生理解剖学Ⅱ Physiological AnatomyⅡ		教員名	柏戸 奈苗	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	○
科目の概要	<p>身体各部の構造（つくり）と機能（働き・役割り）を理解することは、身体のケアを行うエステティックの施術の基礎を確立する。生理解剖学は生体学・生命活動学・皮膚科学の基礎となる科目です。</p>				
授業の目標	<p>①系ごとの、構造と機能を理解できる。 ②それぞれの器官の構造と機能を理解できる ③総合的に身体をつくりと働きをとらえ、エステティックの施術、お客様への「ホームケアアドバイス」に活かすことができる</p>				
時間外学習 （予習・復習）	<p>予習：予習プリントを配布しますので、教科書を見て、基本構造図を仕上げてください。復習：復習プリントを配布しますので、授業ノートを参考に仕上げ、翌週提出してください。</p>				
教科書・教材	教科書	新エステティック学—理論編Ⅰ			
	教材	毎回、プリントを配布いたします。			
	使用設備・備品				
	参考文献	ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）			
評価方法	<p>①予習プリントと復習プリントの提出状況、 ②授業への取り組み、 ③定期試験の結果から総合的に評価致します。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>指定された席に着席しない場合は、欠席と見なします。授業妨害と見なされる行為が確認された場合には退出して抱くことがあります。授業中の携帯操作は禁止させていただきます携帯のスイッチは切ってください。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	センター試験・AEA 資格試験受験科目			

授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考	
第1回	オリエンテーション Lesson 5 内分泌 内分泌の特徴と役割を学ぶ	内分泌系の構成と役割・外分泌との相違、内分泌の中枢を理解し、説明できる	『復習』課題プリント-1 『予習』予習プリント-1	『予習』
第2回	Lesson 5 内分泌 甲状腺・副腎・膵臓・卵巣精巣の特徴と役割を学ぶ	内分泌 甲状腺・副腎・膵臓・卵巣精巣の特徴と役割を理解し、説明できる。	『復習』課題プリント-2 『予習』予習プリント-2	『予習』
第3回	Lesson5, 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson5 の範囲の「センター問題」が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-3 『予習』予習プリント-3	『予習』
第4回	Lesson 6 呼吸器系呼吸の役割と種類、呼吸器系の構造と機能を学ぶ	呼吸器系呼吸の役割と種類、呼吸器系の構造と働きを理解し、説明できる	『復習』課題プリント-4 『予習』予習プリント-4	『予習』
第5回	Lesson 6 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson1, 2 の範囲の「センター問題」が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-5 『予習』予習プリント-5	『予習』
第6回	Lesson 7 循環器系 循環器の構造と役割、血管系の構造と役割を学ぶ	骨格各部の名称を覚える。骨の構造と関節の種類・働きを理解する。	『復習』課題プリント-6 『予習』予習プリント-6	『予習』
第7回	Lesson 7 循環器系 リンパ系の構造と役割を学ぶ	筋線維の構造と特徴を理解できる。骨格筋の名称を覚える	『復習』課題プリント-7 『予習』予習プリント-7	『予習』
第8回	Lesson 7 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson7 の範囲の「センター問題」が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-8 『予習』予習プリント-8	『予習』
第9回	Lesson 8 消化器系	消化器系の構造と役割を理解し説明できる。また、美容との関連を説明できる	『復習』課題プリント-9 『予習』予習プリント-9	『予習』
第10回	Lesson 8 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson8 の範囲の「センター問題」が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-10 『予習』予習プリント-10	『予習』
第11回	Lesson 9 泌尿器系	泌尿器の役割と種類を理解し美しさとの関連を説明できる	『復習』課題プリント-11 『予習』予習プリント-11	『予習』
第12回	Lesson 9 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson9 の範囲の「センター問題」が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-12 『予習』予習プリント-12	『予習』
第13回	Lesson 10 生殖器系	女性生殖器の構造と機能を理解できる。また、女性のリズムと肌、加齢について説明できる。	『復習』課題プリント-13 『予習』予習プリント-13	『予習』
第14回	Lesson 10 復習 センター問題にチャレンジ	Lesson10 の範囲の「センター問題」が6割以上正解できる	『復習』課題プリント-14 『予習』予習プリント-14	『予習』
第15回	Lesson5～10の応用 AEA問題にチャレンジ	Lesson5～10 の範囲の「AEA問題」が5割以上正解できる	『復習』課題プリント-15 (試験対策用)	(試験対策用)

科目名 Subject	化粧品学 Chemistry of Cosmetics		教員名	橋 友理香	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	○
科目の概要	<p>多種多様な化粧品の中から使用する化粧品を安全かつ効果的に選択するには、関連する法令を理解した上で、化粧品に含まれる成分の役割や特徴を熟知しておく必要がある。</p> <p>本科目では、化粧品に関わる法令、化粧品を理解する上で必要な化学、化粧品に含まれる主要な成分とその機能、取扱上の注意、包材などについて学ぶ。</p> <p>また、市販の化粧品に関する調査学習あるいは美齢学に通ずる独創的な化粧品の考案などの主体的学習を行い、その成果を様々な形式でプレゼンテーションする。これにより、化粧品に関する知識を深め、課題解決のための思考力・表現力を養う。</p>				
授業の目標	<p>本科目は、以下を目標に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧品に使用される代表的な成分とその性質を説明出来るようになる。</li> <li>・化粧品に関わる法令を正しく理解し説明出来るようになる。</li> <li>・化粧品学に関する調査、議論、資料作成、発表を通じて、課題の発見と解決および論理的コミュニケーションが出来るようになる。</li> </ul>				
時間外学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書あるいは配布資料を用いて授業内容を完全に理解する。</li> <li>・小テストの問題は全問正解できるようになるまで反復練習する。</li> <li>・図書やインターネットを用いて調査学習・プレゼンテーション資料の作成を行う。</li> </ul>				
教科書・教材	教科書	(書籍名) 新エステティック学-理論編Ⅱ- (著者・監修) 一般社団法人日本エステティック協会 教育研究委員会 (発行) 一般社団法人日本エステティック協会、(2016年)			
	教材	教員作成資料を ipad に配信する。			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験の得点 (50%)</li> <li>・レポートとプレゼンテーションを以下の基準で評価 (各 25%)</li> <li>●わかりやすい資料の作成ができる (+5 点) ●伝わりやすい発表・記述ができる (+5 点)</li> <li>●正確な調査ができる (+5 点) ●自身の考えを表現できる (+5 点) ●問題の背景と他者の意見を踏まえて自身の考えを表現できる (+5 点)</li> </ul> <p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ipad (充電済) と教科書を必ず持参してください。</li> <li>・ クラス全体への連絡は ipad(classroom) に配信します。</li> <li>・ 担当教員への連絡方法 E-mail: yurika.hashi@yamano.ac.jp</li> </ul>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 香粧品概論(1) 法令と分類を学ぶ	本科目の概要、香粧品に関わる法令と分類を説明できる。	教科書の通読 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第2回	香粧品概論(2) 品質と品質保証を学ぶ	香粧品の品質と品質保証、取り扱い上の注意点を説明できる。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第3回	基礎化学(1) 香粧品学に必要な理論化学・無機化学の基礎を学ぶ	香粧品を理解する上で必要な理論化学・無機化学の事項を覚える。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第4回	基礎化学(2) 香粧品学に必要な有機化学の基礎を学ぶ	香粧品を理解する上で必要な有機化学の事項を覚える。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第5回	化粧品の原料(1) 水性原料と油性原料について学ぶ	主要な水性原料と油性原料の名称とその性質を述べられる。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第6回	化粧品の原料(2) 界面活性剤、高分子化合物、着色剤、香料について学ぶ	主要な界面活性剤、着色剤の名称とその性質を述べられる。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 前半の復習 (30分)
第7回	前半のまとめと解説	1～6回講義の重要事項を記憶し、問いに正しく解答できる。	配布資料の復習 (30分) 調査学習・資料作成 (30分)
第8回	香粧品に用いられる薬剤	様々な薬剤の主要な成分の名称と性質を説明できる。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第9回	フェイシャル化粧品	フェイシャル化粧品について、主要な成分の名称と性質を説明できる。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第10回	ボディ化粧品	ボディ化粧品について、主要な成分の名称と性質を説明できる。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第11回	メイクアップ香粧品 ヘアケア香粧品	メイクアップ化粧品とヘアケア化粧品について、主要な成分の名称と性質を説明できる。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第12回	ネイル香粧品 フレグランス	ネイル化粧品とフレグランスについて、主要な成分の名称と性質を説明できる。	小テストの復習 (15分) 重要事項の暗記 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第13回	香粧品と美齢学を考える	香粧品と美齢学を関連づけて自身の意見を述べるができる。	レポート作成 (30分) 小テストの復習 (30分)
第14回	まとめと解説	全講義の重要事項を再度確認し、具体的に説明できる。	レポート作成 (60分)
第15回	課題発見・解決に関する演習	香粧品における課題を発見し、習得した知識を適用して問いに対する回答を導ける。	課題設定と解決の宿題 (60分)

科目名 Subject	エステティック基礎理論Ⅲ Basic Esthetics TheoryⅢ		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	エステティックに関わる基礎的な知識を学ぶ。				
授業の目標	エステティック基礎理論Ⅰ・Ⅱにて学んだ、法規、カウンセリング、消毒法を基に、実際にサロンにおいてはこういった行動が正しいのか理解し、実践できる。異年齢（若者や高齢者）、生活習慣の違うお客様に対し、悩みと要望を聞きだし、それに対する的確なアドバイスをできるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、授業を開始致します。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材				
	使用設備・備品	全身美容実習室・フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験 授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、提出物等含む）、試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	本授業はエステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから授業時間数の90%を下回る出席率の場合はエステティック資格取得の為の受験が出来ない場合があるので注意すること。また、授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	関連法規	エステティックに関する関係法規と実際に起きたトラブルについて知る。	エステティック基礎理論Ⅰ（関連法規）の復習と次回の予習（消費者契約法について）を行う
第2回	関連法規	エステティックに関する関係法規と実際に起きたトラブルについて知る。	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのエステティックカウンセリングについての確認
第3回	エステティックカウンセリング	一人ひとりの悩みや要望にあったカウンセリングを時間内で行う方法を具体的に学ぶ	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのエステティックカウンセリングについての確認
第4回	エステティックカウンセリング	一人ひとりの悩みや要望にあったカウンセリングを時間内で行う方法を具体的に学ぶ	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのカウンセリング項目についての確認
第5回	エステティックカウンセリング	お客様の悩みや要望についてのコースをどのようにお勧めするか学ぶ	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのカウンセリング手順についての確認
第6回	エステティックカウンセリング	お客様の悩みや要望についてのコースをどのようにお勧めするか学ぶ	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのカウンセリング手順についての確認
第7回	エステティックカウンセリング	高齢者を含めた異年齢の方への対応の仕方やアフターケアアドバイスを学ぶ	前回の復習と予習：カウンセリング手順と時間の理解し、時間内に正しく出来るように練習する
第8回	エステティックカウンセリング	高齢者を含めた異年齢の方への対応の仕方やアフターケアアドバイスを学ぶ	前回の復習と予習：カウンセリング手順と時間の理解し、時間内に正しく出来るように練習する
第9回	衛生管理	サロンで実践される消毒方法を身に付ける。フェイシャル機器の正しい消毒法を理解する	予習：新エステティック学テキストのフェイシャル機器の正しい消毒法についての確認
第10回	衛生管理	サロンで実践される消毒方法を身に付ける。フェイシャル機器の正しい消毒法を理解する	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのフェイシャル機器の正しい消毒法についての確認
第11回	衛生管理	サロンで実践される消毒方法を身に付ける。ボディ機器の正しい消毒法を理解する	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのボディ機器の正しい消毒法についての確認
第12回	衛生管理	サロンで実践される消毒方法を身に付ける。ボディ機器の正しい消毒法を理解する	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのボディ機器の正しい消毒法についての確認
第13回	衛生管理	消毒済みの機材の正しい管理方法を理解する。	前回の復習と予習：新エステティック学テキストのボディ機器の正しい消毒法と保管方法についての確認
第14回	衛生管理	消毒済みの機材の正しい管理方法を理解する。	前回の復習と予習：新エステティック学テキストの各機器の正しい消毒法と保管方法についての確認
第15回	衛生管理	サロンで実践される消毒方法を身に付ける。短時間で安価、効果的な消毒方法を選択できる。	前回の復習と予習：新エステティック学テキストの短時間で安価、効果的な消毒方法を選択についての確認

科目名 Subject	フェイシャルエステⅢ Facial EstheticsⅢ		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	皮膚の基礎知識とフェイシャルエステティックにおける電気機器の効果、禁忌事項、使用方法を学ぶ。さらに上記を習得したうえでモデルにあったメニュー組み立てのためのカウンセリング方法を行う。				
授業の目標	エステティシャンセンター試験において必須である皮膚の知識を学ぶことによってエステティシャンセンター筆記試験のための基盤を作る。またカウンセリングを正確に理解することにより高齢者も含めた異年齢、生活習慣が違う、肌質が違うモデルに適したメニューを選択、決定、実行できるようになる。 本科目を履修することにより、エステティシャンセンター試験における皮膚科学、実技試験における電気機器の使用や選択とフェイシャルカウンセリングを習得する。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、実技の説明や授業を行います。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材	フェイシャル実技教材			
	使用設備・備品	フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験、授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む）試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	エステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから授業時間数の 90%を下回る出席率の場合は資格取得の為に受験が出来ない場合があるので注意すること。授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。※先修科目の履修と単位認定が必要				
本科履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	カウンセリング	高齢者を含んだ異年齢、生活習慣が違う、肌質が違うモデル別カルテ記入方法を習得する。	エステティック基礎理論Ⅱ（カウンセリング）の復習をしておく
第2回	カウンセリング	高齢者を含んだ異年齢、生活習慣が違う、肌質が違うモデル別カルテ記入方法を習得する。	前回の復習と予習：新エステティック学実技編の肌質が違うモデル別カルテ記入方法の確認を行う
第3回	カウンセリング	高齢者を含んだ異年齢、生活習慣が違う、肌質が違うモデル別カルテ記入方法を習得する。	前回の復習と予習：新エステティック学実技編の年齢別モデル別カルテ記入方法の確認を行う
第4回	カウンセリング	高齢者を含んだ異年齢、生活習慣が違う、肌質が違うモデル別カルテ記入方法を習得する。	前回までの復習と予習：高齢者を含んだ異年齢、生活習慣の違いや肌質を確認を行う
第5回	カウンセリング	高齢者を含んだ異年齢、生活習慣が違う、肌質が違うモデル別カルテ記入方法を習得する。	前回までの復習と予習：高齢者を含んだ異年齢の方へのカウンセリング方法を確認を行う
第6回	カウンセリング	高齢者を含んだ異年齢、生活習慣が違う、肌質が違うモデル別カルテ記入方法を習得する。	前回までの復習と予習：高齢者を含んだ異年齢の方へのカウンセリング方法を確認を行う
第7回	カウンセリング	カウンセリング方法、カルテ記入の方法を習得する。	前回までの復習と予習：高齢者を含んだ異年齢の方へのカウンセリング方法を確認を行う
第8回	カウンセリング	カウンセリング方法、カルテ記入の方法を習得する。	前回までの復習と予習：高齢者を含んだ異年齢の方へのカウンセリング方法を確認を行う
第9回	カウンセリング	カウンセリング方法、カルテ記入の方法を習得する。	前回までの復習と予習：様々な方へのカウンセリング手順とカルテ記入方法の確認を行う
第10回	カウンセリング	カウンセリング方法、カルテ記入の方法を習得する。	前回までの復習と予習：様々な方へのカウンセリング手順とカルテ記入方法の確認を行う
第11回	クレンジング～カウンセリング～ディープ～機器～マッサージ～パック	試験と同様の内容の技術を一つ一つ確認しながら習得する。	前回までの復習と予習フェイシャルトリートメント実技試験の流れ確認を行う
第12回	クレンジング～カウンセリング～ディープ～機器～マッサージ～パック	試験と同様の内容の技術を一つ一つ確認しながら習得する。	前回までの復習と予習フェイシャルトリートメント実技試験の流れ確認を行う
第13回	クレンジング～カウンセリング～ディープ～機器～マッサージ～パック	試験と同様の内容の技術を一つ一つ確認しながら習得する。	前回までの復習と予習フェイシャルトリートメント実技試験の流れ確認を行う
第14回	クレンジング～カウンセリング～ディープ～機器～マッサージ～パック	試験と同様の内容の技術を一つ一つ確認しながら習得する。	前回までの復習と予習フェイシャルトリートメント実技試験の流れ確認を行う
第15回	クレンジング～カウンセリング～ディープ～機器～マッサージ～パック	試験と同様の内容の技術を一つ一つ確認しながら習得する。	前回までの復習と予習フェイシャルトリートメント実技試験の流れ確認を行う

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	クレンジング～カウンセリング～ディープ～機器～マッサージ～パック	試験と同様の内容の技術の一つ一つ確認しながら習得する。	前回までの復習と予習フェイシャルトリートメント実技試験の流れ確認を行う
第17回	実技試験模擬	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に習得する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第18回	実技試験模擬	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に習得する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第19回	実技試験模擬	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に習得する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第20回	実技試験模擬	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に習得する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第21回	実技試験模擬	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に習得する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第22回	実技試験模擬	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に習得する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第23回	実技試験模擬	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に習得する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第24回	実技試験模擬	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に習得する。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第25回	レベルチェック	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来るようになる。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第26回	レベルチェック	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来るようになる。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技試験の流れと口頭試問の確認、実技練習を行う
第27回	技術まとめ	エステティシャンセンター試験の内容に沿ってフェイシャル実技試験を行い、自分の弱点を知る。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技チェックでの振り返りをまとめる
第28回	技術まとめ	エステティシャンセンター試験の内容に沿ってフェイシャル実技試験を行い、自分の弱点を知る。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技チェックでの振り返りをまとめる
第29回	授業のまとめ	技術のまとめの結果を踏まえ、反省、改善し、実力を高める。	前回までの復習と予習：フェイシャルトリートメント実技チェックでの振り返りをまとめる
第30回	授業のまとめ	技術のまとめの結果を踏まえ、反省、改善し、実力を高める。	前回までの復習と授業のまとめ（反省点、改善点を整理し、確認する）

科目名 Subject	フェイシャルエステⅣ Facial EstheticsⅣ		教員名	エステチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	皮膚の基礎知識とフェイシャルエステティックにおける電気機器の効果、禁忌事項、使用方法を学ぶ。さらに上記を習得したうえでモデルにあったメニュー組み立てのためのカウンセリング方法を行う。				
授業の目標	今まで学んだことを基に、季節や年齢ごとの肌トラブルや、その改善のための効果的なフェイシャルエステティックトリートメントとそれぞれの悩みや要望になったホームケアアドバイスを学ぶ。本科目を履修することにより、上級試験における皮膚科学、実技試験における正しい手技や化粧品使用や選択を習得する。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習するよう心掛けること。				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト			
	教材	フェイシャル用教材			
	使用設備・備品	フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	平常点 20% (小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む) 試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。エステティック基礎理論Ⅲ、フェイシャルエステⅡ・Ⅲ、ボディエステⅡ・Ⅲの単位を取得しなければ履修できません。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション フェイシャル 上級皮膚科学①・②	協会上級試験、A E A 認定試験 で出題される皮膚に関する内 容を理解する。	教科書の皮膚の構造・役割を理解し ておく
第2回	オリエンテーション フェイシャル 上級皮膚科学①・②	協会上級試験、A E A 認定試験 で出題される皮膚に関する内 容を理解する。	教科書の皮膚の構造・役割を理解し 次週のカウンセリングに対応でき るようにする
第3回	フェイシャル化粧品学①・②	試験に対応したカウンセリ ング方法、カルテ記入の方法を習 得する。	カルテ記入の項目を把握しておく
第4回	フェイシャル化粧品学①・②	試験に対応したカウンセリ ング方法、カルテ記入の方法を習 得する。	カウンセリングをスムーズに出来 るよう項目に関係する内容を理解 しておく
第5回	フェイシャル化粧品学①・②	肌別に対応した化粧品を選 択することが出来るようになる。	授業で使用する化粧品について理 解しておく
第6回	フェイシャル化粧品学①・②	肌別に対応した化粧品を選 択することが出来るようになる。	授業で使用する化粧品について理 解しておく
第7回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ	今までに習得した手順、6 手 技、電気機器選択を的確に行 うことが出来るようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項 を理解しておく
第8回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ	今までに習得した手順、6 手 技、電気機器選択を的確に行 うことが出来るようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項 を理解しておく
第9回	肌質判断 上級カウンセリング	的確な肌質判断を行い、肌対 応したメニューを組み立てられ るようになる。	皮膚の構造・役割を理解し肌の分類 によるメニュー組み立てを把握す る
第10回	肌質判断 上級カウンセリング	的確な肌質判断を行い、肌対 応したメニューを組み立てられ るようになる。	皮膚の構造・役割を理解し肌の分類 によるメニュー組み立てを把握す る
第11回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ	肌質判断から仕上げまでの確 に行うことが出来るようになる。	季節ごとに肌分析や生活習慣によ る肌の違いを把握する
第12回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ	肌質判断から仕上げまでの確 に行うことが出来るようになる。	季節ごとに肌分析や生活習慣によ る肌の違いを把握する
第13回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ	肌質判断から仕上げまでの確 に行うことが出来るようになる。	季節ごとに肌分析や生活習慣によ る肌の違いを把握する
第14回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ	肌質判断から仕上げまでの確 に行うことが出来るようになる。	季節ごとに肌分析や生活習慣によ る肌の違いを把握する
第15回	アフターカウンセリング	トリートメント後のアドバイ スを的確に時間内に行うこと ができるようになる。	肌分析を確実に理解し、肌別のホ ムケアを理解する

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	アフターカウンセリング	トリートメント後のアドバイスを的確に時間内に行うことができるようになる。	肌分析を確実に理解し、肌別のホームケアを理解する
第17回	フェイシャル 上級皮膚科学③・④	協会上級試験、A E A 認定試験で出題される皮膚に関する内容を理解する。	協会上級試験、A E A 認定試験例題集を解いて不明点を明確にする
第18回	フェイシャル 上級皮膚科学③・④	協会上級試験、A E A 認定試験で出題される皮膚に関する内容を理解する。	協会上級試験、A E A 認定試験例題集を解いて不明点を明確にする
第19回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ～アフター	肌質判断から仕上げ、アフターまでの確に行うことができる。	季節・年齢・生活習慣は肌に及ぼす影響を把握する
第20回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ～アフター	肌質判断から仕上げ、アフターまでの確に行うことができる。	季節・年齢・生活習慣は肌に及ぼす影響を把握する
第21回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ～アフター	肌質判断から仕上げ、アフターまでの確に行うことができる。	季節・年齢・生活習慣は肌に及ぼす影響を把握し的確にアドバイスできるように復習する
第22回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ～アフター	肌質判断から仕上げ、アフターまでの確に行うことができる。	季節・年齢・生活習慣は肌に及ぼす影響を把握し的確にアドバイスできるように復習する
第23回	フェイシャルカウンセリング ～仕上げ～アフター	肌質判断から仕上げ、アフターまでの確に行うことができる。	季節・年齢・生活習慣は肌に及ぼす影響を把握し的確にアドバイスできるように復習する
第24回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする
第25回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にし、修正する
第26回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にし、修正する
第27回	実技まとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることができるようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第28回	実技まとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることができるようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第29回	実技まとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることができるようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第30回	授業のまとめ	試験に向けて改善点を理解する。	皮膚科学・電気機器学など履修した内容を正しく理解し、伝えることができるようにしておく

科目名 Subject	フェイシャルエステⅤ Facial EstheticsⅤ		教員名	エステチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	3
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	フェイシャルエステⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳで学んだことを基に、試験対応したメイク、ネイルを習得し、トータルエステティック技術を向上させる。				
授業の目標	フェイシャルエステⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳで学んだことを、AEA試験対策を行うことで知識として定着させる。また、実技試験に対応したメイク、ネイル技術を習得する。 本科目を履修することにより、エステティック業協会の上級認定エステティシャン資格試験科目の1つであるフェイシャルエステティック実技、理論を習得する。 高齢者や爪のトラブルをもったモデルへの対応などを理解し、施術方法を習得する。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習するよう心掛けること。				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト/AEA 認定試験例題集			
	教材	フェイシャル用教材			
	使用設備・備品	フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	平常点 20% (小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む) 試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。この授業は毎回3回通して行う。エステティック基礎理論Ⅲ、フェイシャルエステⅡ・Ⅲ、ボディエステⅡ・Ⅲの単位を取得しなければ履修できません。				
本科履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 卒業試験対策	A E A 認定試験で出題される内容を理解する。	AEA 認定試験例題集を予習復習する
第2回	AEA 試験対策	A E A 認定試験で出題される内容を理解する。	AEA 認定試験例題集を予習復習する
第3回	ネイルケア	試験に対応したネイルケアを習得する。	エステティック協会の教科書を復習しネイルケア方法について把握する
第4回	ネイルケア	試験に対応したネイルケアを習得する。	エステティック協会の教科書を復習しネイルケア方法について把握する
第5回	ネイルケア・ハンドマッサージ	試験に対応したネイルケアを習得する。	ネイルケア方法について把握し、ハンドマッサージの手順を確認する
第6回	ネイルケア・ハンドマッサージ ジンドマッサージ	試験に対応したネイルケアを習得する。	ネイルケア方法について把握し、ハンドマッサージの手順を確認する
第7回	メイク基礎	高齢者や骨格にあったメイク方法を学ぶ。メイクの基礎知識を基に試験に対応したメイクを習得する。	エステティック協会の教科書とジェロントロジーを復習し高齢者への理解を深める
第8回	メイク基礎	高齢者や骨格にあったメイク方法を学ぶ。メイクの基礎知識を基に試験に対応したメイクを習得する。	エステティック協会の教科書とジェロントロジーを復習し高齢者への理解を深める
第9回	メイクシーン別	試験に対応したメイクを習得する。	エステティック協会の教科書のメイク項目を復習する
第10回	メイクシーン別	試験に対応したメイクを習得する。	エステティック協会の教科書のメイク項目を復習する
第11回	AEA 試験対策	A E A 認定試験で出題される内容を理解する。	AEA 認定試験例題集を予習復習する
第12回	AEA 試験対策	A E A 認定試験で出題される内容を理解する。	AEA 認定試験例題集を予習復習する
第13回	メイクシーン別	試験に対応したメイクを習得する。	エステティック協会の教科書のメイク項目を復習し、技術の確認を行う
第14回	メイクシーン別	試験に対応したメイクを習得する。	エステティック協会の教科書のメイク項目を復習し、技術の確認を行う
第15回	ネイル	高齢者対応や爪のトラブルを理解し試験に対応したネイルを習得する。	エステティック協会の教科書の爪のトラブルの内容を復習し施術方法を把握しておく

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ネイル	高齢者対応や爪のトラブルを理解し試験に対応したネイルを習得する。	エステティック協会の教科書の爪のトラブルの内容を復習し施術方法を把握しておく
第17回	AEA 試験対策	AEA 認定試験で出題される内容を理解する。	AEA 認定試験例題集を予習復習する
第18回	AEA 試験対策	AEA 認定試験で出題される内容を理解する。	AEA 認定試験例題集を予習復習する
第19回	AEA 試験対策	AEA 認定試験で出題される内容を理解する。	AEA 認定試験例題集を予習復習する
第20回	ネイル・メイク	試験に対応したネイル・メイクを習得する。	肌トラブルや爪の感染症について理解し、正しく施術できるよう技術の確認をする
第21回	ネイル・メイク	試験に対応したネイル・メイクを習得する。	肌トラブルや爪の感染症について理解し、正しく施術できるよう技術の確認をする
第22回	ネイル・メイク	試験に対応したネイル・メイクを習得する。	肌トラブルや爪の感染症について理解し、正しく施術できるよう技術の確認をする
第23回	ネイル・メイク	試験に対応したネイル・メイクを習得する。	肌トラブルや爪の感染症について理解し、正しく施術できるよう技術の確認をする
第24回	ネイル・メイク	試験に対応したネイル・メイクを習得する。	使用する基材、施術の注意点について理解し、正しく施術できるよう理論と技術の確認をする
第25回	ネイル・メイク	試験に対応したネイル・メイクを習得する。	使用する基材、施術の注意点について理解し、正しく施術できるよう理論と技術の確認をする
第26回	ネイル・メイク	試験に対応したネイル・メイクを習得する。	使用する基材、施術の注意点について理解し、正しく施術できるよう理論と技術の確認をする
第27回	ネイル・メイク	試験に対応したネイル・メイクを習得する。	使用する基材、施術の注意点について理解し、正しく施術できるよう理論と技術の確認をする
第28回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする
第29回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	技術工程を正しく理解し、正確に施術できるようにしておく
第30回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	技術工程を正しく理解し、正確に施術できるようにしておく

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで 時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	技術工程を正しく理解し、正確に施術できるようにしておく
第32回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで 時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	技術工程を正しく理解し、正確に施術できるようにしておく
第33回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで 時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	技術工程と技術理論を理解し、時間内で施術できるようにしておく
第34回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで 時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	技術工程と技術理論を理解し、時間内で施術できるようにしておく
第35回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで 時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	技術工程と技術理論を理解し、時間内で施術できるようにしておく
第36回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで 時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	基材・注意点・禁忌事項などを理解し時間内で施術できるようにしておく
第37回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで 時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	基材・注意点・禁忌事項などを理解し時間内で施術できるようにしておく
第38回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで 時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	基材・注意点・禁忌事項などを理解し時間内で施術できるようにしておく
第39回	技術のまとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来るようになる。	時間内で正確な技術ができるようにし、技術理論も把握しておく。
第40回	技術のまとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来るようになる。	時間内で正確な技術ができるようにし、技術理論も把握しておく。
第41回	技術のまとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来るようになる。	時間内で正確な技術ができるようにし、技術理論も把握しておく。
第42回	技術のまとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来るようになる。	時間内で正確な技術ができるようにし、技術理論も把握しておく。
第43回	技術のまとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来るようになる。	正しい技術理論を理解し、施術の上での注意点を把握しモデルに合わせた施術ができるようにしておく
第44回	技術のまとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることが出来るようになる。	正しい技術理論を理解し、施術の上での注意点を把握しモデルに合わせた施術ができるようにしておく
第45回	授業のまとめ	試験に向けて改善点を理解する。	正しい技術理論を理解し、施術の上での注意点を把握しモデルに合わせた施術ができるようにしておく

科目名 Subject	フェイシャルエステⅥ Facial EstheticsⅥ		教員名	エステチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	フェイシャルエステⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴで学んだことを基に、試験対応したメイク、ネイルを習得し、トータルエステティック技術を向上させる。				
授業の目標	今まで知識、技術として定着させたものを個別に応用することができ、かつ、試験本番時に時間内で的確な判断をすることが出来るようになる。高齢者や肌質の異なる方への対応を正しく行うことができる。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習するよう心掛けること。				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト			
	教材	フェイシャル用教材			
	使用設備・備品	フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	平常点 20% (小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む) 試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。 この科目はフェイシャルエステⅣ・Ⅴ、ボディエステⅣの単位を取得しなければ履修できません。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック業協会 (AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	フェイシャルカウンセリング カウンセリングシート 作成（機器含む）	試験に対応したカウンセリング 方法、カルテ記入の方法を習 得する	カウンセリングをスムーズに出来 るよう項目に関係する内容を理解 しておく
第2回	フェイシャルカウンセリング カウンセリングシート 作成（機器含む）	試験に対応したカウンセリング 方法、カルテ記入の方法を習 得する	カウンセリングをスムーズに出来 るよう項目に関係する内容を理解 しておく
第3回	フェイシャルカウンセリング 機器（エレクトロ） フェイシャルマッサージ	機器を使った効果と手順、マッ サージの6手技を理解し、正確 に行うことができるようになる。	エレクトロの効果・注意点・禁忌事 項を予習しておく
第4回	フェイシャルカウンセリング 機器（エレクトロ） フェイシャルマッサージ	機器を使った効果と手順、マッ サージの6手技を理解し、正確 に行うことができるようになる。	エレクトロの効果・注意点・禁忌事 項を把握し正しく施術できるよう にしておく
第5回	フェイシャルカウンセリング 機器（ディープ） フェイシャルマッサージ	機器を使った効果と手順、マッ サージの6手技を理解し、正確 に行うことができるようになる。	ディープクレンジングの種類・効 果・注意点・禁忌事項を予習してお く
第6回	フェイシャルカウンセリング 機器（ディープ） フェイシャルマッサージ	機器を使った効果と手順、マッ サージの6手技を理解し、正確 に行うことができるようになる。	ディープクレンジングの種類・効 果・注意点・禁忌事項を把握し正し く施術できるようにしておく
第7回	フェイシャルカウンセリング 機器（導入） フェイシャルマッサージ	機器を使った効果と手順、マッ サージの6手技を理解し、正確 に行うことができるようになる。	導入の効果・注意点・禁忌事項を予 習しておく
第8回	フェイシャルカウンセリング 機器（導入） フェイシャルマッサージ	機器を使った効果と手順、マッ サージの6手技を理解し、正確 に行うことができるようになる。	導入の効果・注意点・禁忌事項を把 握し正しく施術できるようにして おく
第9回	フェイシャルカウンセリング 機器（パター） フェイシャルマッサージ	機器を使った効果と手順、マッ サージの6手技を理解し、正確 に行うことができるようになる。	パターの効果・注意点・禁忌事項を 予習しておく
第10回	フェイシャルカウンセリング 機器（パター） フェイシャルマッサージ	機器を使った効果と手順、マッ サージの6手技を理解し、正確 に行うことができるようになる。	パターの効果・注意点・禁忌事項を 把握し正しく施術できるようにし ておく
第11回	フェイシャルカウンセリング 機器（通し） フェイシャルマッサージ	肌質を理解しメニューの決定 選択を正確に行う。6手技を滑 らかに行うことができるよう になる。	皮膚科学の肌別対応を復習しメニ ュー組み立てを正しく選択し、施術 できるようにしておく
第12回	フェイシャルカウンセリング 機器（通し） フェイシャルマッサージ	肌質を理解しメニューの決定 選択を正確に行う。6手技を滑 らかに行うことができるよう になる。	皮膚科学の肌別対応を復習しメニ ュー組み立てを正しく選択し、施術 できるようにしておく
第13回	フェイシャルカウンセリング 機器（通し） フェイシャルマッサージ	肌質を理解しメニューの決定 選択を正確に行う。6手技を滑 らかに行うことができるよう になる。	皮膚科学の肌別対応を復習しメニ ュー組み立てを正しく選択し、施術 できるようにしておく
第14回	フェイシャルカウンセリング 機器（通し） フェイシャルマッサージ	肌質を理解しメニューの決定 選択を正確に行う。6手技を滑 らかに行うことができるよう になる。	皮膚科学の肌別対応を復習しメニ ュー組み立てを正しく選択し、施術 できるようにしておく
第15回	口頭試問対策	口頭試問で出題されるそれぞ れの効果、禁忌、注意点を正確 に言えるようになる。	化粧品、機器の効果、禁忌、注意 点を正確に把握しておく

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	メイク・ネイル	試験に対応したネイル・メイクをシーン別に行うことができるようになる。	使用する基材、施術の注意点について理解し、正しく施術できるよう理論と技術の確認をする
第17回	フェイシャルカウンセリング 機器（通し） フェイシャルマッサージ メイク・ネイル	卒業試験の流れを理解し、一つ一つ丁寧に正確に行うことができるようになる。	使用する基材、機器、施術の注意点について理解し、正しく施術できるよう理論と技術の確認をする
第18回	フェイシャルカウンセリング 機器（通し） フェイシャルマッサージ メイク・ネイル	卒業試験の流れを理解し、一つ一つ丁寧に正確に行うことができるようになる。	使用する基材、機器、施術の注意点について理解し、正しく施術できるよう理論と技術の確認をする
第19回	フェイシャルカウンセリング 機器（通し） フェイシャルマッサージ メイク・ネイル	卒業試験の流れを理解し、一つ一つ丁寧に正確に行うことができるようになる。	使用する基材、機器、施術の注意点について理解し、正しく施術できるよう理論と技術の確認をする
第20回	フェイシャル実技試験模擬 (試験対応)	卒業試験の流れでカウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする
第21回	フェイシャル実技試験模擬 (試験対応)	卒業試験の流れでカウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする
第22回	フェイシャル実技試験模擬 (試験対応)	卒業試験の流れでカウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする
第23回	フェイシャル実技試験模擬 (試験対応)	卒業試験の流れでカウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする
第24回	技術のまとめ	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	モデルにあったメニューの構築のために注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第25回	技術のまとめ	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	モデルにあったメニューの構築のために注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第26回	技術のまとめ	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	モデルにあったメニューの構築のために注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第27回	技術のまとめ	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	モデルにあったメニューの構築のために注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第28回	技術のまとめ	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	モデルにあったメニューの構築のために注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第29回	技術のまとめ	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行うことができるようになる。	モデルにあったメニューの構築のために注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第30回	授業のまとめ	試験に向けて改善点を理解する。	履修した内容を正しく理解し、伝えることができるようにしておく

科目名 Subject	ボディエステⅢ Body EstheticsⅢ		教員名	エステチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	3
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	ボディエステⅠ、Ⅱの内容を踏まえ、的確なアドバイスができるようなカウンセリング力を身につける。皮膚の基礎知識とボディエステティックにおける電気機器の効果、禁忌事項、使用方法を学ぶ。さらに上記を習得したうえでモデルにあったメニュー組み立てのためのカウンセリング方法を行う。				
授業の目標	資格取得に向け、高度なマッサージ技術とカウンセリング力を習得する。 統一試験において必須である皮膚の知識を学ぶことによって統一筆記試験のための基盤を作る。またカウンセリングを正確に理解することにより高齢者も含めた異年齢、生活習慣が違ふ、肌質が違ふモデルに適したメニューを選択、決定、実行できるようになる。 本科目を履修することにより、統一試験における皮膚科学、実技試験における電気機器の使用や選択とボディカウンセリングを習得する。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を確認し、教科書等で予習すること。授業では教科書等の内容が理解されていることを前提として、実技の説明や授業を行います。				
教科書・教材	教科書	新エステティック学（日本エステティック協会テキスト）			
	教材	ボディ実技教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室			
	参考文献				
評価方法	実技試験、筆記試験、授業を通しての学習意欲。平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む）試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	エステティックの資格を取得する為に必要な科目であることから授業時間数の 90%を下回る出席率の場合は資格取得の為の受験が出来ない場合があるので注意すること。授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。※先修科目の履修と単位認定が必要				
本科履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 認定エステティシャン 日本エステティック業協会(AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ボディマッサージ (前面通し)	全身ボディマッサージ前面の マッサージ手技(下肢前面・上 肢・腹部・デコルテ)を正確に 行える。	ボディエステⅠ・Ⅱの復習と予習: 新エステティック学(実技編)のボ ディマッサージの手順を確認する
第2回	オリエンテーション ボディマッサージ (前面通し)	全身ボディマッサージ前面の マッサージ手技(下肢前面・上 肢・腹部・デコルテ)を正確に 行える。	前回の復習と予習:新エステティッ ク学(実技編)のボディマッサージ の手順を確認する
第3回	オリエンテーション ボディマッサージ (前面通し)	全身ボディマッサージ前面の マッサージ手技(下肢前面・上 肢・腹部・デコルテ)を正確に 行える。	前回の復習と予習:新エステティッ ク学・実技編のボディマッサージ (下肢前面・上肢・腹部・デコルテ) を確認。
第4回	ボディマッサージ (全身通し)	全身ボディマッサージ前面の マッサージ手技(下肢前面・上 肢・腹部・デコルテ)を正確に 行える。	前回の復習と予習:新エステティッ ク学(実技編)のボディマッサージ (全身)手順を確認。
第5回	ボディマッサージ (全身通し)	全身ボディマッサージ前面の マッサージ手技(下肢前面・上 肢・腹部・デコルテ)を正確に 行える。	前回の復習と予習:新エステティッ ク学(実技編)のボディマッサージ (全身)手順を確認。
第6回	ボディマッサージ (全身通し)	全身ボディマッサージ前面の マッサージ手技(下肢前面・上 肢・腹部・デコルテ)を正確に 行える。	前回の復習と予習:新エステティッ ク学(実技編)のボディマッサージ (全身)手順を確認。
第7回	ボディマッサージ (全身通し)	全身ボディマッサージ前面の マッサージ手技(下肢前面・上 肢・腹部・デコルテ)を正確に 行える。	前回の復習と予習:新エステティッ ク学(実技編)のボディマッサージ (全身)手順を確認と実技練習を行 う
第8回	ボディマッサージ (全身通し)	全身ボディマッサージ前面の マッサージ手技(下肢前面・上 肢・腹部・デコルテ)を正確に 行える。	前回の復習と予習:新エステティッ ク学(実技編)のボディマッサージ (全身)手順を確認と実技練習を行 う
第9回	ボディカウンセリング 採寸・口頭試問	ボディカウンセリングを行う ことが出来る。採寸方法を学 び、機器、施術内容に関する質 問に答えられる。	前回の復習と予習:カウンセリング と採寸手順と禁忌事項の確認を行 う
第10回	ボディカウンセリング 採寸・口頭試問	ボディカウンセリングを行う ことが出来る。採寸方法を学 び、機器、施術内容に関する質 問に答えられる。	前回の復習と予習:カウンセリング と採寸手順と禁忌事項の確認を行 う
第11回	ボディカウンセリング 採寸・口頭試問	ボディカウンセリングを行う ことが出来る。採寸方法を学 び、機器、施術内容に関する質 問に答えられる。	前回の復習と予習:カウンセリング と採寸手順と禁忌事項の確認を行 う
第12回	ボディカウンセリング ボディマッサージ (全身通し)	ボディカウンセリングを行う ことが出来る。採寸方法を学 び、機器、施術内容に関する質 問に答えられる。	前回の復習と予習:カウンセリング ～ボディマッサージと採寸手順と 禁忌事項の確認を行う
第13回	ボディカウンセリング ボディマッサージ (全身通し)	ボディカウンセリングを行う ことが出来る。採寸方法を学 び、機器、施術内容に関する質 問に答えられる。	前回の復習と予習:カウンセリング ～ボディマッサージと採寸手順と 禁忌事項の確認を行う
第14回	ボディカウンセリング ボディマッサージ (全身通し)	ボディカウンセリングを行う ことが出来る。採寸方法を学 び、機器、施術内容に関する質 問に答えられる。	前回の復習と予習:カウンセリング ～ボディマッサージと採寸手順と 禁忌事項の確認を行う
第15回	ボディカウンセリング ボディマッサージ (全身通し)	ボディカウンセリングを行う ことが出来る。採寸方法を学 び、機器、施術内容に関する質 問に答えられる。	前回の復習と予習:カウンセリング ～ボディマッサージと採寸手順と 禁忌事項の確認を行う





授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと禁忌事項の確認と実技練習を行う
第32回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと禁忌事項の確認と実技練習を行う
第33回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第34回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第35回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第36回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第37回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第38回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第39回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第40回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第41回	ボディ実技試験模擬	カウンセリングを行い、機器、施術内容を選択でき使用できる。施術内容の口頭質問に答えられる。	前回の復習と予習：カウンセリングを含むボディトリートメントの流れと口頭試問の確認と実技練習を行う
第42回	ボディ技術まとめ	試験に向けて改善点を学び、センター資格実技試験のボディ試験合格レベルに達することができる。	前回の復習と予習：実技の弱い部分を振り返り整理し改善する。実技試験の流れの確認と実技練習を行う
第43回	ボディ技術まとめ	試験に向けて改善点を学び、センター資格実技試験のボディ試験合格レベルに達することができる。	前回の復習と予習：実技の弱い部分を振り返り整理し改善する。実技試験の流れの確認と実技練習を行う
第44回	ボディ技術まとめ	試験に向けて改善点を学び、センター資格実技試験のボディ試験合格レベルに達することができる。	前回の復習と予習：実技の弱い部分を振り返り整理し改善する。実技試験の流れの確認と実技練習を行う
第45回	授業のまとめ	試験に向けて改善点を学び、センター資格実技試験のボディ試験合格レベルに達することができる。	前回の復習と予習：実技の弱い部分を振り返り整理し改善する。実技試験の流れの確認と実技練習を行う

科目名 Subject	ボディエステⅣ Body EstheticsⅣ		教員名	エステチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	3
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	エステティックⅠ、Ⅱ、Ⅲ、の内容を踏まえ、試験対応した採寸方法やボディ機器技術を習得し、トータルエステティック技術を向上させる。AEA試験に対応できるカウンセリングを学ぶ。				
授業の目標	AEA試験に向けたカウンセリングシート作成及びボディメイキングの為の正しい機器の選択ができるようになる。本科目を履修することにより、AEAの資格実技試験に対応したボディエステティック全般を習得する。フェイシャルエステⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで学んだことを、AEA試験対策を行うことで知識として定着させる。 高齢者モデルへの機器などの選択方法や対応などを理解し、施術方法を習得する。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習するよう心掛けること。				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト			
	教材	ボディ用教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室			
	参考文献				
評価方法	平常点 20% (小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む) 試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。3回通しの授業である。 この科目はエステティック基礎理論Ⅲ、フェイシャルエステⅡ・Ⅲ、ボディエステⅡ・Ⅲの単位を取得しなければ履修できません。				
本科履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック業協会(AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ボディカウンセリング カウンセリングシート 作成（ボディ機器含む）	マッサージとボディ機器の含めたカウンセリングシートを作成できるようになる。	カウンセリングをスムーズに出来るよう項目に関係する内容を理解しておく
第2回	オリエンテーション ボディカウンセリング カウンセリングシート 作成（ボディ機器含む）	マッサージとボディ機器の含めたカウンセリングシートを作成できるようになる。	カウンセリングをスムーズに出来るよう項目に関係する内容を理解しておく
第3回	オリエンテーション ボディカウンセリング カウンセリングシート 作成（ボディ機器含む）	マッサージとボディ機器の含めたカウンセリングシートを作成できるようになる。	カウンセリングをスムーズに出来るよう項目に関係する内容を理解しておく
第4回	ボディカウンセリング カウンセリングシート 作成（ボディ機器含む）	高齢者への機器や化粧品を選択方法を学ぶ	カウンセリングをスムーズに出来るよう項目に関係する内容を理解して高齢者へのの対応方法を復習する。
第5回	ボディカウンセリング カウンセリングシート 作成（ボディ機器含む）	高齢者への機器の選択方法を学ぶ	カウンセリングをスムーズに出来るよう項目に関係する内容を理解して高齢者へのの対応方法を復習する。
第6回	ボディカウンセリング カウンセリングシート 作成（ボディ機器含む）	高齢者への機器の選択方法を学ぶ	カウンセリングをスムーズに出来るよう項目に関係する内容を理解して高齢者へのの対応方法を復習する。
第7回	ボディカウンセリング ボディ機器（G5） ボディマッサージ	ボディカウンセリングを行い、ボディマッサージ手技と正しいボディ機器の使用方法を習得する。	G5の効果・注意点・禁忌事項を予習しておく
第8回	ボディカウンセリング ボディ機器（G5） ボディマッサージ	ボディカウンセリングを行い、ボディマッサージ手技と正しいボディ機器の使用方法を習得する。	G5の効果・注意点・禁忌事項を予習しておく
第9回	ボディカウンセリング ボディ機器（G5） ボディマッサージ	ボディカウンセリングを行い、ボディマッサージ手技と正しいボディ機器の使用方法を習得する。	G5の効果・注意点・禁忌事項を予習しておく
第10回	ボディカウンセリング ボディ機器（G5） ボディマッサージ	ボディカウンセリングを行い、ボディマッサージ手技と正しいボディ機器の使用方法を習得する。	G5の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第11回	ボディカウンセリング ボディ機器（G5） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	G5の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第12回	ボディカウンセリング ボディ機器（G5） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	G5の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第13回	ボディカウンセリング ボディ機器（サクション） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	サクション効果・注意点・禁忌事項を予習しておく
第14回	ボディカウンセリング ボディ機器（サクション） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	サクション効果・注意点・禁忌事項を予習しておく
第15回	ボディカウンセリング ボディ機器（サクション） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	サクション効果・注意点・禁忌事項を予習しておく

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ボディカウンセリング ボディ機器（サクション） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	サクション効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第17回	ボディカウンセリング ボディ機器（サクション） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	サクション効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第18回	ボディカウンセリング ボディ機器（サクション） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	サクション効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第19回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	全身の筋肉の位置と名称を正しく理解しておく
第20回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	全身の筋肉の位置と名称を正しく理解しておく
第21回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	全身の筋肉の位置と名称を正しく理解しておく
第22回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	低周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第23回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	低周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第24回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	低周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第25回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	低周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第26回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	低周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第27回	ボディカウンセリング ボディ機器（低周波） ボディマッサージ	筋肉に対するパディング方法を理解し、正確に行うことができるようになる。	低周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第28回	ボディカウンセリング ボディ機器（高周波） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	低周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第29回	ボディカウンセリング ボディ機器（高周波） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	高周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第30回	ボディカウンセリング ボディ機器（高周波） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	高周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	ボディカウンセリング ボディ機器（高周波） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	高周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第32回	ボディカウンセリング ボディ機器（高周波） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	高周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第33回	ボディカウンセリング ボディ機器（高周波） ボディマッサージ	機器を使った効果と手順、マッサージの6手技を理解し、正確に行うことができるようになる。	高周波の効果・注意点・禁忌事項を把握し正しく施術できるようにしておく
第34回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第35回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第36回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第37回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第38回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第39回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第40回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第41回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第42回	ボディカウンセリング ボディ機器（通し） ボディマッサージ	悩みと原因を理解しメニューの決定選択を正確に行う。6手技を滑らかに行うことができるようになる。	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第43回	ボディ実技試験模擬 （試験対応）	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ確に行うことができるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする
第44回	ボディ実技試験模擬 （試験対応）	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ確に行うことができるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする
第45回	ボディ実技試験模擬 （試験対応）	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ確に行うことができるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする

科目名 Subject	ボディエステV Body Esthetics V		教員名	エステチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	◎	○
科目の概要	エステティック I、II、III、IVの内容を踏まえ、上級試験に対応できるカウンセリングを学ぶ。				
授業の目標	<p>A E A 試験に向けたカウンセリングシート作成及びボディメイキングの為の正しい機器の選択ができるようになる。</p> <p>本科目を履修することにより、A E A の資格実技試験に対応したボディエステティック全般を習得することができる。</p> <p>本科目を履修することにより、エステティック業協会の上級認定エステティシャン資格試験科目の1つであるボディエステティック実技、理論を習得する。</p> <p>高齢者や肌質の違うモデルへの対応などを理解し、施術方法を習得する。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習するよう心掛けること。				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト			
	教材	ボディ用教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室			
	参考文献				
評価方法	平常点 20% (小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む) 試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	この科目はフェイシャルエステⅣ・Ⅴ、ボディエステⅣの単位を取得しなければ履修できません。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック業協会(AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ボディカウンセリング	生活習慣、年齢、肌質の違うモデルへの正しい対応を学ぶ。	前期で学習したカウンセリングについて復習し実施できるようにしておく
第2回	ボディカウンセリング	高齢者など異年齢、肌質の違うモデルへの正しい対応を学ぶ。	前期で学習したカウンセリングについて復習し実施できるようにしておく
第3回	ボディ実技・ワックス	ワックス禁忌や注意点、アフターケア、毛髪について正しく理解し説明できる	毛髪の成り立ち、教科書のワックス記載部分を理解しておく
第4回	ボディ実技・ワックス	ワックス禁忌や注意点、アフターケア、毛髪について理解し正しく実施できる	毛髪の成り立ち、教科書のワックス記載部分を理解しておく
第5回	ボディ化粧品学①	試験に対応したカウンセリング方法、カルテ記入の方法を習得する。	カルテ記入の項目を把握しておく
第6回	ボディ化粧品学②	試験に対応したカウンセリング方法、カルテ記入の方法を習得する。	カウンセリングをスムーズに出来るよう項目に関係する内容を理解しておく
第7回	ボディ化粧品学③	肌別に対応した化粧品を選択することが出来るようになる。	授業で使用する化粧品について理解しておく
第8回	ボディ化粧品学④	肌別に対応した化粧品を選択することが出来るようになる。	授業で使用する化粧品について理解しておく
第9回	ボディカウンセリング～仕上げ	今までに習得した手順、6手技、電気機器選択を的確に行うことが出来るようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項を理解しておく
第10回	ボディカウンセリング～仕上げ	今までに習得した手順、6手技、電気機器選択を的確に行うことが出来るようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項を理解しておく
第11回	姿勢判断 上級カウンセリング	的確な姿勢判断を行い、目的に対応したメニューを組み立てられるようになる。	骨格・姿勢を理解し目的別メニュー組み立てを把握する
第12回	姿勢判断 上級カウンセリング	的確な姿勢判断を行い、目的に対応したメニューを組み立てられるようになる。	骨格・姿勢を理解し目的別メニュー組み立てを把握する
第13回	ボディカウンセリング～仕上げ	身体の判断から仕上げまでの確に行うことが出来るようになる。	季節ごとの肌分析や生活習慣、姿勢による問題の違いを把握する
第14回	ボディカウンセリング～仕上げ	身体の判断から仕上げまでの確に行うことが出来るようになる。	季節ごとの肌分析や生活習慣、姿勢による問題の違いを把握する
第15回	ボディカウンセリング～仕上げ	身体の判断から仕上げまでの確に行うことが出来るようになる。	季節ごとの肌分析や生活習慣、姿勢による問題の違いを把握する



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	アフターカウンセリング	トリートメント後のアドバイスを的確に時間内に行うことができるようになる。	身体の状態を確実に理解し、目的別のホームケアを理解する
第17回	アフターカウンセリング	トリートメント後のアドバイスを的確に時間内に行うことができるようになる。	身体の状態を確実に理解し、目的別のホームケアを理解する
第18回	ボディ解剖生理1	協会上級試験、A E A 認定試験で出題される身体に関する内容を理解する。	協会上級試験、A E A 認定試験例題集を解いて不明点を明確にする
第19回	ボディ解剖生理2	協会上級試験、A E A 認定試験で出題される身体に関する内容を理解する。	協会上級試験、A E A 認定試験例題集を解いて不明点を明確にする
第20回	ボディカウンセリング～仕上げ～アフター	身体判断から仕上げ、アフターまでの確に行うことができる。	季節・年齢・生活習慣が身体に及ぼす影響を把握する
第21回	ボディカウンセリング～仕上げ～アフター	身体判断から仕上げ、アフターまでの確に行うことができる。	季節・年齢・生活習慣が身体に及ぼす影響を把握する
第22回	ボディカウンセリング～仕上げ～アフター	身体判断から仕上げ、アフターまでの確に行うことができる。	季節・年齢・生活習慣は身体に及ぼす影響を把握し的確にアドバイスできるように復習する
第23回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にし、修正する
第24回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にし、修正する
第25回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にし、修正する
第26回	実技模擬試験	カウンセリングから実技まで時間内に正確かつ的確に行えるようになる。	不得意な個所を次回の授業までに明確にし、修正する
第27回	実技まとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることができるようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第28回	実技まとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることができるようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第29回	実技まとめ	時間内に技術を終え、かつ的確に質問に答えることができるようになる。	電気機器の効果・注意点・禁忌事項・アフターケアなどを示すことができるようにしておく
第30回	授業のまとめ	試験に向けて改善点を理解する。	皮膚科学・電気機器学など履修した内容を正しく理解し、伝えることができるようにしておく

科目名 Subject	ヘアメイクアップ Hairstyling and Make-up		教員名	下家 由起子	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	○
科目の概要	<p>「メイクアップⅠ」で学んだベーシックな知識を発展させたメイクアップの応用を学ぶ。施術を行う対象者の個性に合わせ、どのような技術を施せば似合うのかを、学生自らが考え実践する。美しくメイクアップを仕上げる技術者の育成のみならず、化粧品の紹介や販売にも必要な知識を学ぶ。また写真撮影、動画撮影、舞台、ファッションショー、婚礼、高齢者へのメイクアップ等、の日常とは異なる現場でのメイクアップ技術・知識も学ぶ。デモンストラーションによる展示または資料写真を参考に相モデルでメイクアップ作品を制作する。</p> <p>ヘアテクニックにおいては、総合的な美しさを捉えるうえで、髪や頭皮に関する知識を理解し、ヘッドスパやヘアスタイルなど美しさをケアしていく幅広い技術が必要とされる。そのために必要となるスキャルプトリートメント技術をヘッドスパやマッサージの実践を通して学び、また、ヘアスタイルのアレンジ技術では、バリエーション豊かなスタイルを学んでいく。</p>				
授業の目標	<p>様々な顔立ち、肌色にあわせたメイクアップができるようになる。一つの表現をするにはさまざまな方法があることを理解し、何種類かの方法の中から学生が主体的に手法を選択し、臨機応変に対応できるようになる。施術される側の顔の立体感、陰影、各パーツの特徴、性格や好み、ライフスタイルを理解し、似合うメイクアップを提供できる知識、技術、経験を身につけ、メイクアップを通じて施術を受ける側の満足感を提供できるようになる。</p> <p>ヘアテクニックでは、ヘアに関する基礎的な知識を理解し、技術が行えるようになる。ヘッドスパからヘアスタイルのアレンジまで幅広くヘアテクニックを学ぶことを目標とする。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>タブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、課題制作、撮影作品制作準備に必要な時間数は合計で約30時間である。</p>				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	洗顔料、タオル、ティッシュ、コットン、綿棒/ヘアテクニック道具類			
	使用設備・備品	メイク実習室、シャンプー実習室			
	参考文献	なし			
評価方法	作品制作25%、筆記試験25%、小課題25%、授業参加意欲25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	顔型や年齢によるメイクアップ応用の知識を学ぶ。	顔の形の違いや、美齢学に基づいた年齢による顔の違いを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第2回	顔型や年齢によるメイクアップ応用の技術を学ぶ。	顔の違いによって提供する技術が違うことを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第3回	肌色によるメイクアップ応用の知識を学ぶ。	肌の色になぜ違いが生まれるか理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第4回	肌色によるメイクアップ応用の技術を学ぶ。	肌の色によって提供する技術が違うことを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第5回	立体分析の意味を学ぶ。	顔の立体的な構造を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第6回	自身の顔の立体を学ぶ。	自身の顔の立体感を正しく理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第7回	立体分析の個人差を学ぶ。	顔の立体感に個人差があることを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第8回	他者の顔の立体を学ぶ。	個人差のある顔の立体感に適切なベースメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第9回	骨格分析の意味を学ぶ。	頭蓋骨の基本的な構造を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第10回	自身の顔の骨格を学ぶ。	自身の骨格をメイクアップで表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第11回	セルフアップの確認 アップスタイルの基礎を学ぶ	ヘア道具の扱い方・身だしなみを理解する。 ヘアの扱い方を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第12回	ヘアアレンジを学ぶ① ホットカーラー/アイロン/フットライクニック	ヘアスタイルを仕上げるうえでのオリジナルセットの技術が理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第13回	ヘアアレンジを学ぶ② ブレイドI	ヘアスタイルを仕上げるための基礎的なブレイドテクニックが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第14回	ヘアアレンジを学ぶ④ ヘアゴムテクニックI	ヘアゴムを使用したアレンジスタイルが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第15回	ヘアケア技術を学ぶ① 指圧マッサージ	毛髪の基礎知識ならびにスキャルプ・指圧マッサージ技術が出来るようになる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ヘアケアを学ぶ② シャンプー技術	バックシャンプー技術を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第17回	ヘアケアを学ぶ③ ヘッドスパⅠ	ヘッドスパ技術における頭皮ケアを重点的に理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第18回	ヘアケアを学ぶ④ ヘッドスパⅡ	ヘッドスパ技術におけるトリートメントを重点的に理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第19回	ヘアアレンジを学ぶ⑤ アップⅠ（夜会巻）	夜会巻のヘアスタイルが出来るようになる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第20回	ヘアアレンジを学ぶ⑥ アレンジスタイルの応用	これまで習得した技術を複数使用したヘアアレンジを行い、ヘアアレンジの習熟度をチェックする。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第21回	洋装のブライダルシーンの知識を学ぶ。	ブライダルの現場で求められる知識や振る舞いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第22回	洋装のブライダルメイクアップの技術を学ぶ。	洋装のブライダルメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第23回	和装のブライダルシーンの知識を学ぶ。	洋装ブライダルメイクアップとの違いが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第24回	和装のブライダルメイクアップの技術を学ぶ。	和装花嫁のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第25回	海外の秋冬メイクアップトレンドを学ぶ。	パリ、ロンドン、NY等のメイクアップトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第26回	海外のファッションショーでトレンドになった秋冬メイクアップスタイルを模写する。	海外でのファッションショーに必要な技術を習得する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第27回	写真撮影のメイクアップに関する知識を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に必要な知識が理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第28回	写真撮影のメイクアップに関する技術を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に求められる技術を表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第29回	作品制作のリハーサルを行う。	作品制作に向けチーム内で意見を出し合い、メイクアップに反映できる。	チーム内で作品の方向性を話し合い、共同作業が円滑に進むよう調整する。
第30回	作品コンセプトの発表を行う。	チームごとに作品のコンセプトを発表できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。

科目名 Subject	着装技術Ⅱ Techniques of Kimono Dressing II		教員名	着装チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	<p>着装技術Ⅰで学んだ技術と知識をベースに、プロの技術者＝「山野流着装奥伝講師・美容着付師」の資格取得を目的とし、老若男女、健常者、障害者を問わない技術・技能を修得します。実習では七五三、成人式振袖、婚礼列席者の装い等、美容サロンで需要の大きい実践技術を徹底して学ぶ他、ヘアメイクを含むトータルビューティの表現力を磨くことで、”人に着付ける”というプロの立場と”教えさせていただく”という指導者の立場を深く理解していきます。この職業実践専門課程の実施を通じ、美齢学を踏まえ社会に役立つ技術者として就職1年目から現場で貢献できる総合力が確実に習得できます。</p>				
授業の目標	<p>本科目の履修を通して、                  ①就職一年目から美容技術の現場で評価される「美容着付師」の資格を取得する。 ②                  サロンワークをイメージした実践学習を重ね技術者とお客様の双方の立場を理解し、技術見識共に美容着付けのプロを意識したトータルビューティを表現できる出来るようになる。                  ③学内外の国際的なイベントやボランティアに積極的に参加し、日本人として自国の文化や着物の知識を伝えたり授業で学んだ技術を実践することで、社会で活かせる経験を積み技術力を磨く。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>プロの着付師をイメージし技術のスキルアップと経験を積むための予習、復習を個人の学習課題とする。●技術者として社会の情報収集を欠かさず行い、自分の技術をリンクさせ見る目を養いながら、伝統文化の基本と時代に即した表現力を研究する。さらに SNS を常識的な範囲内で有効に使用し個人のアピールをする●美容着付師技能審査合格のために課題の練習を随時欠かさず行う。(30 - 40 時間以上を要する)</p>				
教科書・教材	教科書	山野流着装教伝			
	教材	着装技術Ⅰの教材を使用。新たに必要な教材を課題ごとに配布			
	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル(保管は短大内)			
	参考文献	(一財)国際美容協会貯蔵			
評価方法	実技試験、筆記試験、評価シート、授業態度、小テスト、				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	①個人持参物/筆記用具、半紙、白ソックス、白タオル5本、女子は前後の衿が大きく開いたシャツ(キャミソール)、7分丈までのレギンス、男子はVかU字型シャツ、短パン ② マナー/実習時は髪をひとつに束ねる事、素足入室は厳禁 ③美容着付師申請は別途手続き有り				
本科目履修と関連する資格	資格名	美容着付師			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション サロン技術の実践① 体型補正 帯結び：末広太鼓	冠婚葬祭の装いを理解し、年代に対応する技術力を高める	通過儀礼の事前学習を要する（自分と着物の関わりを記録してくる）
第2回	助手の心得 喪服・夏の礼装	様々なシーンでの着物の常識を知り、サロンワークのシチュエーションでの技術を学ぶ	テキストを事前に一読してくる
第3回	サロン技術の実践② 七五三の女兒・男児	七五三の意味を理解し、子供の着つけの特徴を学び実践する	テキストを事前に一読してくる
第4回	付き添いの装い 色無地・訪問着	付き添いの母や祖母の装いとしての着つけと帯結びを知る	テキストを事前に一読してくる
第5回	サロン技術の実践③ 振袖のきつけ①	サロン営業の主流となる振袖の着つけを通し着付師の心得を学ぶ	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第6回	振袖帯結び：花の舞	振袖に着つけと帯結びのプロセスを理解する	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第7回	サロン技術の実践④ 振袖のきつけ②	着付師の心を知り 適切な体型補正を行い着つける	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第8回	振袖帯結び：ファンタジー	振袖にふさわしい帯結びのバランスを学ぶ	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第9回	サロン技術の実践⑤ 振袖のきつけ③	お客様の体型に合わせた着つけを行い、帯型を選択する	復習として帯型の模範と自分の作品との違いを確認する
第10回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー 評価シート	仕上がりを評価シートにより自分の技術を確認する	評価シート判定に向けて技術予習が必要
第11回	サロン技術の実践⑥ 振袖のきつけ④	着付師を意識し、スムーズな動きで着つけができるようになる	
第12回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識するようになる	技術自主学习（所要時間は 90 分程度）
第13回	サロン技術の実践⑦ 振袖のきつけ⑤	着付師を意識し、着つけと帯結びが出来るようになる	
第14回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識するようになる	技術自主学习（所要時間は 90 分程度）
第15回	サロン技術の実践⑧ 振袖のきつけ⑥	着付師を意識し、決められた時間での着つけと帯結びが出来るようになる	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識できるようになる	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第17回	サロン技術の実践⑨ 振袖のきつけ⑦	決められた時間に着つけと帯結びが出来るようになる	
第18回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー 評価シート	評価を通し、振袖と帯結びの技術が着付師のレベルにた事を確認する	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第19回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	技能審査に向けて、プロのレベルに達する事が出来るようになる	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第20回	技術試験 振袖のきつけと帯結び	決められた時間に着つけと帯結びが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場合は再試験の予習が必要
第21回	海外研修	海外研修旅行で短時間での着つけが出来るようになる	海外で着用する着物と帯の事前準備のため、着物が入るバックを持参する
第22回	自装・他装 アイコー枕使用	早着せ、早着替えの工夫としてアイコー枕での帯結びができるようになる	テキストを見て事前学習をする
第23回	サロン技術の実践⑩ 卒業式の装い	卒業式で装う女子の袴の着つけが出来るようになる	社会情報の収集を事前に行う
第24回	女子の袴	袴のための着つけの特徴を知る、袴の扱い方とたたみ方を学ぶ	袴のたたみ方を復習する
第25回	サロン技術の実践⑪ 卒業式の装い	成人式、婚礼の男子の袴の着つけが出来るよう②なる	社会情報の収集を事前に行う
第26回	男子の袴	女子袴との違い、着つけの特徴を知り、袴のたたみ方ができるようになる	袴のたたみ方を復習する
第27回	サロン技術の実践⑫ 振袖の着つけ	振袖の着つけと帯のバリエーションを増やす	社会情報の収集を事前に行う
第28回	帯のバリエーション 振袖帯結び：二枚扇	アイコー枕を使用し、振袖の着つけの自装ができるようになる	情報に応じた自分らしいスタイルを考えてくる
第29回	筆記試験	日本人として老若男女を問わず美しい着つけと着物の知識を理解出来るよう②なる	十分に知識の習得が出来なかった場合は再試験への予習が必要
第30回	式典での装い 礼装 振袖・男袴	資格取得の認定証授与式にむけて着つけの技術を確認する	自分の装いのコーディネイトを事前に準備し、場合によっては持参する

科目名 Subject	応用ネイル技術 Applied Nail Techniques		教員名	加藤 宏美 他	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	○	◎
科目の概要	基礎ネイルで習得した技術をベースとしてソークオフジェルの技法を学ぶ。エステティックの国際ライセンスの取得につながるフットケアの技法を習得する。関連科目として接・客接遇法、色彩学、トータル的な美を追求するためにヘアメイクアップを学ぶことが望ましい。				
授業の目標	ネイルの器具、用具を正しく扱うことができ、技術理論に基づいた作業ができる。年齢を問わず、お客様に合わせたネイル技術を提供できるようになることを目標とする。爪を健やかに保つために、加齢による爪の病気などを見極め、お客さまに適切なアドバイスを行うことができる。薬剤の役割とその使用法、及び適切な手順を覚え、爪を修復することができる。				
時間外学習 (予習・復習)	ネイルの資格取得にあたり、授業以外においても各自で反復練習を行うこと。技術においては1回につき60分～90分程度の復習を行なうことが望ましい。				
教科書・教材	教科書	JNA テクニカルシステム BASIC 発行 NPO 法人日本ネイリスト協会			
	教材	配布教材は別紙参照 * 授業初回で配布します			
	使用設備・備品	美容実習室・水道			
	参考文献	新エステティック学 技術編Ⅱ 第2版			
評価方法	授業内の参加意欲、ネイルに関するコンテストへの参加や受賞は評価に反映します。筆記試験内容は、主に授業で配付するテキストより出題し、実技試験は授業内での作品制作を含めて評価します。授業態度 20%、筆記 40%・実技試験 40%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業の実習について開講期間中はナチュラルネイルとし、カラーリング、人工爪などは全て除去してきてください。授業内で迷惑行為にあたる言動は慎むこと。 * 基礎ネイル技術単位取得が履修条件です。				
本科履修と 関連する資格	資格名	ネイリスト技能検定試験 2級			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 道具、器具の説明 テーブルセッティング	道具、器具、マニキュア化粧品の成分を理解する	
第2回	ネイルケア・カラーリング (タイム計測) チップラップを自分の爪で練習する	前期の技術を手順どおりに施術することができる。チップラップ技術の手順を覚える。	
第3回	チップラップを相モデルで練習する	材料の特長、使用方法を理解することができる	
第4回	シェラック① ハイブリッドネイルケアシステムを学ぶ	材料の特長、使用方法を理解することができる	次週までにアートのデザインを考えてくる
第5回	シェラック② 自分の爪で練習する	アート用の素材を使用しデザインすることができる	検定受験者グループはタイム計測を実施する
第6回	シェラック③作品制作	バランスを考えてネイルチップにデザインすることができる	次週のアートのデッサンを考えてくる。その他、必要に応じて装飾品を持参する。
第7回	ハロウィンアート制作	色彩と共にテーマに沿ったアートを描くことができる。	検定受験者グループはタイム計測を実施する
第8回	ハロウィンアート制作	装飾品を使用して作品を作ることができる	検定受験者グループはタイム計測を実施する
第9回	フットケア① デモンストレーション 足の爪の病気について学ぶ	フットケアの必要性と使用する器具用具の役割を覚える	
第10回	フットケア② 器具用具の扱い方	フットケア技術の手順を習得することができる	
第11回	フットケア③ 実践	フットケアの手順を覚え、時間を意識して施術することができる	
第12回	フットケア④ 実践	足の状態を見極め、その状態に合わせた施術を行なうことができる	
第13回	スカルプチュアネイル① 理論 筆の扱い方 フォームの装着	人工爪の理論、製品の特長を理解することができる	
第14回	スカルプチュアネイル② 材料の特長と技法を学ぶ	自分の爪に施術することができる技法を理解することができる	
第15回	スカルプチュアネイル③実技	全ての技術工程において手順通りに施術することができる。	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	スカルプチュアネイル④ 材料の特長と技法を学ぶ	全ての技術工程においての時間を意識して施術することができる。	
第17回	チップオーバーレイ	技術の理論と製品の特長を理解することができる	
第18回	チップオーバーレイ	正しく製品を扱い、自分の爪に施術することができる	
第19回	3D、エンボスアート技術	材料の特長を理解することができる	
第20回	3D、エンボスアート②アート制作の練習	指定されたテーマを考えて作ることができる	次週のアートのデッサンを考えてくる。その他、必要に応じて装飾品を持参する。
第21回	「クリスマス」又は「和」をテーマにした作品制作	色彩と共にテーマに沿ったアートを描くことができる。	
第22回	「クリスマス」又は「和」をテーマにした作品制作	装飾品を使用して作品を作ることができる	
第23回	ジェルスカルプチュア①	材料の理論と使用法を理解することができる	
第24回	ジェルスカルプチュア②実技	相モデルで実践し、手順どおりに施術することができる	
第25回	人工爪とアート①	スカルプチュアネイルとエンボスアートを行なうことができる	
第26回	人工爪とアート② 技術の復習	スカルプチュアネイルとエンボスアートを時間内に行なうことができる	
第27回	ネイル技術のまとめ 理論と技術	チップラップ・スカルプチュア・3Dを取り入れ独創的なネイルアートの作品を制作することができる。	
第28回	ネイル技術のまとめ 理論と技術	チップラップ・スカルプチュア・3Dを取り入れ独創的なネイルアートの作品を制作することができる。	
第29回	ソークオフジェル	実技の手順を習得し、仕上がりまでの時間を意識して施術することができる。	
第30回	ソークオフジェル	実技の手順を習得し、仕上がりまでの時間を意識して施術することができる。	

科目名 Subject	カウンセリング Counselling		教員名	五十嵐 靖博	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	○
科目の概要	<p>エステティックサロンを訪れる顧客は、単に美しくなることだけでなく、リラクゼーションによって心も身体も癒されることを求めている。そのためにはまず顧客の要望をていねいに傾聴することが必要である。本科目では、本学が目指すホスピタリティの精神を前提として、カウンセリングの基本的な考え方と技法を習得し、こうした顧客のニーズに応えられるエステティシャンを養成することを目的としている。</p>				
授業の目標	<p>カウンセリングという行為を通じて、コミュニケーションやホスピタリティを実践的に展開できることが最終目標である。そのためにカウンセリングの理論と技法を基礎から系統的に習得し、それらを用いて顧客とより深いコミュニケーションを行うことができ、十全にニーズをくみ取る力を身につけることを目標とする。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>事前に次回の授業内容を確認し、テキストを読むこと。授業後に要点となる事項を自分の言葉で振り返ること。</p>				
教科書・教材	教科書	「ビューティプロフェSSIONALのためのカウンセリング」(ナカニシヤ出版)			
	教材	適宜、資料を配布する。			
	使用設備・備品	ビデオなどの視聴覚教材を使用する。			
	参考文献	日本エステティック協会テキスト			
評価方法	次の3点を総合的に評価する。平常点 20%、ワーク 20%、試験 60%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	履修内容は難しくはないが、単に知識を得るだけでなく、理解して実践できることが重要である。そのため特に演習に積極的な姿勢で参加してほしい。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック業協会(AEA) 上級エステティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション： エステティックとカウンセリング	カウンセリングとエステティック・カウンセラーの役割を説明できる	授業前にエステティックとカウンセリングの関係を考える。授業後にそれを自分で説明する
第2回	心のメカニズムと顧客のニーズ	心のメカニズムと顧客のニーズを知る方法を説明できる	予め自分の心観をふり返る。授業後に心理学的カウンセリングの効果を自分で説明する
第3回	「傾聴」と「かかわり行動」	聴き方の基本について説明できる	予習としてテキストの傾聴の項を読む。授業後に傾聴の事例を考える
第4回	応答技法	応答技法とは何か、説明できる	予習として生活の中の応答の例を考える。授業後にそれをカウンセリング理論を用いて説明する
第5回	カウンセリングの流れ	カウンセリングの過程の各段階を説明できる	予習として教科書のカウンセリング過程の項を読む。授業後にその終結までの過程を整理する
第6回	カウンセリングの技法：マイクロカウンセリングの考え方	カウンセリングの様々な技法について説明できる	予習としてカウンセリングの諸技法について調べる。授業後に諸技法を自分の言葉で説明する
第7回	エステティシャン試験用問題演習：概要について	エステティシャン試験の概要を説明できる	予習として試験の実施要領を調べる。授業後に試験の概要をまとめる
第8回	エステティシャン試験用問題演習：留意点について	エステティシャン試験に合格するために必要なポイントを説明できる	予習として得意分野と苦手分野を調べる。授業後に苦手分野を補強する
第9回	「かかわり行動」に関する演習	「かかわり行動」について体験しその意義を説明できる	予め生活におけるかかわり行動を調べる。授業後にそれをカウンセリング理論によって説明する
第10回	「質問技法」の理解と演習	「質問技法」を自分で試行できる	予習として2つの質問技法を調べる。授業後に実際にそれを用いて質問を作成する
第11回	「応答技法」に関する演習	「応答技法」を習得する	予習として応答技法とは何か調べる。復習として紙上ワークを行う
第12回	ロールプレイング	応答を実際に体験し、その意義を説明できる	予め教科書の当該の節を読んで理解する。授業後に職業場面でのやり取りをこの仕方でも説明する
第13回	交流分析：エゴグラム	自己および他者についてエゴグラムを用いて説明できる	授業前に交流分析について調べる。授業後に身近な人に適用して考える
第14回	アサーショントレーニング	望ましい自己表現とは何か、説明できる	予めアサーションについて調べ理解する。授業後に自分で試行する
第15回	カウンセリングと美齢学	学んだ内容を総合的に理解し、美齢学へと展開できる	授業前に美齢学について調べる。授業後にカウンセリングと美齢学の関係を自分で説明する

科目名 Subject	総合ブライダル学 General Study of Bridal Ceremony		教員名	青木 和子 佐藤 美奈子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	◎	◎
科目の概要	日本の婚礼は伝統的、民族的背景を持ち、地方の風習や影響を受けながら形成されてきました。ここでは、多様化する現代のブライダルの状況をふまえ、基礎知識と時代のニーズに則したブライダルのスタイルを幅広く総合的に学びます。欧米やアジアとの婚礼の違い、人生の中で最も輝く日の演出、現代の流行を意識した花嫁姿など婚礼の成り立ちや美容との関連性を理解することで、健康者・高齢者を問わないブライダルの非日常的要素の高い場面を具体的にイメージできる力を養います。				
授業の目標	婚礼（ウエディング、ブライダル）への漠然としたイメージを業務内容や形式を通し細分化して学ぶことで、ウエディング、ブライダルをより明確に把握し、婚礼の意義や美容との関わりを理解することができる。また将来婚礼業務に関わることを想定し、接客のマナーやホスピタリティを自然に身に付け、適齢期から高齢化した婚礼においても美容の視点でお客様のための建設的な企画提案ができるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習・復習／テキストの黙読・SNS等の予備知識収集など合わせて15時間程度の予習復習補習／アシスタントブライダルコーディネーター検定のための事前勉強1回、検定1回				
教科書・教材	教科書	テキスト有			
	教材	テキストおよび、他プリントなど必要に応じて配布			
	使用設備・備品	筆記用具、ipad、総合ブライダル学専用のノートを用意すること			
	参考文献				
評価方法	筆記試験 60% レポート 30% 授業態度 10%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	課外「ブライダルビューティアカデミー」の受講者は本科目を必ず選択、履修してください。またABC検定を受験することが前提です。(試験料別途)				
本科目履修と 関連する資格	資格名	①アシスタントブライダルコーディネーター（任意） ②ブライダルアーティスト（課外授業とリンク） ③パーソナルカラーアドバイザー（課外授業とリンク）			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション (日本の結婚式の歴史と婚礼ビジネスを学ぶ)	結婚式の歴史を確認。婚礼に関わる業務のチームワークを知る	
第2回	ウエディングのスタイル① 日本の婚礼形式とその装い	神前式の形式とその意味を知り、その装いを理解する	テキストを一読してくる
第3回	ウエディングのスタイル② 欧米の婚礼形式とその装い	キリスト教婚礼の形式を知り、その装いを理解する	テキストを一読してくる
第4回	ブライダルのトレンド	ブライダルのトレンドについて、ホテルブライダルの美容を軸に考える	雑誌などで自分の好きなトレンドを探して写メしてくる
第5回	パーソナルカラーベーシック1 (色彩の基本)	色の組み合わせを学び、似合う色を理解できるようになる	
第6回	パーソナルカラーベーシック2 (パーソナルカラーシステム)	お客様に似合う色を選べるようになる	自分の似合う色を意識したメイクや服装をした画像を撮る
第7回	ブライダルのキャリア	就職に向けたブライダル業界の最新情報を知る	ブライダル業界の会社を数社ピックアップしておく
第8回	フォーマルファッション ブライドとグルームの装い	ファッションを軸に、ウエディングドレスやメンズのコーディネイトを理解する	洋装、和装の新婦の画像をみつめてくる
第9回	アジアブライダルサミット	アジアの婚礼を通して、伝統文化と婚礼のつながりを考える	自国の婚礼とアジアの関連をレポートする
第10回	結納とプランニング	挙式のプランニングができるようになる	
第11回	レセプションの企画	コーディネイターになってレセプションを企画してみる	前回の授業を活かし、自分なりのウエディングスタイルをイメージしてくる
第12回	ブライダルの専門用語	ブライダルに関わる知識を学び専門用語を理解する	接客用語で会話をしてみる
第13回	ABC検定対策	ABC検定受験によりのための練習問題を通しブライダルに関する知識力をつける	配布されたプリント問題を解き、理解していない箇所は復習する
第14回	テキスト総まとめ	知識として理論的に全体を確認する	テキストを熟読してくる
第15回	まとめ	婚礼を知識として理解できたかどうかを総合的に確認する。	テキストだけではなく、授業内で出たワードについても復習して臨むこと

科目名 Subject	グローバルエステティック研究 Global Esthetics Research		教員名	エステチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	4
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	120
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>より高度なフェイシャル、ネイル、メイク、ボディ、wax脱毛の実技、理論を身に付ける。また、高齢者を含む様々な年齢、肌質、体質のモデルにあわせたトリートメントプランを完成させ、アフターアドバイスも含めて実行する。 CIDESCO 1次 筆記試験、2次 実技試験の合格を目標とする。</p>				
授業の目標	<p>本科目を履修することにより、プロのエスティシャンとしての知識、技術力、カウンセリング力を養える。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習する。実技授業のほか、栄養学・解剖生理学・皮膚科学・化粧品学・運動生理学など常に復習し理解しておくこと。</p>				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト			
	教材	ボディ用教材・フェイシャル用教材			
	使用設備・備品	全身美容実習室・フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	<p>平常点 20% (小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む) 試験 80%</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>1 学年次の成績、生活態度を加味したうえで履修者が決定する選抜クラスです。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック業協会 (AEA) 上級エスティシャン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	研究レポート作成について	研究レポート作成の注意すべき点を理解し、的確なケースヒストリー作成方法を学ぶ。	様々なケースヒストリーに答えられるよう皮膚科学、解剖生理学を復習する(60分)
第2回	研究レポート作成について	研究レポート作成の注意すべき点を理解し、的確なケースヒストリー作成方法を学ぶ。	不得意な個所を次回の授業までに明確にする(60分)
第3回	ケースヒストリー対策	高齢者を含む年齢や職業のケースに合わせ、目的に合致する施術を選択できる	ジェロントロジーを復習する(60分)
第4回	ケースヒストリー対策	高齢者を含む年齢や職業のケースに合わせ、目的に合致する施術を選択できる	ジェロントロジーを復習する(60分)
第5回	エステティック国際資格概論	エステティックの日本国内外の資格について理解できる	教科書のエステティック概論を読んで理解する(60分)
第6回	ボディ実技機器理論	国内資格と国際資格に必要なボディ機器の効果利点禁忌事項等を理解できる	今まで学んだ電気機器の教科書プリントを読み、再度理解を深める(60分)
第7回	ボディ実技機器練習	国内資格と国際資格に必要なボディ機器の正しい操作を理解できるようになる	今まで学んだ電気機器の教科書プリントを読み、再度理解を深める(60分)
第8回	ボディ実技機器練習	国内資格と国際資格に必要なボディ機器の正しい操作を理解できるようになる	今まで学んだ電気機器の教科書プリントを読み、再度理解を深める(60分)
第9回	ボディプレトリートメントの種類と特徴	プレヒートトリートメントがどのような種類があるか等理解できる	解剖生理と栄養学・運動学を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく(60分)
第10回	ボディプレトリートメントの種類と特徴、効果	プレヒートトリートメントの効果を理解し正しく選択できるようになる	現在まで行ったことのあるプレヒートトリートメントについてまとめてくる(60分)
第11回	体型診断について	骨格と姿勢について学びそれぞれの特徴を理解できるようになる	解剖生理と運動学を復習しておく(60分)
第12回	体型診断とボディ施術	骨格と姿勢についての繋がりを理解し正しいボディ施術を選択できる	前回の学習をメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく(60分)
第13回	ワックス実技理論	ウォームワックスとホットワックスの違いを知り、説明できる	ウォームワックスについてまとめ、注意点なども正しく述べられるようにしておく(60分)
第14回	ホットワックス実技	ホットワックスの準備からアフターケアまで手順を理解できる	ホットワックスとウォームワックスの違いをまとめてくる(60分)
第15回	ホットワックス実技	ホットワックスの準備からアフターケアまでスムーズに時間内で行うことができる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えてくる(60分)



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	フェイシャル実技機器理論	国内資格と国際資格に必要なフェイシャル機器の効果利点禁忌事項等を理解する	今までに使用した機器を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第17回	フェイシャル実技機器練習	国内資格と国際資格に必要なフェイシャル機器の正しい操作を理解する	今までに使用した機器を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第18回	フェイシャル実技機器練習	国内資格と国際資格に必要なフェイシャル機器の正しい操作を理解する	今までに使用した機器を復習しメニュー組み立てを正しく選択し、施術できるようにしておく
第19回	フェイシャル低周波の特徴	様々なEMSの種類と仕組みを理解する	電気機器学の教科書を復習し理解できるようにしておく
第20回	フェイシャル低周波実技	EMSを正しく動作しスムーズに動作させることができる	顔の筋肉の場所を働きを把握しておく
第21回	フェイシャル低周波実技	EMSを効果的にスムーズに動作させることができる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第22回	フェイシャル診断について	肌状態について学びそれぞれの特徴を理解する	教科書の皮膚科学の箇所を復習しておく
第23回	フェイシャル診断と施術	肌状態について学びそれぞれの特徴を理解し正しいコースを施術できる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第24回	フェイシャル診断のための機器理論	肌状態とその原因を追究する機器について理解し正しい判断を行える	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第25回	フェイシャル診断のための機器理論とカウンセリング	肌診断機器について理解し正しいカウンセリングを実施する	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第26回	フェイシャル圧出方法	コメドの圧出方法を学び肌負担のないやり方を理解する	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第27回	まつげのティンティング理論	日本におけるまつげ染めの職業上の禁忌と理論を学ぶ。	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第28回	まつげのティンティング理論と実技	染料を用いることなく正しい手順を学び理解する	できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第29回	まつげのティンティング実技	染料を用いることなく正しい手順を学び時間内にスムーズに施術する	できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第30回	まつげのティンティングと眉毛の整え方	時間内にスムーズに施術すし、眉毛を整えることもできる。	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	フェイシャル復習1	外部モデルに対するお通しから施術終了までの時間配分を理解する	お通しから最後まで流れを確認しモデルへの事前連絡を行う
第32回	フェイシャル復習2	外部モデルにカウンセリングを行い正しい組み立てを行い、機器を選択できる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第33回	ビューティーセラピー理論 (自然科学)	元素、化合物および混合物について理解する	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第34回	フェイシャル復習3	外部モデルへの施術内容および注意点等を第3者に説明しスムーズに行うことができる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第35回	フェイシャル復習4	外部モデルに対して時間内にお通しからアフターケアアドバイスまで行うことができる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第36回	ビューティーセラピー理論 (自然科学)	電気が体に与える影響を学び正しく理解し、記述できる	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第37回	ボディ復習1	外部モデルに対するお通しから施術終了までの時間配分を理解する	お通しから最後まで流れを確認しモデルへの事前連絡を行う
第38回	ボディ復習2	外部モデルにカウンセリングを行い正しい組み立てを行い、機器を選択できる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第39回	ビューティーセラピー理論 (生理解剖学)	細胞と組織について学び、設問に対し正しい記述ができる	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第40回	ボディ復習3	外部モデルへの施術内容および注意点等を第3者に説明しスムーズに行うことができる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第41回	ボディ復習4	外部モデルに対して時間内にお通しからアフターケアアドバイスまで行うことができる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第42回	ビューティーセラピー理論 (生理解剖学)	代謝について学び設問に対し正しい記述ができる	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第43回	フェイシャル復習5	外部モデル施術における口頭試問へ正確に答えられる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第44回	フェイシャル復習6	外部モデル施術における口頭試問へ正確に答えられ時間内に施術が終われる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第45回	ビューティーセラピー理論 (生理解剖学)	筋肉について学び設問に対し正しい記述ができる	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第46回	ボディ復習5	外部モデル施術における口頭試問へ正確に答えられる	
第47回	ボディ復習6	外部モデル施術における口頭試問へ正確に答えられ時間内に施術が終われる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第48回	ビューティーセラピー理論 (皮膚・皮膚科学)	皮膚の構造、役割を理解し、設問に正確に答えられる	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第49回	ビューティーセラピー理論 (衛生と救急法)	公衆衛生の歴史を理解する	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第50回	ビューティーセラピー理論 (衛生と救急法)	微生物学・細菌学・消毒法を正しく理解し設問に正確に答えられる	事前資料による予習。できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第51回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習1		モデルへの誘導、ケア、エステ実技理論の復習を行う。
第52回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習2	外部モデルに対して規定時間内に正確に実技を行えるようにする。	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第53回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習3	外部モデルに対して規定時間内に正確に実技を行えるようにする。	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第54回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習4	外部モデルに対して規定時間内に正確に実技を行えるようにする。	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第55回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習5	外部モデルに対してホスピタリティを忘れず規定時間内に正確に実技を行える	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第56回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習6	外部モデルに対してホスピタリティを忘れず規定時間内に正確に実技を行える	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第57回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習7	口頭試問に正確に答えられ規定時間内に実技を行えアフターケアも伝達できる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第58回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習8	口頭試問に正確に答えられ規定時間内に実技を行えアフターケアも伝達できる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第59回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習9	正確に状況を把握し、口頭試問に正確にこたえられ、時間内に終了できる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。
第60回	実技試験(ボディ、フェイシャル実技・ネイル・メイク・wax) 対策練習10	正確に状況を把握し、口頭試問に正確にこたえられ、時間内に終了できる	前回できなかった箇所について確認し、改善策を考えて終了後講義内容を自宅で復習。